

# 徳島県立博物館年報

第31号（令和3年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum  
No. 31 (for the fiscal year of 2021)

# 目次

徳島県立博物館の使命	2	2. テレビ・ラジオへの出演等	40
<b>I 展示</b>		3. インターネットによる情報提供	41
1. 常設展	4	4. 外部ネットワークとの連携	43
2. 企画展	10	5. 情報システムの概要	43
3. 特別陳列	12	6. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策	44
4. 館外での展示	13	<b>VI 県民協働・参画</b>	
5. 常設展の更新及び活性化に向けての 取り組み	14	1. 博物館友の会	45
6. 展示関係出版物	17	2. 公募ボランティア	46
<b>II 普及教育</b>		3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進	47
1. 普及行事	18	<b>VII シンクタンクとしての社会貢献</b>	
2. 学校教育支援事業	21	1. レファレンス業務	49
3. 普及教育関係出版物	23	2. 各種委員会委員等の受諾	49
<b>III 調査研究</b>		3. 講師の派遣	51
1. 課題調査	25	4. 大学教育への寄与	52
2. 日本最古級恐竜化石含有層 調査・発信プロジェクト	25	5. 学会・研究会等の運営への寄与	53
3. 分野別（個別）調査研究	27	6. 博物館ネットワーク	53
4. 分野別（個別）調査研究等の館内 公表会（セミナー）	29	<b>VIII 管理運営・マネジメント</b>	
5. 科学研究費補助金等による研究	29	1. 組織・職員	55
6. 他機関との共同研究	29	2. 予算	55
7. 研究成果の公表	30	3. 文化の森の連携事業	56
<b>IV 資料の収集・保存と活用</b>		4. 防災及び危機管理	56
1. 採集資料	33	5. ユニバーサル化への取り組み	56
2. 購入資料	33	6. 博物館協議会	57
3. 寄贈資料	34	7. 各種研修会への参加	57
4. 寄託資料	34	8. 視察等博物館関係来訪者	57
5. 資料の貸し出し	35	<b>IX 中期活動目標と自己評価</b>	
6. 写真・映像の提供	35	1. 中期活動目標	58
7. 資料の提供	36	2. 令和3年度実績と自己評価	66
8. 資料の交換	36	<b>X 観覧者等統計</b>	82
9. 館蔵資料数	36	<b>XI 施設の概要</b>	
10. 資料収集委員会	36	1. 沿革	89
11. 文献資料の収集	36	2. 施設の概要	90
12. 資料の保存	37	3. 博物館各室面積	92
<b>V 情報の発信と公開</b>		<b>XII 例規</b>	94
1. 博物館の広報活動	40		

# 徳島県立博物館の使命

## 徳島の自然・歴史・文化の宝箱

—だれもがつどえ、楽しく学べる博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動していきます。

### 知

#### 知と出会う博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化についての多様な資料やタイムリーな情報で、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

### 探

#### 地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化について、県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけ発信します。

### 伝

#### 未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化についての資料を、県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

### 連

#### つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館

博物館は、県民のみなさんと連携し、だれもがつどえる地域の拠点を目指します。

博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。



徳島の自然・歴史・文化の宝箱  
—県民とともに成長する博物館—

「徳島県立博物館の使命」における要素間の関係

#### 使命と事業の関係

- 1 知 知と出会う博物館
  - (1) 展示
  - (2) 普及教育
- 2 探 地域の魅力を探る博物館
  - (1) 調査研究
- 3 伝 未来にまもり伝える博物館
  - (1) 資料の収集・保存と活用
- 4 連 つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館
  - (1) 情報の発信と公開
  - (2) 県民協働・参画
  - (3) シンクタンクとしての社会貢献
- 5 使命の実現に向けての効率的な運営
  - (1) 管理運営・マネジメント

本文における事業の配列は、この構成にもとづいたものである。

# I 展 示

博物館の展示は、常設展と企画展から成る。

常設展については、平成2年の開館以来初の全面リニューアルを行い、令和3年8月9日より公開している。

リニューアルした常設展は、「徳島まるづかみー“いのち”と“とき”のモノ語りー」をコンセプトとし、徳島の自然と歴史・文化を概観できるようにしている。また、生命の歴史や生物の多様性のテーマ・資料を深く理解できるようにしている。部分的な展示替えや資料の入れ替えを随時行っているが、基本的な展示構成を定めて運用している。なお、展示資料点数は6,026点（3年8月9日時点）であり、旧常設展4,137点（平成2年11月3日時点）のおよそ1.5倍となっている。

新常設展の特徴は次の4点である。

- ①実物資料との出会い：最新の調査研究や資料収集の成果を踏まえ、徳島の自然と歴史・文化を見て、触れて感じることができる展示
- ②先端技術を活用した体験：AR、VRや高精細映像を活用した体験型展示
- ③誰もが楽しめる場所：多言語解説や、音声・手話解説等に対応するアプリ、さらに多機能解説設備を用いて、誰もが快適に利用できる展示
- ④地域の交流拠点：レファレンス機能の充実や、県民の調査研究成果の発信を通して、県民とのつながりを大切にする展示

なお、常設展リニューアルの実現のため、次のような事業を展開してきた。

平成26年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「みんなで創るユニバーサルミュージアム事業」を実施し（年報24号参照）、その成果に基づいて、27年度には文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として常設展示室の部分的な改装を行った（年報25号参照）。

29年度からは、リニューアルに向けての検討を本格化させた。「未来創造！博物館新常設展構築事業推進タスクフォース」を設置して新常設展のあり方について、外部委員とともに検討を行った。また、新常設展基本計画案を作成し、「未来の博物館を考える検討委員会」において外部委員を交えた検討を行った。

30年度は、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」を開催し、公募した県民等と意見交換を行うなど、29年度に引き続き、リニューアルに向けての検討を進めた。7月には「徳島県立博物館新常設展基本構想」を策定し、9月には新常設展設計事業業務委託プロポーザルを行った。その結果、株式会社乃村工藝社と契約を結び、10月から新常設展の基本設計業務に取り組み、3月末には基本設計図書が納品された。

令和元年度は、4月から10月までの間、実施設計業務に取り組み、10月には実施設計図書が納品された。12月には展示製作に係る入札を行い、株式会社乃村工藝社が落札した。3月、県議会での承認を得て、同社と契約を締結し、展示構築業務を開始した。

2年8月31日から常設展示室を閉室して、展示製作を実施し、3年7月に業務を完了した。細部の調整を経て8月9日に公開を開始した。

次に企画展については、専用の企画展示室を使って開催している。学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりのある資料の展示など、様々なテーマを織り交ぜ、3年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組みとともに、外部資金の獲得、民間との連携等予算獲得の工夫をしている。

3年度は常設展示室の閉室後、常設展関係資料等の仮収蔵場所として企画展示室を使用する必要があったため、上半期は企画展示室での展示ができなかった。

その他特筆すべきこととして、2年度に続いて新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、4月29日～5月5日の間、臨時休館とした。

また、展示室内での感染症対策に取り組んだ。受付カウンターにアクリル製パーティション、展示室入口に非接触型検温器と消毒用アルコール等の設置し、職員等のマスク着用、手指消毒の徹底等の対策を行った。来館者に対しては、マスクの着用、手指消毒、検温、入場制限、常設展の来館予約、ソーシャルディスタンスの徹底、来館者が共有する機材等のこまめな消毒等、展示室内での各種対策への協力をお願いした。

## 1. 常設展

リニューアルのため、令和2年8月31日から3年8月8日まで閉室した。その間、新常設展の展示製作を進め、3年7月末には展示製作を完了し、8月9日、新常設展の公開を開始した。

### (1) 常設展の構成

常設展は、「徳島まるづかみー“いのち”と“とき”のモノ語りー」をコンセプトとして、徳島セクション、コレクションセクション、地球セクションの3セクションを中心に構成している。また、エントランスに位置するロビーゾーン、コミュニケーションゾーンや、各セクションをつなぐミュージアムストリートでも展示を行っている。

#### ●ロビーゾーン

常設展の導入展示として、徳島を象徴する資料を紹介している。

- ・徳島まるづかみコレクション
- ・こどもゆさん

#### ●コミュニケーションゾーン

博物館と利用者、利用者同士の対話、交流のための

多目的スペース。学芸員の活動紹介展示、展示案内映像等を設置する。

#### ●ミュージアムストリート

観覧者が自由に動線を選択できるよう、各コーナーをつなぐ展示を兼ねた回廊型のスペース。

#### ●徳島セクション

常設展のコンセプトである「徳島まるづかみ」の中核を成すセクションで、徳島の自然と歴史・文化を概観できるよう、次の8つの大テーマに沿って展示を展開している。

1. 徳島恐竜コレクション
2. 地質時代の徳島
3. 先史・古代の徳島
4. 中世の徳島
5. 近世の徳島
6. 近現代の徳島
7. 徳島のまつりと芸能
8. 徳島の自然とくらし

#### ●コレクションセクション

自然史コレクションと歴史・文化コレクションでは、テーマと期間を決めて資料を公開している。また、県民コレクションでは、県民等の自主的な学びや地域活



グランドオープンチラシ表面



グランドオープンチラシ裏面

# 財点を變ふよ。

ああ、なんて美しいだろう。  
この金属光沢を見た時、いつも  
そう思うのです。なぜ、これほど  
目を惹く色彩を纏っていると  
思いますか。彼らが  
生息するのは日差し  
の強い熱帯地域。  
そのなかで、光を  
反射して敵から目立  
たないようにするため  
なのです。自然界を生き  
抜く術ですね。世界には  
地味な昆虫もいれば、  
不思議な造形をした  
昆虫もあります。その  
全てに意味がある。  
色姿形に「なぜ？」と  
疑問を持つこと。そこ  
に、モノを見る意義  
があると思うのです。

視点を 変えると、新しいモノ語りが見えてくる。

モノ語りに、  
体温を。

学芸員の体温をそえてお伝えします。  
**徳島県立博物館**

徳島県立博物館の  
詳しい情報はこちら



# 財点を變ふよ。

ほんとうに感心します、江戸時代の職人技には、徳島藩の御用絵師、  
谷田忠兵衛が考案したとされるこの谷田時絵に施された、金箔をまだら  
につける技法「金こがし」がまさにそう。日本漆芸史上高く評価されている  
技法で、美しさは唯一無二。ただこの金こがし、現代では再現でき  
ない“失われた技術”なのです。それを知って改めて漆器  
を見ると、深い価値を感じませんか。技に目を  
向けてモノを見ると、また違う  
楽しみ方もできるの  
です。

視点を 変えると、新しいモノ語りが見えてくる。

モノ語りに、  
体温を。

学芸員の体温をそえてお伝えします。  
**徳島県立博物館**

徳島県立博物館の  
詳しい情報はこちら



# 財点を變ふよ。

目を凝らしてください、模様  
の隙間に残る赤い粒子に。  
銅鐸は本来、黄金色です  
がこの銅鐸には硫化水銀  
でできた朱が塗られて  
いたのです。そう、この  
銅鐸は全国的にも希少  
な朱塗りの銅鐸。弥生  
時代、朱の原料となる  
鉱物を採掘していた  
遺跡が確認されて  
いるのは、今のところ  
徳島だけなのですが、  
銅鐸がなぜ赤彩され  
たのかは解明されてい  
ません。弥生の精華「銅鐸」  
と、弥生~古墳時代の首長の  
埋葬施設にも使用された「朱」  
には、とても深いストーリー  
が隠れているはずです。

視点を 変えると、新しいモノ語りが見えてくる。

モノ語りに、  
体温を。

学芸員の体温をそえてお伝えします。  
**徳島県立博物館**

徳島県立博物館の  
詳しい情報はこちら



# 財点を變ふよ。

なんとも美しい幾何学模様。実はこれ、恐竜時代に生きていたアンモナイト  
の化石なのです。表面の殻を  
めくると現れるのが、縫合線と  
言われるこの模様で、種  
によって形はさまざま。  
さらに、時代が進  
むほど模様が多  
重になっていく  
のです。なぜ  
かって？真相は解明  
されてい  
ませんが、  
そこがま  
た面白い。  
未知に向き  
合い、真相  
を発見してい  
くことがモノを  
見る楽しさでも  
あると思うのです。

視点を 変えると、新しいモノ語りが見えてくる。

モノ語りに、  
体温を。

学芸員の体温をそえてお伝えします。  
**徳島県立博物館**

徳島県立博物館の  
詳しい情報はこちら



常設展リニューアルにあたり新たに作成したポスター（4種類）

## 6 展示

動を支えるため、県民との協働による各種事業成果にもとづき、展示している。

9. 自然史コレクション
10. 歴史・文化コレクション
11. 県民コレクション

### ●地球セクション

化石と岩石から見た地球と生命の歴史、現在の地球で見られる多様な生物を展示している。

12. 地球と生命の歴史
13. 生物の多様性

### (2) コレクションセクションの展示替え

テーマと期間を決め、各分野の収蔵資料等により、計画的に展示替えを行っている。常設展全面リニューアル後は、これまでよりフレキシブルな展示室の運用を進めている。

#### ①自然史コレクション

##### ●ミニ鉱物展

8月9日（月・祝）～2月27日（日）

展示資料数 77点（館蔵資料 77点）

展示解説シート等 なし

館蔵鉱物標本のうち、とくにみごとに色や形の標本を厳選して展示し、鉱物がもっている多様さやおもしろさの一端を紹介した。

##### ●アンモナイトの世界

3月1日（火）～4年度（7月24日（日））

展示資料数 65点（館蔵資料 47点）

展示解説シート等 あり

国内外の古生代および中生代のアンモナイト類の化石を展示し、アンモナイト類の進化について紹介した。

#### ②歴史・文化コレクション

##### ●阿波のやまと絵師 守住貫魚

8月9日（月・祝）～11月14日（日）

展示資料数 57点（館蔵資料 57点）

展示解説シート等 あり

江戸のおわりから明治にかけて活躍した阿波出身のやまと絵師守住貫魚について、古文書、絵画作品、スケッチ、収集物などにより紹介した。

##### ●名所図会でめぐる江戸時代

11月16日（火）～1月23日（日）

展示資料点数 65点（館蔵資料 65点）

展示解説シート等 あり

阿波名所図会や淡路国名所図絵などの実物資料とともに、阿波名所図会に描かれた挿絵と現在の写真を比較しながら紹介した。さらに、三都（京都・大坂・江戸）の名所図会を取り上げ、阿波とのつながりに注目した。

##### ●盾持人“里帰り”記念 前山遺跡出土埴輪展

1月25日（火）～3月13日（日）

展示資料数 50点（館蔵資料 49点）

展示解説シート等 あり

京都国立博物館が所蔵する盾持人埴輪をはじめ、小松島市前山遺跡出土埴輪を一堂に展示した。



歴史・文化コレクション「阿波のやまと絵師 守住貫魚」



自然史コレクション「ミニ鉱物展」



歴史・文化コレクション「盾持人“里帰り”記念  
前山遺跡出土埴輪展」

●太布一樹皮から布をつくる手仕事一

3月15日(火)～4年度(7月18日(月・祝))

展示資料数47点(館蔵資料18点)

展示解説シート等 あり

かつて製作された太布や太布製品、太布の製造用具、製造技術を中心に、阿波太布製造技法保存伝承会と協働で展示した。

③県民コレクション

●徳島漂着物コレクション

8月9日(月)～3月27日(日)

展示資料数：200点(館蔵資料10点)

出品者：とくしま海の観察会

展示解説シート等 なし

とくしま海の観察会と協力し、15年以上にわたって行ってきた県内の漂着物調査の成果をわかりやすく紹介した。

●みんなで調べた徳島のタンポポ

3月29日(月)～4年度(7月10日(日))

展示資料数：12点(館蔵資料12点)

展示解説シート等 なし

県民と協力して、10年間にわたって実施してきた「タンポポ調査」の成果からわかったことや、タンポポから見た徳島の自然環境を紹介した。

(3) コミュニケーションゾーンでの小展示

3年度は、学芸員による活動紹介やトピック紹介を目的として、学芸員活動紹介コーナーでは、下表のと

おり展示を行った。

(4) 徳島セクション・地球セクション等での展示替え

基本的な展示構成を定めて運用している「徳島セクション」、「地球セクション」等でも、随時展示替え、資料の入れ替えを行っている。3年度は次の展示替え等を行った。

●徳島恐竜コレクション

3月16日(水)～4年度(7月3日(日))

展示資料：竜脚類の歯 1点(館蔵資料1点)

県内の化石愛好家が採集し、博物館に寄贈した恐竜の歯化石を展示した。



県民コレクション「徳島漂着物コレクション」列品の様子

コミュニケーションゾーンでの小展示

展示期間	タイトル	展示資料等点数		
		資料	パネル	映像
8月9日(月) ～10月3日(日)	徳島の銅鐸の世界 展示の背景	2	4	
	地下や洞窟にすむ甲虫たち	7	4	
	地中をうごめく未確認生物たち－徳島に生息するミミズハゼの仲間－	4		1
10月5日(火) ～12月5日(日)	桶 V.S. 樽	1	3	1
	なにが描かれているかな(兼好法師絵巻と柿本人麿図)		4	
	一緒に調べましょうー市民との共同調査・普及活動の紹介ー		4	
12月7日(火) ～2月6日(日)	四国遍路は、なぜ「遍路」というのか？		4	
	地層と化石		4	
	自然を楽しもう	1	4	
2月8日(火) ～4年度(4月3日(日))	北海道でアンモナイトを採集する！		4	
	祖谷の畑	2	4	
	さわって楽しむ考古学		2	
	古文書を読み解くおもしろさ		2	





ツルギサンゴガイ

# 徳島まるづかみ



リュウノイワヤツマメハネカクシ

## 徳島ってどんなところ？

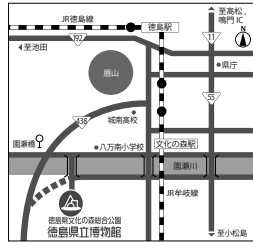
常設展では、「徳島まるづかみ! -「いのち」と「とき」のモノ語り-」をテーマに、豊富な資料や映像コンテンツを用いて、徳島の自然と歴史・文化を総合的に紹介しています。

あなたも、徳島の魅力や特色を「まるづかみ」してください。

### 利用案内

- 開館時間 午前9時30分～午後5時
- 休館日 毎週月曜日(祝日または振替休日のときはその翌日)  
年末年始(12月29日～1月4日)  
※展示替えなど、必要に応じて休館することがあります。
- 常設展観覧料 (カッコ内は20名以上の団体料金)  
一般 400円 (320円)  
高校・大学生 200円 (160円)  
小・中学生 100円 (80円)  
※祝日・振替休日の観覧料は無料です。  
※学校教育での利用および土曜・日曜・長期休業日の高校生以下の観覧料は無料です。  
※身体障がい・車手帳、療育手帳、精神障がい・療育手帳をお持ちの方及びその介助の方との観覧料は無料です(証明できるものを提示ください)。  
※高齢者(65歳以上)の方は無料です(証明できるものを提示ください)。  
※企画展観覧料は、別に定めます。ご不明の際は、受付までお尋ねください。

### アクセス



- 徳島から バス…約25分/タクシー…約15分
- 文化の森から 徒歩…約35分
- 徳島自動車道「徳島IC」から 車…約20分  
※無料駐車場があります



文化の森総合公園  
**徳島県立博物館**  
〒770-8070 徳島県徳島市八町向山寺  
TEL:088-668-3636 / FAX:088-668-7197  
https://museum.bunmoritokushima.jp



# 徳島県立博物館

Tokushima Prefectural Museum

## 常設展示案内



**眉山から見た徳島大空襲後の徳島市街**  
1945年(昭和20)7月4日の徳島大空襲により、徳島市街の約60%が焼け野原になりました。



**近世の徳島**  
江戸時代の阿波国の歴史を中心に紹介しています。とくに、徳島藩や阿波藍、西国通商、刀剣などに関する資料を展示しています。

**中世の徳島**  
平安時代後期～戦国時代の阿波の歴史について、板碑や古文書などを通じて紹介しています。

**先史・古代の徳島**  
旧石器時代から平安時代までの社会と暮らしを紹介しています。銅鐸や埴輪といった多様な資料を展示しています。

**徳島のまわりと芸能**  
阿波人形浄瑠璃、阿波踊り、神社でのまわりに関する資料を紹介しています。

### ナカガワノクワ

高瀬川の美しい自然が育んだキノコの仲間、世界中でそこから見られません。

**徳島の自然と暮らし**  
徳島県では気温や降水量など、地域によって環境が異なっています。そこにすむ生きものや自然を利用した人のくらしも多様です。

### 地球と生命の歴史

約46億年前、地球が誕生し、そして、生命が生まれました。長い時をかけて、生物はさまざまな姿に進化してきました。岩石や化石を通して、地球と生命の歴史を紹介しています。

### 生物の多様性

現在の地球で見られる多種多様な生物の標本を展示しています。また、自然環境の変化にもない、地球上の生物の多様性が失われつつあることも紹介しています。

**ゴライアストリパネアガハ?**  
世界を代表する大型の美しいチョウです。オスの翼はきわめて美麗ですが、メスは地味です。

### 地質時代の徳島

徳島は、ほぼ東西方向に、時代やき方の異なる岩石や地層が帯状に並んでいます。ここでは、徳島をはじめ西国の地質や化石について紹介しています。

### 徳島恐竜コレクション

羽ノ浦丘陵や勝浦川盆地周辺などには、白亜紀の地層が分布しています。これらの地層から産出した恐竜をはじめとする、さまざまな動物の化石を紹介しています。

**プラビトセラス**  
鳴門市の白亜紀の地層から発見された。骨のほどこけたアンモナイトです。

**マラウイサウルス**  
長い首と尻尾をもつ植物食恐竜です。勝浦川から発見された。脚の肉の持ちまもこのような姿をしていました。

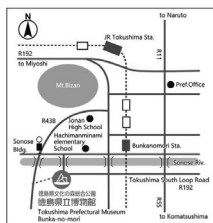
# TOKUSHIMA PREFECTURAL MUSEUM

## 徳島県立博物館

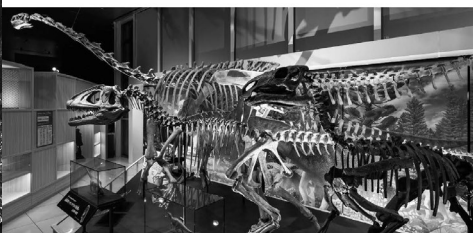
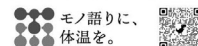


### INFORMATION

- Hours  
9:30am - 5:00pm
- Closed Days  
Every Monday (If a holiday falls on Monday, we are closed the following day).  
The New Year Holidays (12/29-1/4)
- Admission Fees  
(inside the parenthesis indicates group discount prices of 20 or more individuals)  
General admission: 400yen (320yen)  
High School / College students: 200yen (160yen)  
Elementary / Middle School students: 100yen (80yen)
- Directions  
25 min. by bus from JR Tokushima Station.  
15 min. by taxi from JR Tokushima Station.  
35 min. walk from JR Bunkanonori Station.  
20 min. by car from Tokushima I.C. of the Tokushima Expressway.  
Free parking is available.



Bunta-no-Mori Park, Mukoterayama, Hachiman-cho,  
Tokushima 770-8070 JAPAN  
telephone 088-668-3636 facsimile 088-668-7197  
https://museum.bunmon.tokushima.jp



## 徳島まるひかみ

TOKUSHIMA MARUHIKAMI

The museum's permanent exhibition are centered on the theme of "life and time". They comprehensively cover Tokushima's nature, history and culture.



Performance of "Sanbaso" by Puppets

**7 Festivals and Performing Arts in Tokushima**  
Tokushima is blessed with a warm climate and a diverse natural environment. People in Tokushima have supplied many products, such as indigo dye to the all over Japan. Furthermore, the prefecture also had extensive connections with the former political, economic, and cultural centers of "Kina" and "Edo". People incorporated trends from other areas into their own festivals and performing arts, producing and passing on new forms of them, such as the dance called "Awa Odori".

### 6 Modern and Contemporary Times in Tokushima

In modern and contemporary times, or the second half of the 19th century and later, society and the nation's lives changed greatly. Japan fought multiple wars up through the mid-20th century, and their devastation reached Tokushima Prefecture. During recovery from the Pacific War (World War II) and the period of rapid economic growth that followed, as well as up through today, people have worked to lead rich daily lives.



The city of Tokushima after the air raid.

### 5 Early Modern Times in Tokushima

In Japan, early modern times lasted from around the second half of the 16th century to the second half of the 19th century (Azuchi-Momoyama period and Edo period). Throughout early modern times, the Hachisuka clan ruled Awa Province (Tokushima Prefecture). In the Tokushima Domain's territory, many notable local products were produced, including Awa indigo. Also, people increasingly went on trips that were centered on the Shikoku Pilgrimage.



Sample for evaluation of indigo dye called "Teta-kagami"



Standing Eleven-headed Avalokiteshvara

### 4 Middle Ages in Tokushima

During the middle ages, which lasted from the second half of the 11th century to the second half of the 16th century, manors and government-controlled lands were sites of rule and people's daily lives. The imperial court and shogunate ruled over the country, and the warrior class, which had become more powerful, flourished, as did the masses. Buddhism and magical religious beliefs and practices also spread.

### 3 Prehistory and Ancient Times in Tokushima

The museum's prehistoric and ancient exhibitions cover from approximately 20 thousand years ago until the 11th century. They present humans and their lives from when they first came to Tokushima until the emergence of Awa Province (the predecessor of today's Tokushima Prefecture). Over this long period, the natural environment changed, and exchange took place with East Asia, transforming production technologies and social structures.

### 8 Nature and Lifestyles in Tokushima

Tokushima's climate and terrain vary greatly. It has a warm temperate climate in its southern area and a cool temperate climate around the almost two-thousand meter-high Mt. Tsurugisan. Approximately four-fifths of the prefecture is mountainous land. There, one finds much steep terrain with deep valleys. There are also many rivers in the prefecture, such as Yoshinogawa River and Nakagawa River, providing an abundance of water resources. Tokushima's diverse natural environment is host to many living things, and people's daily lives involve the natural environment in a variety of ways.

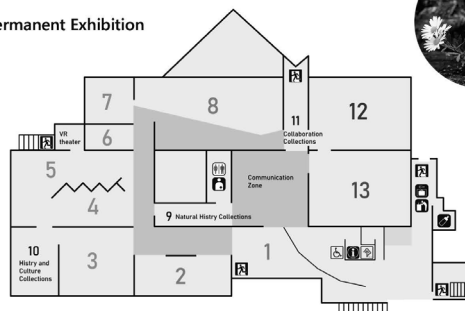


Chrysanthemum yoshinoganthum



Tyrannosaurus rex

### Permanent Exhibition



### 2 Geological Age in Tokushima

In the Shikoku area (Tokushima and other prefectures), the geological structure extends in an east and west direction. The rocks and strata are from different ages and formed in different ways. The foundation of Shikoku is composed of an accretionary wedge, which is a complicated geological body with strata and rock fragments of different kinds. This accretionary wedge is covered by strata from various ages.



Heteromorph ammonite: Pravitoceras sigmoidale



Denchogajahara "Dotaku" No.1

### 12 The History of the Earth and Life

Approximately 4.6 billion years ago, the Earth was born. It is thought that life appeared around 4 to 3.8 billion years ago. Life first emerged in the ocean. For a long time, there were only tiny organisms. However, around 600 million to 550 million years ago, large organisms appeared. Then, around 400 million years ago, they came onto land. Subsequently, they would adapt to various environments and evolve.

### 13 Biodiversity

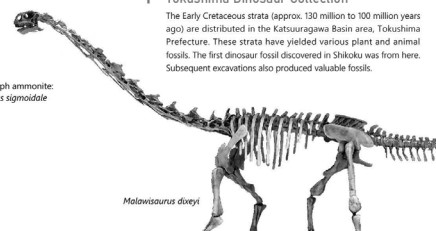
Living things have evolved over an incredibly long period. Today on the Earth, there are more than 16 million species-quite an astounding number. They live while being involved with each other in complicated ways. In the same way, humans enjoy nature's blessings while connecting with other living things. However, due to environmental degradation, the Earth's biodiversity is being lost.



Ornithoptera galioth

### 1 Tokushima Dinosaur Collection

The Earth's Cretaceous strata (approx. 130 million to 100 million years ago) are distributed in the Katsuragawa Basin area, Tokushima Prefecture. These strata have yielded various plant and animal fossils. The first dinosaur fossil discovered in Shikoku was from here. Subsequent excavations also produced valuable fossils.



Malawisaurus divxyi

## ●中世の徳島

10月5日(火)～

仙光寺文書など古文書の入れ替え

絵巻物などの場面替え

1月5日(水)～

絵巻物などの場面替え

## ●近現代の徳島

映像コーナー「近代徳島の人物」の情報を更新した。

8月9日(月)～1月6日(木)

海部ハナ、岡本韋庵、長井長義、鳥居龍蔵、生田花世

1月7日(金)～4年度

久次米兵次郎、芳川顕正、蜂須賀茂韶、喜田貞吉、鳥居きみ子

## ●徳島の自然とくらし

3月1日(火)～

「海とくらし」コーナーで、「小松島市和田島のバッチ網漁としらす・ちりめん加工」映像1点を追加した。

## (5) 博物館ロビー等での小展示

3年度は、2階エントランス、中央ロビー（鳥居龍蔵記念博物館常設展示室前）、多目的活動室等において小規模な展示を行った。定期的な展示ではないが、タイムリーなテーマがあれば実施することになっている。

## ●徳島まるづかみ展 県央編第2期

2年度(12月1日(火))～4月25日(日)

展示資料数 32点

新常設展プレビュー企画として、博物館や博物館資料によって描くことのできる「徳島らしさ」を展示で紹介した。県央編第2期は、県央部の自然と歴史・文化関係資料を中心に、新常設展ロビーゾーン展示のプレビュー企画として開催した。

## ●県立博物館所蔵品特別展示「阿波の刀剣」

2月11日(金・祝)

展示資料数 1点

文化の森ウィンターフェスティバルにおいて、県立二十一世紀館が多目的活動室で開催したワークショップ「日本の古武道“居合”」にあわせ、同室内で刀(銘南海阿国住菊一文字藤原国親作)を展示した。

## 2. 企画展

3年度は、次の1回の企画展を行った。

(1) 企画展「徳島おふだコレクション  
～はらいたまえ きよめたまえ～」

おふだは、神仏の守護によって災厄や病難を、防いだり除いたりすることができると思われているものである。神社や寺院で配布されるほか、かつては修験者や御師と呼ばれる人たちによって家々に配られた。人びとは日々の平穏無事を願い、受け取ったおふだを、家の門や戸口、柱、天井などに置いたり貼り付けたりしてきた。

徳島県内には、受け取ったおふだの数々を、家を守るものとして代々保存していた例が多く見られる。当館には、そうしたおふだが千点近く寄贈され、コレクションを構築しつつある。折しもコロナ禍に見舞われた昨今、館蔵のおふだを一挙公開し、古くから今なお続く、人びとの日常の平穏無事を願う姿を紹介した。

●主催 徳島県立博物館

●期間 令和3年10月15日(金)～11月21日(日)  
(開催日数33日)

●会場 博物館企画展示室

●観覧料 一般200円(65歳以上100円)

高校・大学生100円 小・中学生50円

●観覧者数 3,531人

●展示構成

(1) おふだとは

(2) 徳島市名東町(元庄屋)に残されたおふだ

(3) 鳴門市撫養町(元造り酒屋)に残されたおふだ

(4) 阿波市土成町(元寺子屋?)に残されたおふだ

(5) 発見!こんなものも残っていた!

(6) 現在も見られるおふだ

●展示資料数 423点(館蔵資料422点)

●マスコミによる報道件数 2件



企画展「徳島おふだコレクション」展示解説の様子



●関連行事

展示解説

第1回：10月17日（日）13：30～14：30

参加者：10人

第2回：11月7日（日）13：30～14：30

参加者：22人

3. 特別陳列

(1) 徳島まるづかみ展—コミュニケーションで展示を楽しもう！—

新常設展の目玉となる展示品の一部を一足早く公開するとともに、展示を通してモノについて共に語らう場としての博物館を表現することを試みた。

●主催 徳島県立博物館

●会期 令和3年4月23日（金）から5月30日（日）まで（開催日数26日）

●会場 文化の森多目的活動室（1階）

●観覧料 無料

●観覧者数 1,888人

●展示構成

①徳島まるづかみコレクション

②徳島の自然（徳島の昔の生きもの、徳島の今の生きもの）

③徳島の歴史と文化（徳島の埴輪、徳島の銅鐸、阿波三好氏関連資料、阿波藍、阿波の刀剣）

④新アプリお試し体験（三好長慶デジタルぬり絵、バーチャル鮎釣り他）

⑤県民コレクション・漂着物

⑥リニューアルの軌跡

●展示資料 200点（館蔵資料200点）

●関連行事

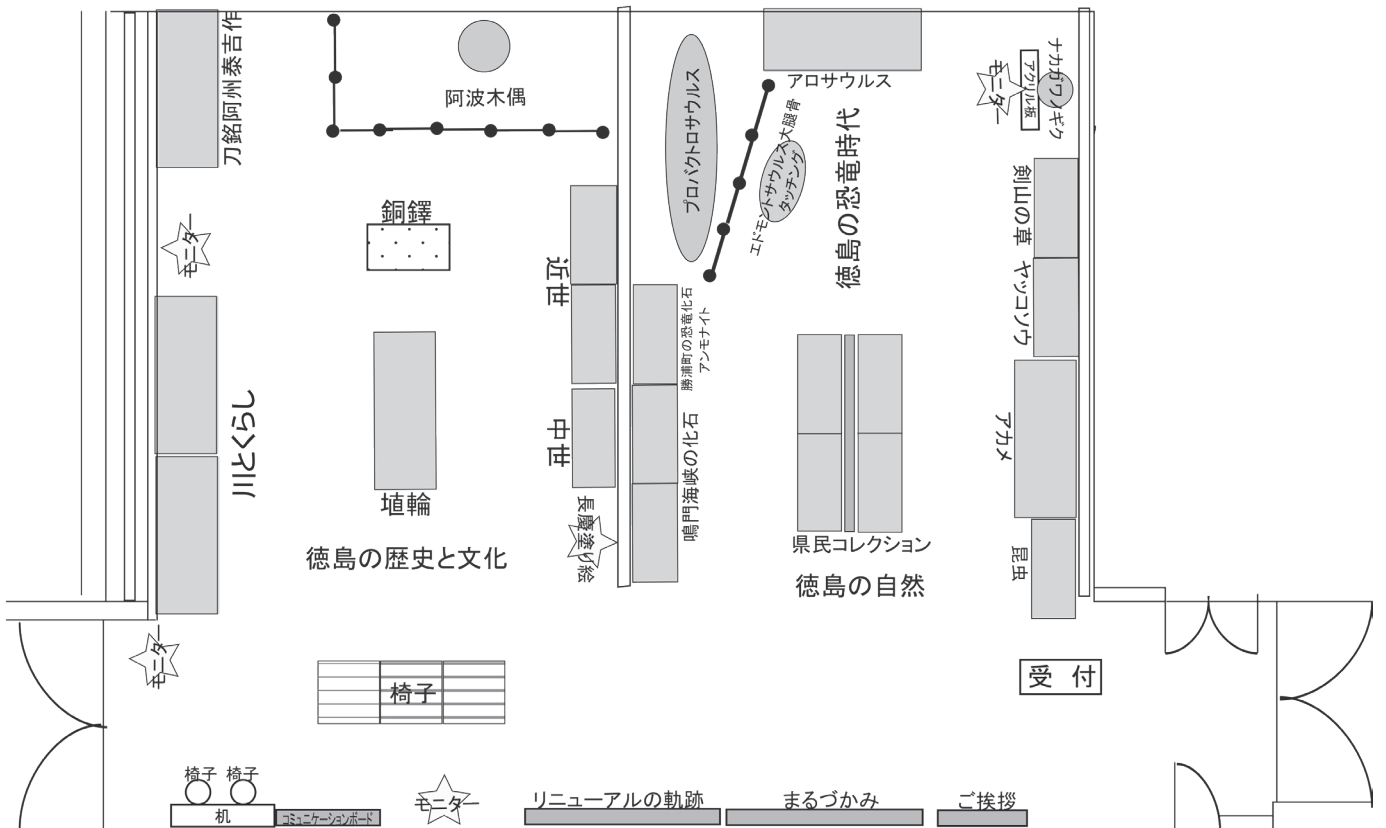
展示解説「展示を楽しむコミュニケーショントーク」

第1回：5月2日（日）14：00～15：00

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休館による



特別陳列「徳島まるづかみ展」の展示の様子



特別陳列「徳島まるづかみ展」の展示配置

0 2m

り中止

第2回：5月23日（日）14：00～15：00

参加者：33人

## (2) 鳥居龍蔵と草原の遊牧王朝 遼

鳥居龍蔵の代表的な研究テーマに、遼の文化がある。遼（916-1125）は、遊牧民の契丹族が建国し、中国東北部・内モンゴルなどを支配した王朝である。遼の文化は、契丹文字や、陶磁器、仏教建築などに象徴されるように、中国の文化と契丹族の文化を融合させた、極めて高度なものであった。

鳥居は、1895（明治28）年に、初めての海外調査として遼東半島を訪れ、仏塔などの遼の文化に接した。その後、1907年以降の中国東北部・内モンゴルの調査を通して、遼の遺跡や遺物に触れ、次第に遼の文化に魅了されてゆく。1929（昭和4）年、東方文化学院東京研究所の研究員となってから、遼の文化を研究の中心に据え、これが後半生のライフワークとなった。そして、1939年にハーバード・燕京研究所に招聘され、研究拠点を北京に移した晩年に、遼の文化の研究をさらに深めていった。

この展示では、鳥居が情熱を注いだ、遼の文化の研

究とその意義を紹介した。

- 主催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・徳島県立博物館
- 期間 2月5日（土）～3月13日（日）  
（開館日数32日）
- 会場 博物館企画展示室
- 観覧料 一般200円（65歳以上100円）  
高校・大学生100円 小・中学生50円
- 観覧者数 783人
- 展示構成
  - 序章 草原への誘い
  - 第1章 草原の遊牧王朝 遼
  - 第2章 中国東北部・内モンゴル調査の始まり
  - 【トピック】鳥居が収集した民族資料—国立民族学博物館資料から—
  - 第3章 家族とともに—一町の学者と知の家族—
  - 【トピック】鳥居龍蔵のモンゴル語習得
  - 第4章 遼の文化を探る
  - 第5章 遼文化の周縁
  - 終章 学知の行方
- 展示資料総点数 101点（館蔵資料0点）

## (3) 2021年度文化の森人権啓発展

文化の森6館と徳島県教育委員会人権教育課との共催で、人権啓発展（識字学級生の作品を中心とする展示）を行った。

- 主催 文化の森6館・徳島県教育委員会人権教育課
- 期間 令和3年12月8日（水）～12月14日（火）
- 会場 近代美術館ギャラリー（展示）  
ミニシアター（ビデオ上映）
- 観覧者数 305人

## 4. 館外での展示

### (1) 展示パッケージの貸し出し

県内の博物館等の支援及び収蔵資料の展示機会の増加を図るため、必要に応じて展示パッケージ（テーマに応じた展示資料、ラベル等のセット）の貸し出しを行っている。3年度は貸し出しがなかった。

### (2) 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも重点的に取り組むことにしている。3年度は移動展が1件あった。

令和3年度特別陳列

# 徳島まるづかみ展

コミュニケーションで  
展示を楽しもう!

2021  
4.23 fri -  
5.30 sun

会場 文化の森 多目的活動室  
開館時間 9:30～17:00  
休館日 毎週月曜日、5/6(木)  
※5/3(月・祝)は開館

観覧料無料

●モノ暮らしに、  
●体温を。

展示解説  
展示を楽しむ  
コミュニケーショントーク  
日時 5/2(日)、5/23(日)  
いずれも14:00～15:00  
場所 文化の森 多目的活動室  
講師 徳島県立博物館学芸員

文化の森総合公園 〒770-8070 徳島県徳島市八万町向香山  
徳島県立博物館 TEL: 088-668-3636 / FAX: 088-668-7197  
https://museum.bunmonri.tokushima.jp

特別陳列「徳島まるづかみ展」チラシ表面

### ●サテライト展示（勝浦町周辺の恐竜時代の地層と化石）

会 期 4月1日（木）～4年度  
 会 場 かんきつテラス徳島  
 資料点数 7点（館蔵資料7点）

## 5. 常設展の更新及び活性化に向けての取り組み

### (1) これまでの常設展の更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年をめぐり常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から9年度にかけて館内での検討を行ってきたが、事業化は実現しなかった（年報7号参照）。その後、開館15年目に当たる17年度にリニューアルオープンする計画で、事業規模を縮小して計画の見直しを行い、予算積算などを行ったが、事業化は認められなかった。厳しい財政状況のもと、常設展更新の実現可能性は乏しいものの、学術研究の進展によって展示内容が古くなった箇所が生じたり、開館以来の資料や情報の蓄積が顕著でかつ社会的な要請の高いテーマが展示できていなかったりするなど、展示更新を行っていないことによる不具合も生じてきた。

そこで、19年度に、現段階で有効かつ現実的と考えられる常設展更新の方向性を議論し、新たな基本計画案をまとめた（年報17号参照）。21年度には、この計画案に沿いながら、一部の中項目や小項目の変更を含む「リフレッシュ事業」（中規模な展示更新）を行った（年報19号参照）。その後も、予算的措置を必要としない小規模な展示更新を継続して行ってきた。大規模な展示更新が見込めないなかで、27年度は文化の森開園25周年記念事業「安全安心の文化施設モデル事業」として、常設展示室の部分的な改装を行った（年報25号参照）。

開館30周年が近づいたことから、29年度には、常設展の更新に向けての取り組みを本格化させることになった。9月から10月にかけては、「未来創造！博物館新常設展構築事業推進タスクフォース」を設置し、新常設展のあり方について外部委員（文化の森各館職員や県及び県教委関係課職員）とともに検討を行った。10月30日にはタスクフォースによる検討結果を受けて、県知事との意見交換会（ランチミーティング）を行った。こうした検討結果をもとに、さらに検討を深化させるため、11月から12月にかけて「未来の博物館を考える検討委員会」において外部委員（有識者等）

から意見をもらった。2月には「未来の博物館を考える検討委員会提言書—徳島県立博物館新常設展基本計画案—」が提示された。

30年度は、29年度の検討を踏まえ、参加者公募型による、「県民とともに新常設展を考えるワークショップ」を開催した。4月30日（月・祝）、5月13日（日）の2日間にわたり、10歳代から60歳代までの延べ34人（4月30日：16人、5月13日：18人）の県民と、専門家延べ9人（4月30日：4人、5月13日：5人）、アドバイザー2人（4月30日：1人、5月13日：1人）が参加し、当館職員とともに新常設展のあり方について意見を交わした。ここでの意見も踏まえ、7月には「徳島県立博物館新常設展基本構想」を策定した。これにもとづき、9月には新常設展設計事業業務委託公募型プロポーザルを実施した。

### (2) 新常設展設計事業

新常設展設計事業については、株式会社乃村工芸社と契約し、設計準備会を行った上で、30年10月25日から新常設展の基本設計に取り組み、3月末には基本設計図書が納品された。30年度の基本設計に続き、令和元年度は4月から10月までの間、実施設計に取り組み、10月に設計図書が納品された。

基本設計及び実施設計に係る協議及び調査等は、内容によって4つの分科会を設定した上で実施した（年報28・29号参照）。

分科会A：全般、ロビーゾーン、コミュニケーションゾーン、その他

分科会B（人文）：メインゾーン、ミュージアム・ストリート

分科会B（自然）：メインゾーン、ミュージアム・ストリート

分科会C：モニター調査、PR企画

### (3) 新常設展構築事業

令和元年12月には展示製作に係る入札を行い、株式会社乃村工芸社が落札した。2年3月、県議会での承認を得て、同社と契約を締結した。

これ以後、展示製作に係る協議、執筆、撮影、資料調査、旧展示撤去、制作、編集等各種作業を進めた。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2年4～5月の間、対面による協議等を行うことができなかった。

展示製作に係る協議や各種作業等は、内容によって以下の分科会を設定した上で実施してきた（年報30号参照）。3年度は次のとおり実施した。

・総合定例会

- ・ 共通コンテンツ分科会
- ・ 自然史系分科会
- ・ 人文系分科会
- ・ エントランス系分科会

(日程)

- 4月 1日 (木)～ 2日 (金) 人文系分科会
- 4月 3日 (土)～ 5日 (月) 自然史系分科会
- 4月 15日 (木)～ 16日 (金) 人文系分科会
- 4月 17日 (土) 自然史系分科会
- 4月 20日 (火) 総合定例会、共通コンテンツ分科会、人文系(考古)分科会
- 4月 21日 (水) 恐竜骨格(ネウケンサウルス)の展示姿勢の確認
- 4月 26日 (月) 自然史系(地学)分科会
- 4月 28日 (水) 自然史系分科会
- 4月 29日 (木)～ 30日 (金) 人文系分科会
- 5月 10日 (月)～ 14日 (金) 恐竜骨格の組み上げ
- 5月 12日 (水) 人文系分科会
- 5月 13日 (木)～ 14日 (金) 自然史系分科会
- 5月 15日 (土) 人文系分科会
- 5月 17日 (月)～ 21日 (金) 恐竜骨格の組み上げ及び生物資料の設置
- 5月 18日 (火) 総合定例会、共通コンテンツ分科会、人文系分科会
- 5月 26日 (土) 人文系分科会
- 6月 1日 (火) 自然史系(地学)分科会
- 6月 2日 (水)～ 3日 (木) 人文系分科会
- 6月 4日 (金) 自然史系分科会
- 6月 8日 (火) 人文系分科会
- 6月 21日 (月) 自然史系(地学)分科会、人文系(歴史)分科会
- 6月 22日 (火) 総合定例会、共通コンテンツ分科会、自然史系分科会
- 6月 23日 (水) アプリ現場確認
- 6月 24日 (木)～ 25日 (金) 演示列品点検(自然史・人文・共通)
- 6月 30日 (水) 恐竜骨格(コンカバナートル)の組み上げ
- 7月 3日 (土) 映像ナレーション収録
- 7月 5日 (月)～ 7日 (水) 南米産の大型哺乳類化石の骨格の組み上げ
- 7月 6日 (火)～ 7日 (水) 手話解説収録
- 7月 13日 (火) 手話解説収録
- 7月 20日 (火)～ 21日 (水) 演示検査、照明立会点検
- 7月 29日 (木)～ 30日 (金) 常設展取り扱い説明

#### (4) 新常設展オープニングイベント

##### ●内覧会

8月7日(土)

第1部 10:00～12:00 県議会議員等対象

参加者:9人

第2部 14:00～17:00 報道関係各社等対象

参加者:12人(11社)

##### ●オープニングセレモニー

8月9日(月)9:00～9:30

主催者挨拶(徳島県知事 飯泉嘉門氏)

御来賓祝辞(徳島県議会議長 岩丸正史氏)

テープカット(徳島県知事、徳島県議会議長、博物館協議会会長、未来の博物館を考える検討委員会会長、博物館友の会会長)

祝福芸 三番叟まわし実演(阿波木偶箱まわし保存会)



内覧会(県議会議員等対象)



内覧会(報道関係各社等対象)





新常設展オープニングセレモニー（知事による挨拶）



新常設展オープニングセレモニー（テープカット）



新常設展オープニングセレモニー（祝福芸 三番叟まわし実演）

## (5) 常設展示室・企画展示室の改修・修繕

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2年度に引き続き、展示室における対策を行った。受付カウンターへのアクリル製パーティションの設置、展示室入口への非接触型検温器、手指消毒用アルコール、次亜塩素酸空間除菌機等の設置、職員等のマスク着用、手指消毒の徹底等の対策を行った。来館者に対しては、マスクの着用、手指消毒、検温、入場制限、連絡先の提供、ソーシャルディスタンスの徹底等、展示室内での各種対策への協力をお願いした。

常設展・企画展示室ともに展示ケースなど各種設備・備品に経年劣化や破損が目立つようになり、早期の改修や修繕が望まれてきた。常設展については、リニューアルにともない、各種設備・備品等の更新・補修を行った。また、オープン後、映像機器、アプリケーション、ハンズオン展示等の不具合が生じたため、修

繕、改善を行った。

D-SHIPS32の上原大祐氏、NPO法人Collableの山田小百合氏による展示視察時（1月15日）、車椅子ユーザーの視点から展示や設備に関するコメントをもらい、展示改善について検討した。

## (6) 常設展の運用における各種取り組み

3年には、展示製作を行ってきた新常設展が8月9日にオープンした。また、これに併せ常設展示室内での「遊山ナビ」（多言語・音声解説等の機能をもつアプリ）の運用やタブレット貸出を始めた。

なお、2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面による活動等への制約が大きく、展示室内での大規模なイベント等は制限を設けて実施した。

主な取り組みは、以下の通りである。

①コレクションセクションにおける多様な展示の展開  
自然史コレクション、歴史・文化コレクション、県民コレクションでは、各分野のテーマを織り交ぜて8回の展示（自然史2回、歴史・文化4回、県民2回）、5回の展示替えを行った（p.6～7参照）。

②コミュニケーションゾーンにおける展示、イベントの展開

学芸員活動紹介コーナーでは、各学芸員が担当してパネル展示等を行った。3年度は4回の展示をした（p.7参照）。

また、ウインターフェスティバル（2月11日）ではイベントでの活用を、一部の遠足ではレクチャースペースとしての活用を、友の会会員対象の展示解説では、ガイダンススペースとしての活用を試みた（p.46参照）。

③ロビーゾーン「こどもゆさん」の利用休止

低年齢の子どもが利用しやすいよう旧常設展の「キッズ・チャレンジコーナー」を引き継ぎ、新常設展ロビーゾーンに「こどもゆさん」を設置した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、常設展オープン当初より利用を見合わせている。

④メインゾーンでの参加型展示・対話型展示

・「先史・古代の徳島」では、県内の遺跡情報、展覧会情報等を、随時更新・発信するコーナーを設置し、運用している。

・「徳島のまつりと芸能」では、身近な祭り等の情報を記入してもらうコーナーを設置し、運用している。

・「徳島の自然と暮らし」では、観覧者にコメント記入や投票により参加してもらうことのできるコーナーを設置し、運用している。

⑤展示解説等の促進

・歴史・文化コレクション「阿波のやまと絵師 守住

貫魚」、「名所図会でめぐる江戸時代」、「盾持人“里帰り”記念 前山遺跡出土埴輪展」で展示解説を行った。

・県民コレクション「徳島漂着物コレクション」で展示解説を行った。

・友の会会員対象の行事「新常設展 展示解説」を行った。

⑥常設展図録の発行等

・常設展図録「徳島まるづかみ—“いのち”と“とき”のモノ語り—」を発行した。

・公益財団法人日本生命財団の出版助成による「展示案内」の発行について検討を進め、助成を申請し、採択された。

⑦展示解説シート等の配布

・歴史・文化コレクション「阿波のやまと絵師 守住貫魚」、「名所図会でめぐる江戸時代」、「盾持人“里帰り”記念 前山遺跡出土埴輪展」、「太布一樹皮から布をつくる手仕事—」で、新たに展示解説シートを設置し、配布した。

・コミュニケーションゾーンに、展示室案内シートを設置した。



常設展図録「徳島まるづかみ」の表紙

## 6. 展示関係出版物

### (1) 図録

●常設展図録「徳島まるづかみ—“いのち”と“とき”のモノ語り—」

編集・発行 徳島県立博物館

令和3年8月1日発行、A4判40ページ、1,000部  
友の会増刷 500部

●企画展図録「徳島おふだコレクション ～はらいたまえ きよめたまえ～」

編集・発行 徳島県立博物館

令和3年10月15日発行、A4判106ページ、500部  
友の会増刷 200部

### (2) 常設展関係リーフレット

●展示案内リーフレット 和文版

令和3年6月30日発行

A4判両面刷り(4色)、三つ折り

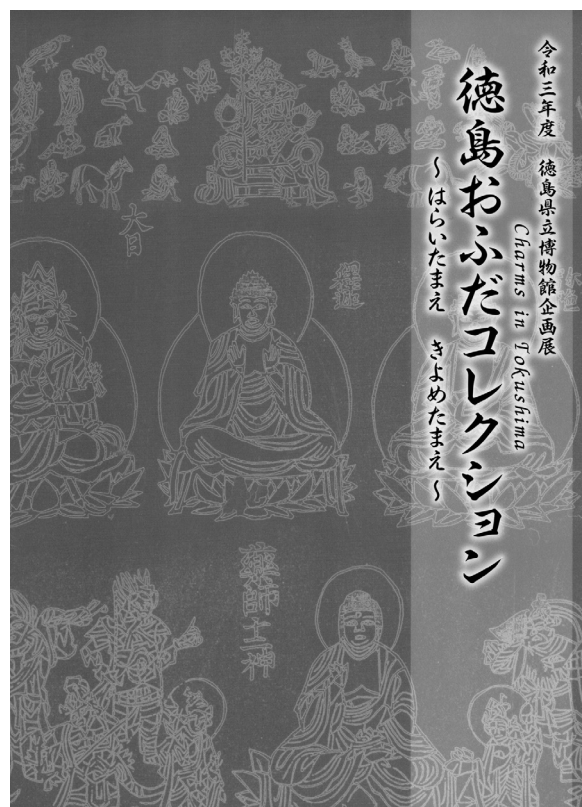
簡単な常設展案内、利用案内を載せた。常設展示室受付で希望する観覧者に配付。

●展示案内リーフレット 英文版

令和3年3月25日発行

A3判両面刷り(4色)、二つ折り

簡単な常設展案内、利用案内を載せた。常設展示室受付で希望する外国人観覧者に配付。



「徳島おふだコレクション」図録の表紙

## Ⅱ 普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であることから、力点をおいて取り組んでいる。

令和3年度は、年間73回計画し、うち68回を実施した。中止5回のうち、3回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2回は悪天候のためである。

新型コロナウイルス感染症の流行が影響し、普及行事の中止・縮小などがあったが、拡大防止に努めながらできるかぎり開催した。これまでの積み重ねにより普及行事は県民のあいだにかなり定着してきている。参加者は徳島市内と近郊在住者が多いが、県西・県南、さらには兵庫県南あわじ市からの参加も見られる。さらに、「歴史散歩」、「野外生きものかんさつ」、「海部自然・文化セミナー」等において、遠隔地域で開催するなど、できるだけ多くの方に参加してもらえよう努めている。

### 1. 普及行事

#### ■ワクワクむかし体験

昔の人びとの生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人びとの生活の知恵を学ぶシリーズ。

- 6月20日(日) 勾玉をつくろう 14人  
7月4日(日) 先取り自由研究、昔の道具しらべ 26人



ワクワクむかし体験「やきものをつくろう」

- 12月19日(日) やきものを作ろう①(成形) 17人  
1月16日(日) やきものを作ろう②(焼成) 13人

#### ■歴史散歩

県内外の遺跡、町並み、建造物などを見学してまわるシリーズ。

- 10月17日(日) たんけん!若杉山辰砂採掘遺跡 8人  
2月13日(日) 前山古墳、曾我神社古墳を見学しよう 雨天中止

#### ■野外生きものかんさつ

野外に出かけて、季節に応じた動植物の観察を行うシリーズ。

- 4月24日(土) 中級クラス植物観察会4月 7人  
4月25日(日) 初めての植物かんさつ(春編) 39人  
5月9日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング 5月~新緑の自然で癒やされよう!~ 11人  
5月16日(日) 川魚かんさつ 11人  
6月6日(日) 初めての植物かんさつ(梅雨期編) 39人  
6月20日(日) 中級クラス植物観察会6月 7人  
7月4日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング 7月~山開き自然の中へ~ 14人



野外生きものかんさつ「初めての植物かんさつ(夏編)」

7月17日(土)	初めての植物かんさつ(夏編)	31人
8月1日(日)	漂着物を探そう!	53人
9月26日(日)	花巡り!植物かんさつハイキング	
	9月~秋の七草探してみませんか?~	11人
10月3日(日)	秋の昆虫ウォッチング	17人
10月24日(日)	中級クラス植物観察会10月	11人
11月21日(日)	花巡り!植物かんさつハイキング	
	11月~植物の冬支度を見に行こう!~	15人
12月4日(土)	初めての植物かんさつ(冬編)	12人
1月30日(日)	初めての植物かんさつ(新春編)	13人
2月13日(日)	中級クラス植物観察会2月	13人

### ■みどりを楽しもう・味わおう

自然の材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習や調理を通して学ぶシリーズ。

8月29日(日)	夏休みの自由研究に!植物の繊維を取ろう	12人
9月26日(日)	とっても簡単!草木染めにチャレンジ	19人
10月24日(日)	どんぐりピザをつくろう	9人
12月12日(日)	クリスマスリースに一光る松ぼっくり工作—	27人

### ■たのしい地学体験教室

地層や化石、岩石・鉱物などの野外観察や室内での実習を通して学ぶシリーズ。



みどりを楽しもう・味わおう「どんぐりピザをつくろう」

5月23日(日)	化石のレプリカをつくろう	18人
9月25日(土)	アンモナイト標本をつくろう	15人
10月10日(日)	眉山の地質見学	17人
2月27日(日)	木の葉化石の発掘体験	8人
3月13日(日)	貝化石標本をつくろう	19人

### ■生きものしらべ隊

昆虫や植物、化石などの調べ方を学び、自然の専門家をめぐすシリーズ。

5月30日(日)	スンプでかんたん顕微鏡かんさつ	12人
7月11日(日)	昆虫標本を作ろう①採集・作製	11人
7月18日(日)	昆虫標本を作ろう②採集・作製	11人
7月25日(日)	昆虫標本を作ろう③仕上げ	13人
8月1日(日)	魚類の頭骨標本をつくろう	8人

### ■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話をするシリーズ。

4月25日(日)	ゼロから始める植物学~植物用語編~	15人
6月6日(日)	ゼロから始める植物学~名前の調べ方編~	11人
6月27日(日)	役行者の虚実と修験道	11人
7月17日(土)	ゼロから始める植物学~標本の作り方編~	10人
11月14日(日)	自家製茶と阿波晩茶	12人
12月4日(土)	ゼロから始める植物学~植物の名前編~	5人
12月5日(日)	矢野家の人びと~絵師はどんな暮らしをしていた?~	2人
1月23日(日)	あなたの知らないカメムシの話	12人
1月30日(日)	ゼロから始める植物学~標本整理編~	8人
3月21日(月・祝)	武士の四国遍路一遍路日記から—	22人

### ■古文書で学ぶ歴史入門

古文書を読み、歴史について学ぶシリーズ。

5月15日(土)	ゼロからの古文書①	12人
6月19日(土)	ゼロからの古文書②	13人
7月17日(土)	ゼロからの古文書③	12人
9月18日(土)	古文書に親しむ①	20人
10月16日(土)	古文書に親しむ②	21人

## 20 普及教育

11月20日(土)	古文書に親しむ③	21人
12月18日(土)	古文書に親しむ④	16人
1月15日(土)	古文書に親しむ⑤	19人
2月19日(土)	古文書に親しむ⑥	19人

### ■徳島の考古学スタートアップ講座

遺跡や遺物から、先史時代の徳島を学ぶシリーズ。

6月20日(日)	スタートアップ	8人
8月28日(土)	徳島の遺跡を学ぶ1	9人
10月17日(日)	現地実習1	9人
12月19日(日)	徳島の遺跡を学ぶ2	7人
2月13日(日)	現地実習2	雨天中止
3月19日(土)	振り返り会	8人

### ■海部自然・文化セミナー

学芸員が講師を務め、海陽町立博物館との共催で行う講座。全4回のうち1回は海陽町立博物館職員が担当した。

6月13日(日)	地中をうごめく未確認生物たち～徳島に生息するミミズハゼの仲間～	5人
7月11日(日)	阿南市出身画家日下八光と装飾古墳	4人
8月22日(日)	刀剣鑑賞の基礎知識	中止
9月5日(日)	徳島県の恐竜化石発掘調査	中止

### ■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

#### ●企画展「徳島おふだコレクション～はらいたまえ きよめたまえ～」関連行事

10月17日(日)	企画展「徳島おふだコレクション
-----------	-----------------

～はらいたまえ きよめたまえ～	
展示解説	10人
11月7日(日)	企画展「徳島おふだコレクション～はらいたまえ きよめたまえ～
展示解説	22人

#### ●特別陳列「展示を楽しむコミュニケーショントーク」関連行事

5月2日(日)	特別陳列「展示を楽しむコミュニケーショントーク」展示解説	中止
5月23日(日)	特別陳列「展示を楽しむコミュニケーショントーク」展示解説	33人

#### ●コレクションセクション関連行事

12月11日(土)	歴史・文化コレクション「名所図会でめぐる江戸時代」展示解説	16人
12月19日(日)	県民コレクション「徳島漂着物コレクション」展示解説	76人
1月23日(日)	歴史・文化コレクション「名所図会でめぐる江戸時代」展示解説	18人
1月29日(土)	歴史・文化コレクション「はにわ展」展示解説	22人
2月12日(土)	歴史・文化コレクション「はにわ展」展示解説	10人
3月12日(土)	歴史・文化コレクション「はにわ展」展示解説	19人
3月27日(日)	県民コレクション「徳島漂着物コレクション」展示解説	67人



歴史・文化コレクション展示解説  
「名所図会でめぐる江戸時代」



とくしま藍の日スペシャル  
「藍の葉っぱで遊ぼう」

## ■その他の普及行事等（博物館スペシャルなど）

### ●文化の森こどもの日フェスティバル

5月5日（日・祝） 中止

### ●教員のための博物館の日 in 徳島

9月29日（水） 中止

### ●とくしま藍の日スペシャル「藍の葉っぱで遊ぼう」

7月24日（土）（とくしま藍の日）

タデアイを使って、藍染めについての体験的な活動を行った。 参加者：14人

### ●標本の名前を調べる会

8月21日（土）

毎年8月に行う恒例の行事で、学芸員のほか2人の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけではなく、いっしょに調べる姿勢で取り組むよう留意している。 参加者：32組

### ●文化の森サマーフェスティバル

8月22日（日） 中止

文化の森全体でウォークラリーのみ実施した。

### ●文化の森秋祭り

11月3日（水・祝）

文化の森6館による秋季の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、2階常設展示室にて、「徳島恐竜コレクション展示解説」、「ミニ鉱物展展示解説」、「徳島漂着物コレクション展示解説」、歴史・文化コレクション展示解説「守住貫魚はどんな人？」を、鳥居龍蔵記念博物館と共同で「絵あわせパズルを楽しもう」をそれぞれ行った。

参加者：139人

### ●文化の森ウィンターフェスティバル

2月11日（金・祝）

文化の森6館による冬季の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを行った。博物館では、ボランティアスタッフとの協働による、「博物館Vキング」を実

施した。「めざせ！初代徳島まるづかみ博士」、「手のひらミュージアム～レプリカ石けん&オリジナルしおりづくり～」、「絵本で知ろう博物館」の3つのイベントを実施した。（詳細は、p.46 参照）

参加者：258人

### ●鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム

2月26日（土）

鳥居龍蔵記念博物館との共催。少年時代に徳島の歴史や文化についてフィールドワークをもとに研究し、後に世界的な研究活動を展開した鳥居龍蔵の取り組みを踏まえ、中学生・高校生による自主的な歴史文化研究の支援と人材育成のため、平成28年度から実施し、6回目となった。研究レポート（鳥居龍蔵研究、地域研究）を公募し、フォーラム（発表会）での口頭発表をしてもらった上で、優れた成果を表彰した。中学生5組、高校生6組の計11組が研究発表を行った。中学生3件、高校生6件を表彰対象とした。

参加者：50人

## 2. 学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとっては遠足での見学以外にも様々な活用ができる。また、学習指導要領にも、博物館等の社会教育機関の活用が明記され、博物館に対しても積極的な学校教育への支援が要請されている。

当館でも、平成12～13年度に「博物館と学校との連携に関する研究会」を組織し、博物館と学校との連携（博学連携）のあり方等について模索した。それを踏まえ、14年度から学校教育支援事業として、学校の授業での博物館利用への支援、学校の授業への講師派遣（出前授業）、学校への博物館資料の貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ定期的に案内パンフレットなどを配布することにより博物館の学校教育支援事業が周知されつつある。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行が影響し、令和3年度において館内での授業や資料貸出は、例年と比べて利用が減少した。

### (1) 学校の授業での博物館利用への支援（館内授業）

講座室や実習室、常設展示室コミュニケーションゾーンにおいて、理科や社会科の授業と関連して、学年単位で博物館が利用されている。受け入れにあたっては、展示資料だけではなく、必要に応じて収蔵資料



文化の森秋祭り 徳島恐竜コレクション展示解説

## 22 普及教育

を見たりさわったりしてもらいなどの体験的な活動も取り入れている。

- ①横瀬小学校（勝浦町） 10月12日（火）  
5年生、6年生 27人  
勝浦町で発見された恐竜について知ろう（講師：辻野）
- ②川内北小学校（徳島市） 11月12日（金）  
3年生 102人  
かわる道具とくらし（講師：磯本）

### (2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

依頼に応じて、講師として学芸員を学校へ派遣した。授業では教員と協働し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

- ①徳島文理小学校（徳島市） 4月27日（火）  
6年生 41人  
日本の歴史、歴史の学び方をナビゲーション（講師：植地・岡本）
- ②あゆみの森保育園（徳島市） 6月11日（金）  
4歳、5歳児 36人  
勝浦川の泥干潟で生き物観察をする（講師：山田）
- ③広野小学校（名西郡） 6月21日（月）  
4～6年生 29人  
水生生物調査（講師：山田）
- ④津田小学校（徳島市） 9月17日（金）  
3年生 93人  
こん虫のかんさつ（講師：山田）
- ⑤北井上小学校（徳島市） 11月17日（水）  
6年生 21人  
戦争と人々の暮らし（講師：松永）
- ⑥上八万小学校（徳島市） 12月3日（金）  
5年生 46人  
水生昆虫について知ろう（講師：山田）
- ⑦市立川島中学校（吉野川市） 12月3日（金）  
1～3年生 132人  
Trying together オリエンテーリング（講師：岡本）
- ⑧森山小学校（吉野川市） 12月7日（火）  
3年生 21人  
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ⑨助任小学校（徳島市） 12月21日（火）  
6年生 159人  
おそいかかる空襲（講師：松永）
- ⑩川内南小学校（徳島市） 1月18日（火）  
3年生 24人  
変わるわたしたちのくらし（講師：庄武）
- ⑪富田小学校（徳島市） 1月19日（水）

- 3年生 31人  
かわる道具とくらし（講師：庄武）
- ⑫城東小学校（徳島市） 1月19日（水）  
3年生 49人  
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ⑬津田小学校（徳島市） 1月20日（木）  
3年生 93人  
変わるわたしたちのくらし（講師：磯本）
- ⑭鴨島小学校（吉野川市） 1月24日（月）  
3年生 62人  
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ⑮南井上小学校（徳島市） 1月25日（火）  
3年生 64人  
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ⑯飯尾敷地小学校（吉野川市） 1月26日（水）  
3年生 17人  
昔のくらし（講師：庄武）
- ⑰見能林小学校（阿南市） 2月10日（木）  
3年生 65人  
昔の道具（講師：庄武）
- ⑱牛島小学校（吉野川市） 2月22日（火）  
3年生 22人  
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ⑲徳島視覚支援学校（徳島市） 3月17日（木）  
1年次 1人  
科学と人間生活（講師：井藤）

### (3) 遠足

保育園・幼稚園、各種学校、教育関係機関等の入館がある。学芸員や企画担当職員による常設展示の解説や体験的な活動、ワークシートを使った案内などを行っている。

過去5年間の校種別入館件数、地域別入館件数は、表の通りである（p.23）。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により入館件数の減少が見られた期間があった。入館した学校は、徳島市と板野郡が半数以上を占める。当館より遠くなるにつれて少なくなるが、県下各地からの入館がある。修学旅行での入館は、県内4校、県外3校の計7校であった。

また、新常設展オープンにあたって、遠足と常設展示室コミュニケーションゾーンにて館内授業を組み合わせた新しい取り組みを実施した。

**(4) 博物館資料の学校への貸し出し**

小・中学校及び高校の授業等で活用してもらうため、10年度から博物館資料の学校への貸し出しを行っている。貸出用資料の一層の利用促進を図るため、15年度末には「学校貸出用資料解説シート」を印刷し、小・中学校及び高校に配布した。また、来館した教職員には、必要に応じて解説シートを配布し、利用を勧めている。

- ①加茂名中学校（徳島市） 6月25日～7月2日  
貸出資料：写真パネル10、徳島大空襲遺物2、焼夷弾（複製）1 計13点  
使用目的：徳島大空襲に関する学びをとおして、戦争と平和について考えるため
- ②海南小学校（海陽町） 10月31日～11月19日  
貸出資料：アンモナイト（ネパール産）4・（マダガスカル産）7・サメの歯5・モササウルスの歯5・三葉虫5 計26点  
使用目的：理科授業でミニ化石展を実施するため
- ③城南高等学校（徳島市） 11月9日～11月19日  
貸出資料：一遍聖絵（複製）巻四 計1点  
使用目的：日本史Bの授業で活用
- ④応神小学校（徳島市） 11月2日～11月11日  
貸出資料：サンヨウチュウ・カルカロドンの歯・モササウルスの歯・ヌムリテス各8、アンモナイト（マダガスカル産）9、ナウマ

ンゾウの歯（複製）1

計42点

使用目的：理科授業で使用するため

**(5) 職場体験の受け入れ**

中学校・高校の職場体験事業の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

- ①城南高校（徳島市） 9月18日～19日  
3年生 1人
- ②阿南光高校（阿南市）11月17日～18日  
3年生 4人
- ③徳島科学技術高校（徳島市）12月15日～16日  
3年生 1人

**(6) 教員のための研修**

徳島県教育委員会等からの依頼により、館内外における教員対象の研修会で職員が指導に当たっている。

- ①教員のための博物館の日 in 徳島 2021  
（大学・研究機関等研修、ミドルリーダー研修）  
9月29日（水） 中止

**(7) その他**

博物館での授業、講師派遣、資料の貸し出しに限らず、学校の授業や放課後児童クラブ活動等において、自然観察、生活体験、歴史学習等を実施する際、児童・生徒の学習意欲向上のための工夫や資料の活用方法等を、学芸員が博物館での経験を踏まえ、教員の相談に応じることとしている。

**校種別入館件数**

年度	幼稚・保育園	小学校	中学校	高校	その他*	計
H29	32	63	3	7	4	109
H30	37	60	3	1	22	123
R1	22	63	0	4	50	139
R2	6	19	1	0	8	34
R3	15	64	5	3	32	119

※放課後児童クラブ、発達支援施設など

**地域別入館件数**

年度	徳島市	板野郡	鳴門市	小松島市		阿南市	名西郡		阿波市	吉野川市	那賀郡	美馬市	三好市	県外	計
				勝浦郡	名東郡		海部郡	美馬郡							
H29	52	6	8	3	13	2	8	5	3	1	4	4	109		
H30	49	18	4	9	17	4	5	6	5	2	2	2	123		
R1	53	34	3	7	19	2	4	8	3	3	2	1	139		
R2	18	3	0	5	4	1	1	0	0	2	0	0	34		
R3	39	23	4	12	14	3	1	2	3	3	12	3	119		

**3. 普及教育関係出版物****(1) 博物館ニュース**

博物館の広報紙で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館藏品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。A4判・



## 24 普及教育

8 ページ(全ページカラー)で 8,000 部を印刷している。

令和 3 年度は、次の 4 号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

### ●No.123 (2021 年 6 月 18 日発行)

表紙 8 月上旬、新常設展グランドオープン！

特集 考古資料のハンズオンキット

特集 新常設展に向けたセトウチサンショウウオの収集

特集 徳島恐竜コレクション

特集 吉野川上流でのアユ釣り映像撮影—VR 体験ルームのコンテンツ作成の裏側—

特集 新発見のスイギウ化石が展示されます

### ●No.124 (2021 年 9 月 10 日発行)

表紙 長さ 10 メートル以上になる御守り！

Culture Culb 藍染めを楽しもう

企画展 徳島おふだコレクション～はらいたまえきよめたまえ～

情報ボックス 「みとものつら絵巻」に描かれた江戸供家老—新常設展の準備の過程から—

館蔵品紹介 徳島県産地下性・洞窟性の昆虫類標本

Q & A 徳島で“モラエスの花”と呼ばれる花は、何という名前でしょうか？

### ●No.125 (2021 年 12 月 3 日発行)

表紙 緑にかがやくざくろ石

Culture Culb 絵師・矢野伊章栄光について

コレクション展 自然史コレクション

情報ボックス コロナ禍と民俗・暮らしぶりの変化

歴史散歩 ここに遺跡があります—トンネル内に描かれた絵と板野町の弥生遺跡—

Q & A 四国遍路はどうして「遍路」というのですか？

### ●No.126 (2022 年 3 月 25 日発行)

表紙 初公開！阿波の大名 蜂須賀家の火消が描かれた図

Culture Culb 四国で分布を拡大する外来昆虫

企画展 阿波の画壇をたのしむ—近世の画人と作品—  
野外博物館 祖谷の畑作物

情報ボックス 阿讃山地産のノストセラス科アンモナイトの新種

Q & A 考古資料の 3D 画像は、どのように作るのでしょうか？

## (2) その他

### ●年間催し物案内

1 年間の普及行事予定を掲載した A4 判パンフレッ

トを 7 万部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。さらに、博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

### ●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領や申込み方法等の案内を印刷した、A3 判または A4 判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

### ●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を、内容別に紹介した印刷物。

## Ⅲ 調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなすものである。質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。当館の調査研究事業には、必要に応じて館外の研究者も含め、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

令和3年度は、14人の学芸スタッフがこの業務に携わった。

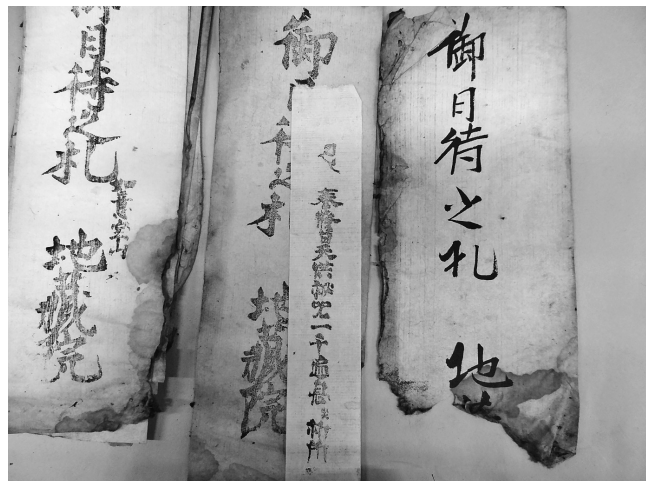
### 1. 課題調査

令和3年度は、次の1件の課題調査を行った。

#### (1) 徳島県内に残る守札調査

徳島県内には神社や寺院で配布されたり、修験者や御師と呼ばれる人たちによって家々に配られた守札を代々保存していた例が多く見られる。当館にはそうした守札が千点近く寄贈され、貴重なコレクションとなっている。

この課題調査では館蔵の守札の解説、分析をすすめることによって、かつての人びとの信仰のあり方を検



課題調査「徳島県内に残る守札調査」  
地蔵院（徳島市名東町）から発給された日待行事の札

証した。またその成果の一部を企画展「徳島おふだコレクション ～はらいたまえ きよめたまえ～」で公表した。

#### ●調査メンバー

博物館学芸員：庄武憲子（民俗）

#### ●調査概要および結果

寄贈された守札について、保存されていた家や地域に特徴的なものと徳島県内に広く共通して見られるものに分類し、傾向を分析した。その結果、家の氏神、檀那寺からは年が改まる毎に守札が発給されるとともに、日待ちなどの地域の行事が定期的に行われ、その都度守札が発給されていたことが確認できた。

また明治以前に徳島県内に広く配布されていた守札として伊勢神宮の御師によって配布された大麻、出雲大社の御師によって配布される玉串が確認できるほか、吉野川中、下流域地域には京都府愛宕山にあった白雲寺の坊の一つ教学院、祇園社（現在は八坂神社）の本願成就院、石清水八幡宮にあった橋坊、滋賀県多田大社の別当不動院などからも毎年守札が配られていたことが確認できた。

さらにえびす、大黒の御神影札が多数残されておりこれらは門付け芸人が家々に配布していたものと予想できる。多種多様な守札から日常の平穩を祈るため人びとが多く神仏を信仰してきたことが確認できた。

### 2. 日本最古級恐竜化石含有層調査・発信プロジェクト

徳島県勝浦町には、白亜紀前期（約1億3000万年



調査現場

前)の地層である立川層が分布する。平成6年に立川層から四国初となる鳥脚類イグアノドン類の歯化石が発見された。その後、平成28年に徳島県で2つ目の恐竜の化石(竜脚類ティタノサウルス形類の歯)が発見された。この発見を受け、当館は、福井県立恐竜博物館や徳島県内の化石愛好家の協力を得て、同年冬から30年春まで、断続的に恐竜化石発見地点周辺の地質調査を行ってきた。その結果、30年4月に恐竜化石などの脊椎動物化石を多く含む層(ボーン・ベッド)を発見し、多数の恐竜化石を採集した。そして、30年冬から発掘調査を開始し、令和3年度も10月1日から12月24日までの約3か月間、発掘調査を実施した。

令和3年度の発掘調査は、令和2年度の調査の続きで、ボーン・ベッドが分布する斜面上部から重機による掘削を行った。化石が含まれる可能性が高い岩石は、後方支援施設(徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校勝浦かんきつテラス徳島)に運搬し、県内の化石愛好家や阿波井戸端塾などの協力を得て、岩石の小割作業と化石の探索を行った。発掘調査では、多数の脊椎動物の化石を発見した。

#### ●調査メンバー

博物館学芸員：辻野泰之(地学)  
中尾賢一(地学)  
小布施彰太(地方創生推進員)

館外調査者：柴田正輝  
(福井県立大学・福井県立恐竜博物館)  
関谷透(福井県立恐竜博物館)  
中山健太郎(福井県立恐竜博物館)  
築地裕太(福井県立恐竜博物館)  
小笠原憲四郎(筑波大学名誉教授)  
黒島健介(広島大学総合博物館)  
萩野慎諧(勝浦町)  
橋本寿夫(元・板野中学校)



発掘作業の様子

元山茂樹(小松島高校)

調査協力者42名(徳島県化石同好会・徳島化石研究会・阿波勝浦井戸端塾・阿南市科学センター・勝浦町職員など)

業務委託業者：6名

#### ●調査日程

10月1日(金)～12月24日(金)：化石発掘現場での調査

11月12日(金)～12月24日(金)：後方支援施設での作業

#### ●調査概要および結果

化石発掘現場の調査および後方支援施設での小割作業において、230点の脊椎動物化石を発見した。

内訳は以下の通りである。

・カメの甲羅	163点
・ワニの歯	11点
・硬鱗魚などの魚類のウロコ	6点
・淡水生サメ類の歯	2点
・その他 骨片 (恐竜の可能性のある化石含む)	48点

採集された脊椎動物化石は、現在も徳島県立博物館で、整理作業を行い、岩石から取り出すためのクリーニングを実施中である。

#### ●勝浦町恐竜化石発掘活性化協議会

徳島県をはじめ、勝浦町、関係団体等が密接な連携のもと、恐竜化石産地周辺の環境に配慮した発掘調査を促進し、県民参加型の発掘の仕組みの検討や恐竜を核とした魅力の発信等を通じて、徳島県及び勝浦町の地方創生、地域活性化を図ることを目的にして協議会を設置している。3年度は2回開催した。

第7回 令和3年9月16日(木)

13:30～15:00

会場 勝浦町図書館2階視聴覚室

第8回 令和4年3月14日(月)

13:30～15:00

会場 徳島県立博物館

## ●勝浦町恐竜発掘活性化協議会委員等名簿

(令和3年3月31日現在)

氏名	役職等
小笠原 憲四郎(委員長)	筑波大学名誉教授、元国立科学博物館客員研究員
石田 啓祐	徳島大学名誉教授
岩城 秀行	徳島県化石同好会代表(代理)
稲井 稔	特定非営利活動法人阿波勝浦井戸端塾理事長
中田 明男	地元自治区長
東條 洋士	徳島県未来創生文化部副部長
東條 揚子	徳島県文化の森振興センター副所長
新居 美佐子(副委員長)	徳島県立博物館長
市川 公雄(副委員長)	勝浦町教育委員会教育長
石木 正昭	勝浦町教育委員会事務局長
河原 英治	徳島県政策創造部地方創生局 とくしまぐらし応援課長
利徳 拓也	徳島県商工労働観光部観光政策課長
寺尾 由美	勝浦町企画交流課長
東 洋一(オブザーバー)	福井県立恐竜博物館名誉顧問、福井県立大学名誉教授

## 3. 分野別(個別)調査研究

## 山田量崇(動物・無脊椎動物)

- ①トコジラミ上科半翅類の外傷性授精に関する研究  
トコジラミ類の特異的な交尾様式について、とくに雌雄交尾器の機能と構造に着眼して研究を進めた。
- ②ムクゲカメムシ下目の分類学的研究  
ムクゲカメムシ下目カメムシ類の分類学的研究を進めた。
- ③半翅系昆虫の全形態学：ゲノム系統の検証と新奇形態の進化プロセス解明  
カメムシ亜目昆虫の雌雄交尾器を詳細に観察し、形態データを抽出した(北海道大学科研費による分担研究)。

## 佐藤陽一(動物・脊椎動物)

- ①ドローンによる県内河川・海岸の空撮  
淡水魚類等の生物の分布は河川争奪や盆地・平野の氾濫原などにおける溢流など地史の影響を大きく受けていると考えられる。その表れが地形である。これまで関心ある地域の空撮は手軽にできるものではなかったが、高性能で小型のドローンが開発されたことにより、容易に撮影できるようになった。当館では平成30年度より河川や海岸の空撮を開始した。  
令和3年度は新常設展構築に関連して、県内各地で撮影を行った。昨年度に引き続き、日本最古級恐

竜化石含有層緊急発掘調査事業に関連して発掘調査および勝浦川流域の撮影を行った。また、園瀬川魚類調査に関連して、園瀬川本川全流程の垂直俯瞰撮影を行いパノラマ画像を作成した。

## 井藤大樹(動物・脊椎動物)

- ①徳島県淡水魚類相調査  
園瀬川での魚類相調査や本県で初となるナンヨウボウズハゼの報告(難波拓登氏・庄野耕生氏と共同)を行った。
- ②徳島県でのミミズハゼ属魚類の調査  
徳島県でのミミズハゼ属魚類の分布や形態、分子遺伝学的特徴に関する調査を行った(奥村大輝氏と共同)。
- ③ホトケドジョウ類の進化および分類学的研究  
日本産ホトケドジョウ類の進化や分類に関する研究を進めた。
- ④カワバタモロコの骨学的研究  
カワバタモロコの骨格を記載し、本種の類縁関係に関する研究を進めた。

## 小川 誠(植物)

- ①県産植物相の調査  
徳島県の植物相の調査を行った(木下 覺氏らと共同)。また、3年度は阿波学会の調査を兼ねて小松島市の植物相について調査を行った。
- ②タンポポの分布調査  
市民参加型調査であるタンポポ調査を3月1日より実施した。
- ③自然に興味を持ってもらうためのツールの開発  
令和5年度開催予定の企画展「かがやく生きもの(仮)」の準備の一環として、紫外線を当てると生き物が輝く事例を調査した。

## 茨木 靖(植物)

- ①県産植物相の調査  
徳島県の植物相の調査を行った(木下 覺氏らと共同)。
- ②イネ科植物の比較研究  
国内外各地のイネ科植物について、その異同、分布等に関する調査を行った。
- ③県内における海流種子等の漂着状況に関する調査を行った(濱 直大氏らと共同)。

## 中尾賢一(地学)

- ①5万分の一図幅「鳴門海峡地域の地質」、陸海シームレス地質情報集作製、および兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録関連事業のための調査  
阿波市、鳴門市、淡路島で地質調査および研究

の打ち合わせ等を行った（産総研地質調査総合センター、徳島大学理工学部、兵庫県立人と自然の博物館と共同）。

#### ②勝浦町に分布する白亜紀層に関する調査

勝浦町で発見された恐竜化石含有層の発掘調査を実施した（福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所、徳島県化石同好会などと共同）。

#### ③小松島市の遺跡から出土した貝類の調査

小松島市教育委員会からの依頼で、同市の遺跡から発掘された貝類について、同定作業および古生態学的検討を行った。

### 辻野泰之（地学）

#### ①北海道の蝦夷層群より産出するアンモナイト化石に関する研究

特に白亜系蝦夷層群より産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類、進化に関する研究を行った。

#### ②勝浦町に分布する白亜紀層に関する調査

勝浦町で発見された恐竜化石含有層の発掘調査を実施した（福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所、徳島県化石同好会などと共同）。

#### ③羽ノ浦トンネルおよび立江トンネルの工事で露出した白亜紀層（物部川層群や外和泉層群）に関する調査

地質調査および産出化石の調査を行った。

### 植地岳彦（考古・保存科学）

#### ①博物館等の展示及び収蔵に関する環境・設備の調査 展示室、収蔵庫の温度・湿度の変動と有機酸・アンモニアの発生状況について調査した。

#### ②水銀朱の生産に関する研究

辰砂をすり潰して水銀朱を生産する工程のうち、水簸工程についての研究を行った。

#### ③文化財加害虫菌の調査

県内市町の教育委員会、博物館・資料館、個人等の依頼を受け、文化財加害虫菌の調査などを行った。

#### ④考古資料と関連のある美術工芸資料について考古学的な調査を行った。

### 岡本治代（考古・保存科学）

#### ①四国地方における古代軒瓦の文様系譜・技術系譜の整理

香川県を中心に、軒瓦の文様系譜・技術系譜を整理した。

#### ②小松島市前山遺跡出土埴輪の調査

小松島市前山遺跡出土埴輪を整理、報告した。

#### ③鳥居龍蔵の愛知調査関連資料の調査

鳥居龍蔵が昭和4年（1929）から昭和5年にかけて愛知県で実施した遺跡調査の際に作成された拓本

等の資料を整理、報告した。

### 長谷川賢二（歴史）

#### ①四国遍路形成史の研究

四国遍路形成における熊野信仰の影響や時期的な推移について再検討した。

#### ②鳥居龍蔵による中国西南部研究の展開に関する調査

鳥居龍蔵記念博物館所蔵資料にもとづき、鳥居龍蔵の中国西南部研究の展開について調査した。

### 松永友和（歴史）

#### ①四国遍路に関する調査

江戸時代における四国遍路の歴史を調査した。特に、遍路日記に注目し、武士身分の者による四国遍路の位置付けを検討した。

#### ②徳島藩に関する概要調査

新常設展の構築にあたり、徳島城や徳島藩、藩領社会（町・村）や阿波藍をはじめとする特産物などについて概要を調査した。

#### ③近現代徳島に関する概要調査

新常設展の構築にあたり、近代徳島の人物などについて概要を調査した。

#### ④鳥居龍蔵および周辺人物に関する調査

鳥居龍蔵の周辺人物、特に本山彦一と坪井正五郎を中心に、鳥居龍蔵記念博物館が所蔵する資料を調査した。

### 庄武憲子（民俗）

#### ①課題調査「徳島県内に残る守札」

当館に寄贈されたおふだ（護符）の分類、分析を行った。その成果の一部を企画展「徳島おふだコレクション ～はらいたまえ きよめたまえ～」で公表した。

#### ②徳島県内の人形座に関する調査

徳島市の大谷旭源之丞座と共同で、同座所蔵の人形浄瑠璃資料の調査記録を行った。

### 磯本宏紀（民俗）

#### ①移住漁民による技術移動と定住に関する民俗学的研究

徳島県を出身地とする移住漁民を対象に、移住の経緯と都市部定住後の技術移動や生業、コミュニティの形成の把握を目的に調査研究を行った。

#### ②朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究—イワシをめぐる韓国の民俗変化

カタクチイワシ漁と加工法及び食文化の植民地期の朝鮮への伝播と、戦後におけるそれらの変遷及び文化的影響についての共同研究に参加している（国立歴史民俗博物館科研費の研究分担者）。

#### ③地域における歴史文化研究拠点の構築

地域社会の変化に対応し、次代へ歴史と文化を継承

していくためのシステムの構築を目的とする。特に地域社会における多様な文化資源を保存継承し、それらを伝えていくための拠点の形成とそれを維持していくための条件について集中的に調査研究する共同研究に参加した（国立歴史民俗博物館共同研究）。

④ポスト専業化時代における経験知のマネジメントとその限界性—農山漁業の事例から

生業遂行にあたり、従事者のコストとモチベーション、その調整過程の解明を元に、限界性を見極めた持続可能な生業遂行モデルを考察した（聖徳大学科研費の研究分担者）。

⑤「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクトにおける漁業民俗に関する調査

淡路島、沼島、鳴門等の鳴門海峡周辺地域における漁業及び漁業民俗に関する調査を行った（「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会との共同）。

⑥鳥居龍蔵らによる那賀調査の追跡調査

那賀町在住の県民（2名）及び鳥居龍蔵記念博物館との共同で現地調査を実施した（県民及び鳥居龍蔵記念博物館と共同）。

大橋俊雄（美術工芸）

①江戸時代の阿波の画人についての調査

江戸時代に阿波で活動がみられた狩野派、住吉派、文人画派などについて、資料と作品を調査した。

②阿波の工芸品についての調査

刀剣、漆器、焼き物など、阿波にゆかりの深い作品、作者について調査した。とりわけ、つるぎ町半田で生産されていた半田漆器について調査を始めた。

## 4. 分野別（個別）調査研究等の館内公表会（セミナー）

学芸員相互の情報交換と研究資質向上をはかることを目的として、館内公表会（セミナー）を随時実施している。必要に応じて、学芸員の調査研究の協力者等、館外の研究者に発表を依頼することもある。令和3年度は行わなかった。

## 5. 科学研究費補助金等による研究

●基盤研究（B）：朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究—イワシをめぐる韓国の民俗変化（平成29～令和3年度）

研究代表者：松田睦彦氏（国立歴史民俗博物館准

教授）

当館の研究分担者：磯本宏紀

●基盤研究（B）：半翅系昆虫の全形態学：ゲノム系統の検証と新奇形質の進化プロセス解明（平成31～令和5年度）

研究代表者：吉澤和徳氏（北海道大学農学部准教授）

当館の分担研究者：山田量崇

●基盤研究（B）：霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究（令和2～6年度）

研究代表者：胡光氏（愛媛大学法文学部教授）

当館の分担研究者：長谷川賢二、松永友和

●基盤研究（C）：ポスト専業化時代における経験知のマネジメントとその限界性—農山漁業の事例から（平成31～令和3年度）

研究代表者：石本敏也氏（聖徳大学文学部准教授）

当館の研究分担者：磯本宏紀

●若手研究（B）：新たな環境への進出と進化：ホトケドジョウ属における源流域への進出と進化プロセス（令和2～4年度）

研究代表者：井藤大樹

## 6. 他機関との共同研究

●蛍光エックス線分析法による赤色顔料の調査

遺跡から出土した赤色顔料付着資料について、蛍光エックス線分析法による材質調査を行った。（公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターと共同）。

●タンポポ調査・西日本2020

近畿、中国、四国の17府県の広域にわたりタンポポ調査を実施した（兵庫県立人と自然の博物館や倉敷市立自然史博物館、高知県立牧野植物園などと共同）。

●勝浦町の恐竜化石含有層発掘調査

勝浦町の恐竜化石含有層の周辺地域の地質調査や化石の探索を実施した（福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所、徳島県化石同好会と共同）。

●地域における歴史文化研究拠点の構築

地域社会の変化に対応し、次代へ歴史と文化を継承していくためのシステムの構築を目的とする。特に地域社会における多様な文化資源を保存継承し、それらを伝えていくための拠点の形成とそれを維持していくための条件について集中的に調査研究する共同研究に参加した（国立歴史民俗博物館との共同）。

●「鳴門海峡地域の地質」図幅および陸海シームレス地質情報集の作製のための調査

阿波市、鳴門市、兵庫県南あわじ市で地質調査を行っ

## 30 調査研究

た（産総研地質調査総合センターおよび徳島大学理工学部と共同）

### ●「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト

兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会の活動の一環として、鳴門の渦潮と淡路島の文化遺産の調査を行った（「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会との共同）。

## 7. 研究成果の公表

### (1) 徳島県立博物館研究報告第32号の発行

2022年3月24日発行、A4判85ページ、600部

(\*印：館外研究者)

#### 論文

中尾賢一・辻本裕也\*・大嶋秀明\*：鳴門市里浦町で発見された更新統とその花粉分析。p.1-6.

#### 調査報告

加藤敦史\*・山田量崇：四国におけるヘクソカズラゲンバイ *Dulinius conchatus* Distant, 1903 の分布拡大。p.7-12.

広渡俊哉\*・屋宜禎央\*・鈴木信也\*・外村俊輔\*・小林茂樹\*・山田量崇：徳島県海部郡海陽町2地点での蛾類調査—2012年の調査結果—。p.13-25.

大原賢二\*・山田量崇：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録（2021年）。p.27-43.

#### 短報

玉川晋二郎\*・黒川康嘉\*：香川県で発生したクロマダラソテツシジミ。p.45-49.

茨木 靖・浅井元朗\*：ワセビエ *Echinochloa colonia* (L.) Link の花序の毛について。p.51-54.

三本健二\*：高知県の鮮新統登層産コケムシの体化石および生痕化石。p.55-58.

三本健二\*：高知県の更新統足摺層産コケムシ。p.59-62.

#### 資料紹介

岡本治代：徳島県小松島市前山遺跡出土埴輪。p.63-74

植地岳彦：「古鏡帳」の三角縁神獸鏡について。p.75-82

### (2) 公表論文・報告・記事等一覧

(\*印：館外研究者)

#### ●動物

〈学術的著述〉(☆：査読付学術雑誌)

☆ Yamada, K. & Yasunaga, T. (2021.10) The tribe Anthocorini in Japan (Hemiptera: Anthocoridae) : descriptions of new species, review of distribution and bionomics. *Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae*, 61: 375-426.3

大野友豪\*・山田量崇 (2021.06) クロバズイムシハナカメムシを愛知県で採集。佳香蝶, 73:74.

加藤敦史\*・山田量崇 (2022.03) 四国におけるヘクソカズラゲンバイ *Dulinius conchatus* Distant, 1903 の分布拡大。徳島県立博物館研究報告, (32) :7-12.

広渡俊哉\*・屋宜禎央\*・鈴木信也\*・外村俊輔\*・小林茂樹\*・山田量崇 (2022) 徳島県海部郡海陽町2地点での蛾類調査—2012年の調査結果—。徳島県立博物館研究報告, (32) :13-25.

大原賢二\*・山田量崇 (2022) アサギマダラの移動に関する徳島県の記録 (2021年)。徳島県立博物館研究報告, (32) :27-43.

☆ Ito, T., Hoshino, K\*. & Hosoya, K\*. (2021. 06) Osteology of *Hemigrammocypripis neglecta* (Teleostei: Cypriniformes) with comments on its systematic position. *Zootaxa*, 4995 (1): 147-160.

井藤大樹・乾 隆帝\* (2021.06) 香川県小豆島から採集されたイトミミズハゼ。南紀生物, 63 (1) : 42-45.

☆井藤大樹・奥村大輝\* (2021.09) 徳島県初記録のナンセンハゼとイチモンジミミズハゼ。Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 12 : 1-7.

☆井藤大樹・難波拓登\*・庄野耕生\* (2021.12) 徳島県初記録のナンヨウボウズハゼ。Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 15 : 10-16.

#### 〈一般著述〉

山田量崇 (2021.9) 徳島県産地下性・洞窟性の昆虫類標本。徳島県立博物館ニュース(館蔵品紹介), (124) : 6.

山田量崇 (2021.11) 誰もがつどえ、楽しく学べる博物館を目指して。初等教育資料 (1013) : 76-77.

山田量崇 (2022.3) 四国で分布を拡大する外来昆虫。徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (126) : 2-3.

井藤大樹 (2021.06) 新常設展に向けたセトウチサン ショウウオの収集。徳島県立博物館ニュース(特集), (123) : 4.

阿波魚類研究会 (監修・編集：井藤大樹) (2021.12) コウノトリ生息エリアの魚類図鑑。特定非営利活動法人とくしまコウノトリ基金, 徳島.

#### ●植物

〈学術的著述〉(☆：査読付学術雑誌)

☆Yukawa J. \*, Kim W. \*, Nishino T. \*, Minami T. \*, Yamauchi S. \*, Ogawa M. and Ohara K. \* (2021.8) A new and a described species of *Cystiphora* (Diptera:Cecidomyiidae) from Japan, with reference to geographically diversified intraspecific

populations of *C. taraxaci* and its host range expansion from native Japanese to alien and hybrid species of *Taraxacum* (Asteraceae). *Entomological Science* 24, 284-301.

☆茨木 靖・吉野圭哉\*・中西弘樹\* (2021.12) オニカンラン (新称) *Canarium decumanum* Gaertner の国内における漂着事例. 漂着物学会誌 19: 23-24.

茨木 靖・浅井元朗\*: ワセビエ *Echinochloa colonia* (L.) Link の花序の毛について. 徳島県立博物館研究報告, (32): p.51-54.

#### 〈一般著述〉

小川 誠 (2021.9) 藍染めを楽しもう. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (124): 2-3.

茨木靖 (2021.3) 特別陳列 徳島まるづかみ展—コミュニケーションで展示を楽しもう!—. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (122): 1.

茨木 靖 (2021.9) 徳島で“モラエスの花”と呼ばれる花は、何という名前でしょうか?. 徳島県立博物館ニュース (Q & A), (124): 7.

#### ●地学

##### 〈学術的著述〉 (☆: 査読付学術雑誌)

☆Misaki, A.\* & Tsujino, Y. (2021.4) A new species of the heteromorph ammonoid *Didymoceras* from the Upper Cretaceous Izumi Group in Shikoku, southwestern Japan, and its evolutionary implications. *Paleontological Research*, 25: 127-144.

中尾賢一・辻本裕也\*・大嶋秀明\* (2022.3): 鳴門市里浦町で発見された更新統とその花粉分析. 徳島県立博物館研究報告, (32): 1-6.

##### 〈一般著述〉

中尾賢一 (2021.6) 新発見のスイギュウ化石が展示されます. 徳島県立博物館ニュース (特集), (123): 7.

中尾賢一 (2021.12) 緑色にかがやくざくろ石. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (125): 1.

辻野泰之 (2021.6) 徳島県の恐竜化石産地調査. 文化あなん. 24: 3-7.

辻野泰之 (2021.6) 徳島恐竜コレクション. 徳島県立博物館ニュース (特集), (123): 5.

御前明洋・辻野泰之 (2021.9) 化石友の会コーナー *Paleontological Research* 掲載論文の解説 四国の上部白亜系和泉層群から産出した異常巻アンモノイド *Didymoceras* の新種とその進化的意義. 化石, (110): 40-41.

辻野泰之・矢部 淳 (2021.9) 化石友の会コーナー 日本古生物学会 2021 年年会 普及講演会・岡山理科大学恐竜学博物館バーチャルツアー報告. 化石, (110): 41-42.

辻野泰之 (2022.3) 阿讃山脈産のノストセラス科アンモノイトの新種. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (126): 6.

辻野泰之 (2022.3) 書評 東海化石研究会創立 50 周年記念 日本のジュラ紀アンモノイト図鑑. 化石, (111): 49-50.

#### ●考古

##### 〈学術的著述〉

植地岳彦 (2022.3) 「古鏡帳」の三角縁神獣鏡について. 徳島県立博物館研究報告, (32): 75-83

岡本治代 (2021.12) 徳島県. 日本考古学協会編「日本考古学年報」, (73): 223-238.

香川将慶\*・妹尾周三\*・岡本治代・白石 順\* (2022.2) 四国・山陽地方. 奈良文化財研究所編「古代瓦研究 XI—鴟尾—」: 223-238.

岡本治代 (2022.2) 四国地方の鬼瓦. 奈良文化財研究所編「鴟尾・鬼瓦の展開 II—鬼瓦— 発表要旨」, 奈良文化財研究所: 223-238.

岡本治代 (2022.3) 徳島県小松島市前山遺跡出土埴輪. 徳島県立博物館研究報告, (32): 63-74.

岡本治代 (2022.3) 鳥居龍蔵の愛知調査関連資料Ⅲ. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (5): 81-105.

##### 〈一般著述〉

植地岳彦 (2021.10) 水銀朱の生産, 水銀朱の生産と使用令和 3 年度「史跡若杉山辰砂採掘遺跡」普及啓発講演会 朱を考古学する part5 資料集: 1-6.

植地岳彦 (2021.12) ここに遺跡があります—トンネル内に描かれた絵と板野町の弥生遺跡—. 徳島県立博物館ニュース (歴史散歩), (125): 6.

植地岳彦 (2022.3) 考古資料の 3D 画像は、どのように作るのでしょうか?. 徳島県立博物館ニュース (Q & A), (126): 7.

岡本治代 (2021.6) 考古資料のハンズオンキット. 徳島県立博物館ニュース (特集), (123): 2-3.

岡本治代 (2022.1) 遼代の施釉瓦 (今期の逸品), 鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER, (1): 1.

#### ●歴史

##### 〈学術的著述〉

長谷川賢二 (2022.2) 四国遍路と熊野信仰の関係をめぐる再検討. 石井伸夫・重見高博・長谷川賢二編「戦国期阿波国のいくさ・信仰・都市」, 戎光祥出版: 225-250.

長谷川賢二 (2022.3) 鳥居龍蔵研究の課題と方向性—徳島県立鳥居龍蔵記念博物館 10 年の歩みを中心に—. 鳥居龍蔵研究, (5): 3-18.

##### 〈一般著述〉

長谷川賢二 (2021.4) 山伏集団の形成. 現代思想, 49 (5)



216-228.

鈴木正崇\*・長谷川賢二・林 淳\* (2021.4) 修験道とは何か—研究史と展望—. 現代思想, 49 (5) 248-273.

長谷川賢二 (2021.5) 日本人の起源を探る 鳥居龍蔵知の旅〈2〉 学問人生の原点. 徳島新聞 5月8日.

長谷川賢二 (2021.7) 四国遍路と世界の巡礼—愛大研究センター通信—〈49〉 聖護院道興の西国・四国下向とその伝承. へんろ, (448) : 4.

長谷川賢二 (2021.12) 四国遍路はどうして「遍路」というのですか?. 徳島県立博物館ニュース (レファレンス Q&A), (125) : 7.

長谷川賢二 (2022.3) 古代・中世の切幡寺. 徳島県編「四国八十八箇所霊場と遍路道」調査報告書 21 得度山灌頂院切幡寺 四国八十八箇所霊場 第10番札所, 徳島県 : 9-11.

大石雅章\*・長谷川賢二・町田 哲\* (2022.3) まとめ. 徳島県編「四国八十八箇所霊場と遍路道」調査報告書 21 得度山灌頂院切幡寺 四国八十八箇所霊場 第10番札所, 徳島県 : 95.

松永友和 (2021.9) 「みとものつら絵巻」に描かれた江戸供家老—新常設展の準備の過程から—. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (124) : 5.

#### ●民俗〈学術的著述〉(☆: 査読付学術雑誌)

庄武憲子 (2021.12) コロナ禍と民俗. 四国民俗, (50) : 20-23.

#### 〈一般著述〉

庄武憲子 (2021.6) 長さ10メートル以上にもなる御守!. 徳島県立博物館ニュース, (124) : 表紙.

庄武憲子 (2022.3) 祖谷の畑作物. 徳島県立博物館ニュース, (126) : 5.

磯本宏紀 (2021.6) 新常設展グランドオープン 徳島まるづかみ—「いのち」と「とき」のモノ語り—. 徳島県立博物館ニュース, (123) : 1.

磯本宏紀 (2021.6) 吉野川上流でのアユ釣り映像撮影—VR体験ルームのコンテンツ制作の裏側—. 徳島県立博物館ニュース, (123) : 6.

磯本宏紀 (2021.12) コロナ禍と民俗・暮らしぶりの変化. 徳島県立博物館ニュース, (125) : 5.

磯本宏紀・神野善治\* (2022.2) 研究会報告 2021年度三学会共催シンポジウム (オンライン開催)「民具と道具と生活用具—モノから暮らしをみつめる—. 民具研究, (163) : 28-31.

磯本宏紀 (2022.2) 大会参加記 徳島の自宅からの、茨城大会への参加記. 地方史研究, (415) : 93-95.

#### ●美術工芸

#### 〈学術著述〉

大橋俊雄 (2022.3) 聴講記録 鳥居龍蔵の城山貝塚に関する講演. 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告, (5) : 63-79.

#### 〈一般著述〉

大橋俊雄 (2021.12) 絵師・矢野伊章栄光について. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (125) : 2-3.

大橋俊雄 (2022.3) 初公開! 阿波の大名 蜂須賀家の火消が描かれた図. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (126) : 1.

### (3) 学会・研究会等での発表

(\* 印: 館外研究者)

#### ●動物

井藤大樹 (2021.09) ホトケドジョウ属魚類をめぐる近年の分類事情. 第55回魚類学会年会 (シンポジウム: ホトケドジョウ学事始め~ホトケドジョウ属魚類の進化・生態・保全をめぐる~) (オンライン).

井藤大樹 (2021.09) ナガレホトケドジョウ斑紋型と無斑型の分布. 第55回魚類学会年会 (シンポジウム: ホトケドジョウ学事始め~ホトケドジョウ属魚類の進化・生態・保全をめぐる~) (オンライン).

#### ●歴史

長谷川賢二 (2021.6) 顕密寺院における中近世移行の様相. 「武家拠点」科研・徳島研究集会 2021「中近世移行期における城・寺・まち・ムラ」(徳島).

長谷川賢二 (2022.1) 中世阿波の地下文書について. 第12回中世地下文書研究会 (オンライン).

#### ●民俗

磯本宏紀 (2021.10) 漁業概要の分析と今後の展望. 「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト研究会 (洲本).

磯本宏紀 (2021.10) 釣り漁師の移動ネットワークと変質—徳島県鳴門市瀬戸町堂浦漁民の事例を中心に—. 日本民俗学会第73回年会 (オンライン).

磯本宏紀 (2021.11) 「徳島まるづかみ」事業と地域連携—徳島県立常設展リニューアルをめぐる—. 日本民俗学会第916回談話会 (オンライン).

磯本宏紀 (2021.12) 地域とともに創る展示—「徳島まるづかみ」事業から徳島県立博物館常設展リニューアルまで—. 日本ミュージアム・マネジメント学会中・四国支部会 (徳島).

## IV 資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来、次の4つを基本方針として資料を収集している。

- (1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
- (2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
- (3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
- (4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換など様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、県民や官公庁からの資料の寄贈も多い。

収集した資料は、調査研究、展示、普及教育活動、他の博物館や研究者への貸し出しなどを通じて有効に活用している。

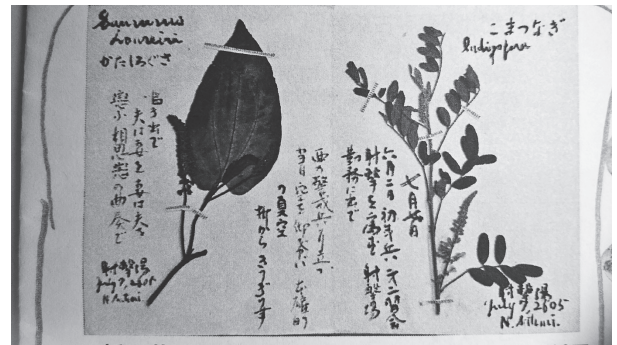
令和3年度は5人（人文1、自然4）の会計年度任用職員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

### 1. 採集資料

- 動物（脊椎動物）
  - ホトケドジョウ類 多数
  - 徳島県産海岸性魚類 多数
  - 徳島県産淡水魚類 多数
  - 徳島県産両生類 多数
- 動物（無脊椎動物）
  - アナンムシオイ・ハリマキビ 14点
- 動物（昆虫）
  - ゲンジボタル 10点
- 植物
  - 県内各地の標本 多数
- 地学
  - 牟岐メランジェ産岩石標本 3点
  - 白亜紀蝦夷層群の化石 3点
  - 上勝町の藤川層の化石 2点
  - 登層産貝化石 約100点
  - 勝浦町恐竜化石含有層産出脊椎動物化石 230点

### 2. 購入資料

- 植物
    - 里見信生植物標本帖 折々草 1点
  - 地学
    - マンテリサウルス下顎骨 1点
    - モロッコ産の白亜紀ワニ下顎 1点
  - 歴史
    - 紀伊国名所図会（全23冊） 23点
  - 美術工芸
    - 谷田蒔絵 花卉模様四段重箱 1点
- 購入資料合計 27点



里見信生植物標本帖 折々草



マンテリサウルス下顎骨



谷田蒔絵 花卉模様四段重箱

## 3. 寄贈資料

## ●動物（脊椎動物）

徳島県産鳥類	1式	徳島区検察庁
徳島県産鳥類	1式	柴折史昭氏
アカショウビン	1点	吉本 旭氏
トビ	1点	大原賢二氏
ハイタカ	1点	矢間利彦氏
クマタカ	1点	濱田浩二氏
徳島県産両生類	1式	田村 毅氏
シロマダラ	1点	浜本 巧氏
ナンヨウボウズハゼ	1点	難波拓登氏

## ●動物（無脊椎動物）

ウミウサギ	1点	
		海洋自然博物館マリンジヤム
マツモトハエトリ	1点	佐野福也氏
コハクオナジマイマイ	2点	中上春子氏
オオムカデ属の一種	1点	福井氏

## ●動物（昆虫）

ナベブタムシ	2点	広野小学校
ミナミヤンマ標本	2点	吉田一夫氏
徳島県産蛾類標本	243点	樋口博美氏
徳島県産甲虫類標本	426点	増田敏雄氏
ミヤマクワガタ雌雄モザイク	1点	
		北岡和義・拓己氏
キイロスズメバチの巣	1点	平岡位佐夫氏
徳島県産水生昆虫液浸標本	222点	鳴門教育大学
ヒメコガネ（奇形）	1点	高石 健氏
クスベニヒラタカスミカメほか	39点	玉川晋二郎氏
徳島県産甲虫類標本	341点	団 泰伸氏
日本産トンボ類標本	5,205点	吉田一夫氏
徳島県産昆虫類標本	14,897点	和田賢次氏

## ●植物

長崎県産植物標本	1点	中西弘樹氏
香川県産植物標本	11点	久米 修氏
東京都産イネ科標本	1点	木場英久氏
宮城県産イネ科標本	6点	上野雄規氏
カイナンカンガレイパラタイプ他	91点	布施静香氏
広島県産イネ科標本	29点	西岡秀樹氏
ラオス産イネ科標本	1点	田金秀一郎氏
キビ属植物標本	4点	大場伸一氏
国内産チゴザサ標本	4点	佐藤広行氏

## ●地学

蝦夷層群産アンモナイト	2点	平島 昭氏
勝浦町産ヘテロセラス	1点	井内昌樹氏

透輝石	2点	田上 茂氏
北海道産の化石	7点	平島 昭氏
京都産紅柱石	4点	田上浩久氏
高知県産コケムシ化石	8点	三本健二氏
物部川層群および和泉層群産の化石	9点	奥平耕右氏
勝浦町産の貝化石	6点	四宮義明氏
栗坂層産の化石	2点	鎌田誠一氏
鳴門市産材化石	1点	白石弘幸氏
徳島県・岡山県産鉱物	7点	阿部 肇氏
神戸層群産珪化木	1点	原田雅子氏
勝浦町産竜脚類恐竜の歯	1点	

小林亮介氏・小林敬治氏

徳島県産化石	約50点	
		澤 靖彦氏・北田善信氏・小野 守氏
土佐清水市産アサガオガイ類化石	1点	三本健二氏

阿南市産方解石	1点	阿部 肇氏
蝦夷層群産キダリス化石	1点	平島 昭氏
土柱層産植物化石	5点	鎌田誠一氏

## ●考古

勢合銅鐸	1点	西野武明氏
縄文石器	22点	本田義順氏

## ●歴史

吹田家資料（62件）	151点	吹田 僚氏
日記中棟方ほか	2点	福永和子氏

## ●民俗

压榨器、畚	3点	生田信皓氏
大谷焼茶つぼほか	5点	坂東協二氏
床本ほか	59点	藤谷 愛氏
掛け軸（阿州神通山）ほか	2点	尾形隆平氏
仏像印刷石版	2点	船井健三氏

## 4. 寄託資料

令和3年度末時点で寄託されている資料は78件あり、3年度に新たに寄託された資料は、次の通りである。

絵本太功記 武知光秀（天狗久作）ほか	4点	徳島バス株式会社
中山勝哲筆 虎図	1点	村井道明氏

## 5. 資料の貸し出し

実物やレプリカ、模型など資料の貸し出しは次の通りである。なお、学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」に記載した（詳細は p.23 参照）。

### ●動物

シロヒレタビラ	1点	伊藤 玄氏（龍谷大学）
ムシオイガイ類標本	2点	矢野重文氏
ムシオイガイ類標本	1点	矢野重文氏

### ●地学

カメの甲羅化石ほか脊椎動物化石	5点	勝浦町教育委員会
穴内層産イモガイ化石	13点	加瀬友喜氏（神奈川大学）
鳴門海峡海底産トウキョウホタテ化石	1点	近藤康生氏（高知大学）
パラレゴセラスほか化石資料	47点	愛媛県総合科学博物館

### ●考古

徳島県若杉山辰砂採掘遺跡出土品	71点	京都国立博物館
神山町出土石棒	1点	徳島市立考古資料館

### ●歴史

豊臣秀吉朱印状ほか	3点	愛媛県歴史文化博物館
徳島大空襲関係遺物	2点	徳島県立文書館
徳島大空襲関係遺物	2点	徳島県立文書館
徳島大空襲関係遺物	2点	徳島県立文書館

### ●美術工芸

みとものつら絵巻（月巻）	1点	愛媛県歴史文化博物館
--------------	----	------------

## 6. 写真・映像の提供

フィルムなど媒体の貸し出し及びデジタルデータの提供は、次の通りである。

### ●動物

徳島県産淡水魚類画像	12点	あすたむらんど徳島
カワバタモロコ保全活動紹介パネル		

	1点	あすたむらんど徳島
徳島県産陸貝画像	3点	阿波銀行
ミカドアゲハ画像	1点	
		徳島県南部総合県民局地域創生防災部

### ●地学

パラプゾシア（アンモナイト）レプリカ標本の写真	1点	多摩六都科学館
イガタニシの化石画像	1点	（株）増進堂
忠類ナウマンゾウの全身骨格展示状況写真	2点	幕別町教育委員会
徳島県産恐竜化石写真	2点	愛媛県総合科学博物館
徳島県産恐竜化石写真	4点	勝浦町教育委員会
徳島県産恐竜化石写真	4点	荻野慎諧氏（勝浦町教育委員会）
菱マンガン鉱写真データ	2点	（株）ネクサス
ティタノサウルスほか恐竜イラスト	2点	愛媛県総合科学博物館
勝浦町産肉食恐竜写真	1点	勝浦町地域活性化協会
放散虫を含む泥岩ほか	2点	西原侍生氏（香川県立丸亀西高等学校生徒）
アラウカリア球果写真	1点	（株）共同テレビジョン
勝浦町産化石復元イラストデータ	4点	勝浦町
徳島県内産化石、露頭写真データ	11点	（株）ガリバープロダクツ
鉱物および化石写真データ	11点	（株）第一学習社
勝浦町産肉食恐竜写真	1点	勝浦町地域活性化協会
コダイアマモ模式図	1点	大阪市立自然史博物館

### ●考古

人物埴輪の写真	2点	徳島県小学校教育研究会社会部会 社会科ワークブック編集委員
	1点	NPO 法人むきばんだ応援団
神山町出土石棒他の写真	2点	徳島市立考古資料館
前山遺跡出土人物埴輪他	2点	TRC-ADEAC 株式会社
伝長者ヶ原1号銅鐸他	2点	

TRC-ADEAC 株式会社

●歴史

- 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真  
1点 株式会社ディラナダチ
- 三十二番職人歌合絵巻（結桶師）写真  
1点 株式会社日本入試センター
- 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真  
1点 阿波池田郵便局
- 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真  
1点 ダイードドリコ株式会社
- 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真  
1点 吉野川市立鴨島図書館
- 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真  
1点 井上書房
- 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真  
1点 美馬市立図書館
- 鶴岡放生会職人歌合絵巻（蒔絵師）写真  
1点 博多漆芸研究所
- 旧徳島県教育会館写真 2点  
公益財団法人徳島県労働者福祉協議会  
とくしま社会運動資料センター

- 徳島御城下絵図写真 1点  
特定非営利活動法人徳島はつらつボランティア
- 旧山西邸板戸写真 1点 橋詰 茂氏
- 御国産名物見立相撲写真 1点 町田 哲氏

●民俗

- 磨テグス写真 1点  
株式会社アルバ
- 岩朝哲男氏撮影写真資料 1点  
大塚ホールディングス株式会社
- 阿波人形浄瑠璃舞台図写真 1点  
株式会社山川出版社
- 岩朝哲男氏撮影写真資料 1点  
大塚製薬株式会社
- 岩朝哲男氏撮影写真資料 3点  
大塚製薬株式会社
- 岩朝哲男氏撮影写真資料 1点  
大塚ホールディングス株式会社
- 岩朝哲男氏撮影写真資料 3点  
株式会社大塚製薬工場
- 岩朝哲男氏撮影写真資料 1点  
大塚メディカルデバイス株式会社

●美術工芸

- 脇指 銘阿州海部住藤原氏吉写真  
1点 株式会社天夢人
- 守住貫魚筆 全国名勝絵巻（軀湊図）写真  
1点 福山城博物館友の会

- みとものつら絵巻 雪巻（藩主乗物）写真  
1点 徳島市立徳島城博物館

## 7. 資料の提供

令和3年度は、資料の提供を行わなかった。

## 8. 資料の交換

研究や展示、普及など様々な活動に活用するため、国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内などで採集した標本を、他の地域の大学・博物館などとの間で交換することである。

植物標本について、例年、東北大学、北海道大学、福島大学など国内の研究機関の他、オレゴン州立大学及びソウル大学と定期的な標本交換を行っているが、3年度については実施していない。

## 9. 館蔵資料数

令和4年3月31日現在の分野別収蔵資料数は、表の通りである。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースに登録している。

## 10. 資料収集委員会

本委員会は、博物館が収蔵する資料の適正な購入を図るため、購入予定資料（予定価格100万円以上）について審査する目的で設置されている。委員は、対象となる資料に応じてその都度5名以内を未来創生文化部長が委嘱する。

令和3年度は、委員会を開催していない。

## 11. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌の他、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。ま

## ●分野別収蔵資料数（令和4年3月31日現在）

分野	点数	内訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
脊椎	25,548	25,461	67	14	6
無脊椎	49,327	49,261	0	58	8
昆虫	238,305	236,972	0	7	1,326
植物	199,535	199,150	79	24	282
地学	10,664	10,521	140	3	0
考古	8,553	8,402	73	19	59
歴史	13,445	12,657	26	4	758
民俗	19,006	18,996	5	5	0
美術工芸	9,877	9,867	1	4	5
合計	574,260	571,287	391	138	2,444

た、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。なお、平成27年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。

## ●図書冊数（データベース登録数による）

14,642冊（うち令和3年度分 寄贈図書14冊、購入図書99冊）

## ●購入雑誌

自然史系（7タイトル）：科学、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌

人文系（23タイトル）：美術研究、美術史、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、文化財発掘出土情報、季刊考古学、古代文化、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、文化人類学、日本歴史、歴史学研究、歴史評論、史林、史学雑誌、民具研究、人文地理、日本史研究

博物館学（2タイトル）：博物館研究、ミュゼ

## ●当館刊行物の定期発送先（令和3年3月末現在）

博物館ニュース	1,152 箇所
博物館年報	319 箇所
研究報告（国内）	431 箇所
（国外）	37 箇所
展示解説	91 箇所
企画展図録（自然）	164 箇所
（人文）	241 箇所

## 12. 資料の保存

## (1) 資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、収集した資料や貸し出し後に返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では、資料の形態や量な

どによって、次の①～③の3種類の燻蒸を行ってきた。

## ①常圧燻蒸庫での燻蒸

まとまった量や大型の資料は、一時保管庫（24時間温湿度管理）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫において燻蒸を行う。

常圧燻蒸庫は床面積20㎡×高さ3m（約60㎡）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。平成17年1月からは酸化エチレン製剤を使用している。

令和3年度は、2回実施した。

## ②収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどに伴って、資料の保存に悪影響を与える害虫やカビなどが侵入することがある。そのため、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

3年度は、10月10日から16日まで歴史民俗収蔵庫と生物収蔵庫において実施した。

## ③二酸化炭素を用いた殺虫処理

寄贈や寄託を受けた資料のなかで、虫害が目立つものの、またその恐れがあるものについては、燻蒸庫燻蒸に先んじて二酸化炭素を用いた殺虫処理を行っている。

3年度は実施しなかった。

## (2) 展示室における資料保存環境の管理

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず、展示室全体の燻蒸が不可能である。また、室内の空調は温度設定のみ可能であり、湿度のコントロールができない。さらに、近年は省エネルギー化のため、空調運転時間が減少していることから、室温上昇による資料への影響が懸念される。

このような環境の中で、資料の虫菌害を防ぐとともに

に、資料保存に適した温湿度を維持するため、外気温が上昇する夏季などは、設備調整などにより適宜温湿度の管理を行っている。常設展リニューアルにあたり、部分的に空調設備を増設し、環境整備を進めた。

また、第3期中期活動目標（平成26～30年度）では、常設展示室の定期点検を目標として定めており、26～27年度に、資料害虫のモニタリング、温湿度の計測を中心とした点検項目を検討した。28年度からは、学芸員の輪番制で月に1回程度点検を実施している。

令和3年度の4月から7月まで（リニューアル工事期間中）は、工事の妨げとならない場所で、資料害虫モニタリングと温湿度の測定を行った。その結果、資料害虫は確認されなかった。温湿度については工事期間で空気調整ができず、外気の影響を強く受けて変動が大きかった。

リニューアル工事竣工に際しては、展示室内空気中化学物質の濃度測定を10か所で行った。その結果、いずれの場所においてもホルムアルデヒド等の対象物質濃度は、基準値以下であることが確認された。展示ケースについては、資料に対する有害物質である有機酸・アンモニア・ホルムアルデヒドの濃度測定およびケースの密閉度測定を行った。有害物質の測定では、アンモニアが基準値を超える展示ケースが多く確認されたため、ケース内部や展示台などの什器に対して、測定値が基準値以下となるまで、サーキュレーター等によって強制的に風乾し、蒸散を促進した。密閉度については、エアタイトケースに対して調査し、新規・改修ともに目標値に達することを確認した。

リニューアルオープン後は、展示室内およびケース内の温湿度について、設置型の測定センサーおよびデータロガーでモニターを継続している。オープンが8月でその後も湿度の高い状態が続き、冬季は逆に低湿度状態となったが、展示ケースについては、内部に大量の調湿剤を使用することで、適した湿度を維持した。

資料害虫については、月に1度の頻度でトラップ調査を実施した。リニューアル後の常設展示室の資料害虫の発生傾向をつかむため、旧常設展で実施していた5か所を大きく上回る25か所で、モニタリングを開始した。夏季の多湿期間は、展示室床でチャタテムシの発生が確認されたが、冬季になると減少し、ほぼ終息した。現段階ではリニューアルから1年間を経過しておらず、今後の経過を注視する必要がある。また、ATP（アデノシン三リン酸）拭き取り検査法を試験的に導入し、展示資料や設備での微生物の活動状況について検討を始めた。

企画展示室については、パッシブインジケーターによる空気環境調査を行った。その結果、壁面ケース内において基準値以下であったが、アンモニア値の上昇が確認された。近年導入した展示台からアンモニアが発生している可能性が高く、該当する展示台をケース内から取り出し、蒸散作業を実施した。

### (3) 収蔵庫における資料保存環境の管理

収蔵庫を日常的に点検することは、燻蒸とともに資料の安全な保存管理のひとつである。それにより、害虫の発生や侵入を事前に防除あるいは早期に発見できるだけでなく、収蔵スペースの確保、耐震対策にもつながり、収蔵庫の適正な管理が可能となる。

当館では、平成25年度より学芸員の輪番制で月に1回程度、収蔵庫定期点検表に基づく各収蔵庫の点検を行っており、令和3年度も継続して実施した。

3年度は、生物収蔵庫・歴史民俗収蔵庫・特別収蔵庫で、パッシブインジケーター及びガス検知管による空気環境のモニタリングを行った。その結果、基準値以下であったが、有機酸の濃度の上昇が確認された。空気環境の適正化のため、ケミカルフィルターの定期的な交換が必要である。また、資料収納の高密度化を図るため、生物収蔵庫内の壁面の一部に、ワイヤーメッシュを設置した。



収蔵庫全室密閉燻蒸の準備



収蔵庫全室密閉燻蒸の排気

#### (4) 資料保存に関する設備・機器の管理

開館から30年以上が経過し、資料保存に関する設備・機器についても老朽化が進んでいる。燻蒸庫及び燻蒸設備の不備は十分な燻蒸効果を妨げるうえ、重大な事故や環境汚染につながりかねない。そのため、定期的なメンテナンスを行い、常に万全の状態を保ちながら運用する必要がある。

3年度は、常圧燻蒸庫の燻蒸作業に付随して活性炭交換を実施した。あわせて、日常的な温湿度の点検に使用しているデジタル温湿度計の湿度を、アスマン式通風乾湿計を用いて校正した。



ワイヤーメッシュの取付（生物収蔵庫内）



# V 情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、活動に関する様々な情報を発信していくことは、博物館にとって非常に重要な活動である。近年は、インターネットによる情報発信が重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

## 1. 博物館の広報活動

博物館ニュース、企画展ポスター、年間催し物案内、月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供等により、博物館事業の広報活動を行っている。

### ●博物館ニュース、ポスター等の主な定期発送先

小学校	169 か所
中学校	86
高等学校・支援学校・その他学校	61
学会・研究所・同好会等	60
県及び県教育委員会各課・機関	54
市町村教育委員会	25
公民館・隣保館	204
市町村及び大学図書館	33
博物館施設等	308
宿泊施設等	38
報道関係機関等	61

### ●報道機関への資料提供

令和3年度は、次のとおり資料提供を行った（月間催し物案内を除く）。

4月13日	令和3年度特別陳列「徳島まるづかみ展—コミュニケーションで展示を楽しもう!—」の開催について
4月20日	「二枚貝と共生する奇妙な形をしたアンモナイトの新種の発見」について
6月1日	令和3年度ボランティアスタッフの公募について
8月7日	徳島県立博物館・新常設展内覧会
9月7日	第7回「勝浦町恐竜発掘活性化協議会」の開催について
11月24日	勝浦町恐竜化石含有層本格発掘調査（後方支援施設での小割作業）につい

て

10月6日	令和3年度企画展「徳島おふだコレクション ～はらいたまえ きよめたまえ～」の開催について
11月12日	歴史・文化コレクション「名所図会でめぐる江戸時代」の開催について
1月14日	歴史・文化コレクション「盾持人“里帰り”記念 前山遺跡出土埴輪展」について
1月26日	徳島県立博物館ボランティアスタッフによるイベントの開催について
3月4日	第8回「勝浦町恐竜発掘活性化協議会」の開催について
3月15日	歴史・文化コレクション「太布一樹皮から布をつくる手仕事—」について

## 2. テレビ・ラジオへの出演等

出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

4月5日	松永友和 NHK 徳島放送局「とく6徳島」（「古地図等歴史資料」の寄贈に係る贈呈式について）
8月1日	松永友和 四国放送ラジオ「ラジオ遍路・88の音巡り」（「武士の四国遍路」『四国遍路と世界の巡礼』6号の内容について）
8月9日	新居美佐子 エフエムびざん「B-STEP TALKING」（新生・博物館の魅力について）
8月20日	新居美佐子 エフエム徳島「FRIDAY ON LINE」（新生・博物館の魅力について）
8月20日	新居美佐子 ケーブルテレビ徳島「ステップ」（新生・博物館の魅力について）
8月26日	井藤大樹 四国放送テレビ「ゴジカル！」（常設展示室のリニューアルについて）
9月26日	磯本宏紀・辻野泰之・植地岳彦・松永友和・大橋俊雄・中尾賢一・山田量崇・井藤大樹 エーアイテレビ「テレビ

- ミュージアム](常設展示室のリニューアルについて)
- 9月27日 辻野泰之 ケーブルテレビ徳島「ステップ」(普及行事「アンモナイト標本をつくろう) について)
- 10月10日 長谷川賢二 四国放送ラジオ「日曜懐メロ大全集」(新常設展、人権博物館について)
- 11月5日 庄武憲子 ケーブルテレビ徳島「たまたま金曜日～錦君! 当時ものですよ!!～」(企画展「徳島おふだコレクション ～はらいたまえ きよめたまえ～」)
- 11月29日 松永友和 四国放送テレビ「フォーカス徳島」(歴史・文化コレクション「名所図会でめぐる江戸時代」について)
- 12月5日 松永友和 四国放送ラジオ「地方創生プログラム one-J」(歴史・文化コレクション「名所図会でめぐる江戸時代」について)
- 2月22日 新居美佐子 四国放送ラジオ「となりのラジオ」(新生・博物館の魅力について)
- 3月1日 山田量崇 四国放送ラジオ「となりのラジオ」(ようこそ県立博物館へ～学芸員が魅力を語ります～「昆虫」について)
- 3月5日 辻野泰之 四国放送ラジオ「こころの診療アラカルテ」(徳島県の恐竜化石発掘調査について)
- 3月8日 植地岳彦 四国放送ラジオ「となりのラジオ」(ようこそ県立博物館へ～学芸員が魅力を語ります～「銅鐸」について)
- 3月12日 辻野泰之 四国放送ラジオ「こころの診療アラカルテ」(アンモナイトの研究について)
- 3月14日 辻野泰之 四国放送テレビ「フォーカス徳島」(県内8点目の竜脚類恐竜の歯化石の発見について)
- 3月15日 辻野泰之 NHK 徳島放送局「とく6徳島」(県内8点目の竜脚類恐竜の歯化石の発見について)
- 3月15日 辻野泰之 四国放送ラジオ「となりのラジオ」(ようこそ県立博物館へ～学芸員が魅力を語ります～「アンモナイト」について)

- 3月19日 辻野泰之 四国放送ラジオ「こころの診療アラカルテ」(徳島県立博物館の常設展示室のリニューアルについて)
- 3月22日 大橋俊雄 四国放送ラジオ「となりのラジオ」(ようこそ県立博物館へ～学芸員が魅力を語ります～「谷田蒔絵」について)
- 3月25日 辻野泰之・植地岳彦・茨木 靖・井藤大樹 ケーブルテレビ徳島「十郎兵衛一家の阿波でござんぽ」(徳島県立博物館の常設展示室のリニューアルについて)
- 3月30日 辻野泰之 ケーブルテレビ徳島「ステップ」(国内最大級! 竜脚類恐竜の歯の化石発見について)

### 3. インターネットによる情報提供

#### (1) ホームページ

##### ①概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。平成11年7月よりホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/> を開設した。20年10月に「徳島県文化の森総合公園情報提供システム」が構築されたことから、ホームページを <https://museum.bunmori.tokushima.jp/> に変更した。閲覧者が利用しやすいよう、トップページのメニューボタンの設置、新しいコンテンツの作成、各種イベントの情報発信など、日常的にホームページの更新を行っている。

ホームページの内容は下記の通りである。

- ・博物館の紹介(開館日・交通案内など)
- ・展示案内(企画展、特別陳列、部門展示、常設展示)
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動(データベース)
- ・学校等への利用案内
- ・出版物(展示解説、研究報告、博物館ニュース等の案内)
- ・関連活動紹介(友の会、県博物館協議会など)
- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー(子ども向けメニュー、映像コーナー、自宅で博物館を楽しもう! など)

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

## 42 情報の発信と公開

資料データベースでは、人文、動物、植物、地学分野ごとに収蔵資料を検索できるシステムを構築している。資料の詳細情報や動植物の分布図等を公開している。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータ及び画像情報を専用フォルダーに入れておけば、自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は、月間催し物案内などについて定期的に行っている。それ以外にも、展示担当者、イベントボランティア担当者など、各担当者が随時行っている。

令和3年度は、8月にリニューアルした常設展のグランドオープンを迎えたが、新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらない時期に重なった。オープン直後の常設展示室は混雑が予測され、時間単位で観覧者の入場制限を行うこととなった。このため、人数制限に当たってはインターネットで事前に入館時間と人数を予約する「常設展観覧予約システム」を導入し、待ち時間がないスムーズな入館と、常設展示室内が過密状態になることによる感染リスクの低減を実現した。

### ②アクセス

3年度は、1年間でホームページへの総アクセス数が約1028万件あった。ホームページへの総訪問者数は約41万人であった。

### ③ホームページシステムの刷新

当館では、ホームページで膨大な情報を長期間に渡って提供し、利用者の便宜をはかる改良を随所に行ってきた。しかし、システムとしては構築から長い時間が経過し、現在の水準では機能的に不十分な場面が多くなってきた。特にスマートフォンをはじめとす

る携帯端末への対応は一部のページに限られ、ユーザビリティやアクセシビリティへの対応も十分ではなかった。

このような問題を解決するため、CMSによって管理運営・情報公開が可能で、アクセシビリティにも配慮した新ホームページシステムに刷新することとなった。新ホームページシステムへの刷新業務は、プロポーザル方式で企画提案を募集し、最も優れた提案を行った事業者に委託した。

新ホームページシステムは、3年度中にシステム構築を完了しており、4年度より本格運用を行う予定である。

## (2) Facebook (フェイスブック) ページ

インターネットメディアの多様化とソーシャルネットワークサービス（以下SNS）の普及に伴い、博物館をはじめとする社会教育機関においてもSNS等を活用した情報発信、情報交流が進められている。当館では、公式Facebookページを開設し、28年3月18日より運用を開始した。

Facebookページでは、博物館の催し物や活動等の情報を発信している。3年度は、65件の記事を新たに掲載した。内容は、常設展リニューアルの進捗とグランドオープンの様子、企画展の告知、普及行事やボランティア活動の成果など、博物館の日常の活動を即時的に伝えている。また、勝浦町の恐竜化石に関する情報発信など、ホームページでは見られなかった即時性が特徴となり、情報提供のツールの一つとして活発に活用されている。

## (3) デジタルアーカイブの構築

「徳島県文化の森デジタルアーカイブ構築事業」により、新たに22点の資料を撮影した（累計91点）。また、TRC-ADEAC株式会社が制作・運営する、デジタルアーカイブの検索・閲覧を行うためのプラットフォームシステム「ADEAC」において、撮影データを公開した。

## (4) Youtubeチャンネル

情報提供を動画で行うことは日常生活の中でも身近なものとなってきた。当館では、動画共有サービスYoutubeに公式チャンネルを設け、3年度より本格的な運用を開始した。3年度は次の12本の動画をアップロードした。チャンネル登録者数は62人、総視聴回数は5341回であった（3年度末現在）。

### 1 【徳島県立博物館トピックビデオ 01】

新種の記載とタイプ標本—ナガレホトケドジョ

### ●月別のホームページへの総アクセス数と訪問者数

	訪問者数	アクセス数
2021年 4月	25,146	552,715
2021年 5月	30,310	675,495
2021年 6月	36,450	814,283
2021年 7月	40,566	970,244
2021年 8月	54,167	1,856,926
2021年 9月	41,675	1,088,741
2021年10月	47,381	950,186
2021年11月	36,982	776,288
2021年12月	25,787	626,047
2022年 1月	26,842	692,642
2022年 2月	22,986	590,697
2022年 3月	24,191	690,958
合計	412,483	10,285,222

- ウー (3分29秒) 2021/05/01  
撮影・編集：佐藤 陽一
- 2 【徳島県立博物館トピックビデオ 02】  
阿波晩茶 (徳島県 那賀町・上勝町) (4分20秒)  
2021/04/11  
撮影・編集：佐藤 陽一
- 3 【徳島県立博物館】  
チラノサウルス(旧常設展示)—レクイエム編—  
(1分43秒) 2021/04/16  
撮影・編集：佐藤 陽一
- 4 【徳島県立博物館】  
新常設展示工事 (旧展示資料撤去) 2020 (3分04秒) 2021/04/23  
撮影・編集：佐藤 陽一
- 5 【徳島県立博物館】  
新常設展示工事 2020—ティラノサウルス撤去  
作業タイムラプス— (5分35秒) 2021/05/01  
撮影・編集：佐藤 陽一
- 6 【徳島県立博物館】  
常設展示室リニューアルグランドオープン紹介  
動画 (10分06秒) 2021/08/11  
撮影・編集：ケーブルテレビ徳島
- 7 【徳島県立博物館】  
旧常設展示 2020 (4分43秒) 2021/08/11  
撮影・編集：佐藤 陽一
- 8 【徳島県立博物館】  
勝浦町恐竜化石発掘調査 2018 (5分54秒)  
2021/08/28  
撮影・編集：佐藤 陽一
- 9 【徳島県立博物館】  
新常設展示 2021 PV (1分57秒) 2021/09/05  
撮影・編集：佐藤 陽一
- 10 【徳島県立博物館トピックビデオ 03】  
若杉山辰砂採掘遺跡(徳島県阿南市) (4分15秒)  
2021/10/24  
撮影・編集：佐藤 陽一
- 11 【徳島県立博物館】  
新常設展「徳島まるづかみ—いのち”と”とき”  
のモノ語り(体験展示を楽しもう)」(4分01秒)  
2021/11/25  
撮影・編集：ケーブルテレビ徳島
- 12 【徳島県立博物館トピックビデオ 04】  
博物館のウラ側—植物標本の収蔵と製作—  
(4分57秒) 2022/01/25  
撮影・編集：佐藤 陽一

## 4. 外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成12年度及び13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

さらに、18年度からは、国立科学博物館が行っている自然系博物館における収蔵品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は、全国の科学系博物館のホームページの内容を横断検索するものである。サイエンスミュージアムネット (<https://science-net.kahaku.go.jp/>) を使うことによって、160館以上のホームページを一度に検索することができる。収蔵品データの検索も準備されており、26年度には当館から徳島県産維管束植物及び昆虫類のデータを整備し提供した。日本語の検索及び GBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) のデータとしても横断検索できるようになった。

## 5. 情報システムの概要

第5期文化の森のシステム更新が平成23年度に行われたが、29年度には第6期文化の森のシステム更新が行われた。基本的には前システムのパソコン等ハード、ソフトの置き換えである。令和2年度には、文化の森が知事部局へ移管されたことに伴い、徳島県文化の森総合公園情報提供システムを構築することになった。

博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。次のような構成で第6期システムの運用にあたっている。

### ①業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサーネット(1000BaseT)のLANでつないである。ファイルサーバ(Windowsサーバ)とデータベースサーバ(FileMaker Server16 Advanced)の2台のサーバを設置してある。サーバのデータは、二十一世紀館に常駐するSE(システムエンジニア)によって毎日バックアップがとられている。職員1人に1台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなく、ノート型パソコンを活用してい

## 44 情報の発信と公開

る。

### ②情報提供用システム

情報提供用としては、Linux サーバを用いて、WWW サーバと資料データベースを構築している。

柔軟なデータベース公開ができるように、MySQL サーバによる Web データベースを構築し、博物館資料データベース、図書データベース及び新聞記事データベースを、WWW サーバと連携させて公開している。インターネットの回線が徳島県立総合教育センターに集約されていたが、2年10月には、文化の森総合公園内に独立した情報提供用サーバを構築し、外部系サーバをコンピュータ室に設置、館内用サーバとともに管理している。

また、3年度にはホームページシステム刷新に伴い新たに CMS サーバを導入し、WWW サーバと連携させた。4年度より公開する計画である。

## 6. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、2年度に引き続きホームページに「自宅で博物館を楽しもう」のコーナーを設けて、来館しなくても博物館の展示などを楽しめる工夫をした。また、オンライン会議のツールであるズームを導入して、リモート授業や遠隔会議ができる環境を整えた。

## VI 県民協働・参画

博物館は、主として県民をサービスの対象として各種の事業を展開している。より県民に親しまれる博物館となっていくためには、利用者が主体的に関わって博物館と協働したり、博物館の事業に参画したりする機会をもつことが重要である。博物館が地域にしっかりと根を下ろすとともに、社会教育・生涯学習の振興、ひいては地域の活性化につながっていくよう、なお一層の県民協働・参画を推進したいと考える。

### 1. 博物館友の会

博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然や歴史・文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的として組織されたものである。幅広い年齢層の会員が集い、博物館活動への参加・支援を行い、さらには友の会独自の行事も行っている。事務局は当館内に置いている。

#### ■会員（令和3年度末）

個人会員（年会費 2,000 円）	40 人
（半年会費 1,000 円）	7 人
家族会員（年会費 3,000 円）	42 組 164 人
（半年会費 1,500 円）	6 組 20 人

#### ■役員（令和3年度）

会 長：行成正昭  
 副会長：徳野壽治、大杉洋子、新居美佐子（博物館長）  
 幹 事：幸坂敏行、結城孝典、本田壮一、坂井なつ  
 監 査：石尾和仁、中村由香

#### ■事業

##### ●博物館出版物の増刷・頒布

令和3年度博物館企画展の図録等（「徳島まるづかみ（展示解説）」「徳島おふだコレクション～はらいたまえ きよめたまえ～」「鳥居龍蔵と草原の遊牧王朝遼」）の増刷・頒布を行った。

##### ●広報活動

新規会員の獲得を目指し、勧誘ポスターの掲示や会員募集案内チラシの配布を行ったほか、催し物案内、博物館ニュース、企画展チラシ等を活用した。また、館内の掲示板や博物館ホームページを活用して、会員募集や活動報告等の情報発信に努めた。

友の会会報「アワーミュージアム」No.68・69 を発

行し、会員に配付した。

#### ① No.68（2021年12月31日発行）

徳島県立博物館常設展への思い～常設展リニューアルに向けて～

父と戦争

友の会行事報告 化石をさがそう

友の会行事報告 夜の文化の森たんけん（ブラックライトで光るものさがし）

友の会行事報告 浜辺の宝もの探し～ビーチコーミング入門～

報告 2021年度総会

新スタッフ紹介

#### ② No.69（2022年3月31日発行）

県立博物館と友の会の発展を願う

新設・県民コレクションで展示をつくる

友の会行事報告 拓本をとろう

友の会行事報告 徳島城を歩こう

友の会行事報告 銅鐸をつくろう

友の会行事報告 新常設展示室 展示解説

#### ●会員対象行事

会員を対象とする行事を7回実施した。

- ①化石をさがそう 5月29日（土）  
 場所：県立博物館 35人
- ②夜の文化の森たんけん（ブラックライトで光るものさがし） 8月28日（土）  
 場所：文化の森総合公園 15人
- ③浜辺の宝もの探し～ビーチコーミング入門～ 9月25日（土）



化石をさがそう

場所：美波町 田井ノ浜	12人
④拓本をとろう	11月6日(土)
場所：県立博物館	4人
⑤徳島城を歩こう	12月5日(日)
場所：徳島市	18人
⑥銅鐸をつくろう	12月11日(土)
場所：県立博物館	20人
⑦新常設展示室 展示解説	2月12日(土)
場所：県立博物館	20人

## 2. 公募ボランティア

平成17年度から、博物館の常設展示室を活用し、博物館や博物館資料の魅力を伝えるためのイベントを企画・運営するボランティアを公募し、毎年2月11日に開催しているボランティア企画イベント「博物館Vキング」に向けて、年間を通して活動している(年報第15号p.43～44参照)。

3年度は、常設展示室のリニューアルオープン後、初めてとなるボランティア活動であった。これまでは、常設展の活性化を目標として2月11日のイベントを中心にやってきたが、イベント以外の博物館活動にボランティアとして参加してもらう取り組みも行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年とは異なる運営を行った部分も多かった。

まず、例年は6月から活動を開始しているが、新型コロナウイルスの影響や8月に常設展のリニューアルオープンを控えていたことから、3年度は活動開始時期を遅らせ、9月から開始した。また、例年は、博物館資料や博物館の活動を紹介するとともに他団体の活動を学ぶため、徳島大学で開催される「科学体験フェスティバル in 徳島」などにブースを出展しているが、3年度は出展を見合わせた。こうした中でも、24人の

ボランティアスタッフが活動に参加し、年間を通じて14回の会合を開催し、1件のイベントを実施した。

また、イベント(Vキング)の開催を目標とした活動以外に、勝浦町の恐竜化石含有層の岩石の小割や博物館の資料の保存業務にも、ボランティアの方々に協力してもらった。

### ①博物館Vキング(2月11日(金・祝))

例年、同日に文化の森で開催される「文化の森ウインターフェスティバル」の一環として「博物館Vキング」を実施している。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、多くのウインターフェスティバルのイベントが中止となる中で、「博物館Vキング」を開催した。常設展示室のリニューアルオープン後、初めてとなる博物館Vキングであり、新常設展のコミュニケーションゾーンと実習室を利用し、イベントを行った。

内容は、コミュニケーションゾーンで実施した「めざせ!初代 徳島まるづかみ博士」、「絵本で知ろう博物館」と、実習室で実施した「手のひらミュージアム～レプリカ石けん&オリジナルしおりづくり～」の3つである。なお、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、「手のひらミュージアム～レプリカ石けん&オリジナルしおりづくり～」については、事前申し込み制とし、各回の参加者数も15人以内とした。コロナ禍の不安定な状況であったが、参加者もボランティアスタッフも反応がよく、好評であった。

参加者：258人

- 「めざせ!初代 徳島まるづかみ博士」  
(9:30～16:00)
  - 「絵本で知ろう博物館」(計2回):78組(227人)
  - 「手のひらミュージアム」(計3回):12組(31人)
- ボランティアスタッフ：8人

### ②博物館事業への協力

- 日本最古級恐竜化石含有層発掘調査発信プロジェクト



めざせ!初代 徳島まるづかみ博士



手のひらミュージアム

トへの協力としてかんきつテラス徳島で恐竜化石含有層の岩石の小割をし、化石の探索を行った。(5人)

- 常設展示室の博物館資料加害虫の調査を行った。(3人)

### 3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進

展示・普及教育・調査研究事業のうち、以下について、県民と協働で実施した。

#### (1) 展示

##### ●県民コレクション

「徳島漂着物コレクション」

3年8月9日(月)～令和4年3月27日(日)

とくしま海の観察会と協働で、徳島県沿岸の漂着物に関する展示を行った。

「みんなで調べた徳島のタンポポ」

3月29日(火)～4年度(7月10日(日))

県民協働で実施した「タンポポ調査・西日本2020」の成果を展示した。

##### ●歴史・文化コレクション

「太布一樹皮から布をつくる手仕事一」

3月15日(火)～4年度(7月18日(月・祝))

阿波太布製造技法保存伝承会との協働及び太布織り作家(1人)の出品により展示した。

#### (2) 普及教育

##### ●ミュージアムトーク

4月25日(日) ゼロから始める植物学～植物用語編～

6月6日(日) ゼロから始める植物学～名前の調べ方編～

7月17日(土) ゼロから始める植物学～標本の作り方編～

12月4日(土) ゼロから始める植物学～植物の名前編～

1月30日(日) ゼロから始める植物学～標本整理編～

##### ●野外生きものかんさつ

4月25日(日) 初めての植物かんさつ(春編)

5月9日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング5月～新緑の自然で癒やされよう!～

6月6日(日) 初めての植物かんさつ(梅雨期編)

7月4日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング7月～山開き自然の中へ～

7月17日(土) 初めての植物かんさつ(夏編)

8月1日(日) 漂着物を探そう!

9月26日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング9月～秋の七草探してみませんか?～

11月21日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング11月～植物の冬支度を見に行こう!～

12月4日(日) 初めての植物かんさつ(冬編)

1月30日(日) 初めての植物かんさつ(新春編)

#### (3) 調査研究

##### ●タンポポ調査・西日本2020

近畿、中国、四国の17府県にまたがる広域でタンポポ調査を行った。だれもが調査できる方法を採用し、参加を呼びかけた。新型コロナの影響を受けて、3年度にも延長実施した。

##### ●日本最古級恐竜化石含有層発掘調査・発信プロジェクト

徳島県勝浦町で行われた恐竜化石含有層の発掘調査では、県内の化石愛好家や阿波勝浦井戸端塾などのボランティア47人(うち有識者2人)の協力を得て、化石の探索作業を行った。

(10月1日(金)～12月24日(金):化石発掘現場での調査および後方支援施設での作業)

##### ●漂着物の調査

県内の漂着物研究会である「とくしま海の観察会」と、年4回定期的に県内海浜において漂着物の調査を実施している。調査結果は、展示や県民向けの講座を



野外生きものかんさつ「漂着物を探そう!」で解説する「とくしま海の観察会」会長



どで活用している。

●園瀬川での魚類相調査

阿波魚類研究会と共に、園瀬川に生息する魚類を調査した。

●アサギマダラのマーキング調査

県民へ参加を呼びかけて実施している調査ではなく、問い合わせのあった方に協力をお願いしている。県内のマーキング記録は、アサギマダラメーリングリスト [asagi]、[asaginet] およびアサギネット掲示板から情報を整理している。

●人形座資料調査

江戸時代から続く人形座、大谷旭源之丞座の所蔵資料について座員と協働で調査記録を進めている。

●鳥居龍蔵らによる那賀調査の追跡調査

那賀町在住の県民（2名）及び鳥居龍蔵記念博物館との協働で現地調査を実施した。

(4) 資料収集保存

●常設展示室の IPM（総合的有害生物管理）調査

四国大学で博物館学芸員資格取得を目指している大学生3名と協働で、常設展示室の IPM を実施するため、博物館資料に加害する生物の種類や数量について、12月から月1度の定期的な調査を行った。



ボランティアと協働（資料加害虫のトラップ調査）

## VII シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会に貢献し、また、県政の課題解決に寄与することも、博物館の重要な役割であると考え、積極的に取り組むこととしている。

### 1. レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業などから寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を、当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Eメール、文書によるものなどがある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的で、データベース化している。

令和3年度に行ったレファレンスの件数は497件で、分野別内訳は下表のとおりである。この記録は、博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中したときなど、すべてを記録できているわけではないため、実際の件数はこれより2～3割程度多いと考えら

#### ●分野別レファレンス件数（令和3年度）

分野	件数
動物（脊椎）	54
（無脊椎）	45
（昆虫）	109
植物	48
地学	54
考古	20
歴史	89
民俗	26
美術工芸	6
保存科学	15
その他	31
合計	497

れる。

職業別の割合を見ると、一般（不明を含む）からの問い合わせが230件（46%）で最も多く、次いでマスコミ・出版関係が152件（31%）、博物館・図書館・官公庁等が47件（9%）、高校生以下の児童・生徒及び教員等が21件（4%）、一般企業や調査会社が20件（4%）、大学生・院生・研究者等が19件（4%）、その他が8件（2%）であった。

### 2. 各種委員会委員等の受諾

令和3年度に、博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次の通りである。

新居美佐子

（公財）日本博物館協会参与

（令和3.4.1～4.3.31）

日本博物館協会四国支部副支部長

（令和3.4.1～4.3.31）

四国地区博物館協議会副会長

（令和3.4.1～4.3.31）

徳島県博物館協議会会長

（令和3.4.1～5.3.31）

長谷川賢二

徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員

（平成19.5.1～）

阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会委員

（令和2.7.1～4.6.30）

吉野川支流域名勝調査委員会委員

（令和2.6.1～事業終了の日）

海陽町立博物館運営協議会委員

（令和2.4.1～4.3.31）

高大連携教育研究会専門委員

（令和3.4.1～4.3.31）

徳島県戦没者記念館企画委員会委員

（平成27.7～）

兵庫県立歴史博物館運営懇話会委員

（令和3年度）

四国遍路関係資料調査研究会委員

（令和3.6.25～4.3.31）

日本山岳修験学会理事

## 50 シンクタンクとしての社会貢献

- (令和3年度～4年度)  
国際熊野学会委員  
(令和3.4.1～6.3.31)  
日本ミュージアム・マネジメント学会中・四国支部会副支部長  
(平成30年度～)  
四国中世史研究会運営委員  
(令和3.4～5.3)  
歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員  
(平成25.9.1～)
- 小川 誠  
徳島県土木工事環境配慮アドバイザー  
(令和3.4.1～4.3.31)  
NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事  
(平成21.4.1～令和4.3.31)  
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員  
(平成31.4.1～令和4.3.31)  
環境省希少野生動植物種保存推進員  
(平成24.7.1～令和4.6.30)  
吉野川支流域名勝調査委員会委員  
(令和2.6.1～事業終了の日)  
阿波学会理事  
(令和3.4.1～4.3.31)
- 中尾賢一  
産業技術総合研究所客員研究員  
(令和元.5.1～5.3.31)  
三好ジオパーク構想推進協議会学術顧問  
(令和元～事業終了の年)
- 茨木 靖  
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員  
(平成31.4.1～令和4.3.31)  
環境省希少野生動植物種保存推進員  
(平成24.7.1～令和3.6.30)  
阿波学会紀要第64号編集委員  
(令和3.7.13～5.3.31)
- 辻野泰之  
日本古生物学会 化石友の会幹事  
(令和3.7.1～5.6.30)
- 山田量崇  
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員  
(平成21.12.1～令和4.3.31)  
国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー」  
(平成23.5.25～令和4.3.31)  
国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所「長安口ダム環境モニタリング委員会」委員  
(平成24.4.2～令和4.3.31)
- 環境省希少野生動植物種保存推進員  
(平成24.7.1～令和6.6.30)  
日本昆虫学会「日本の昆虫」編集委員  
(平成25.3.14～)  
日本昆虫分類学会評議員  
(平成27.1.1～)  
徳島県高等教育機関連携型『ジュニアドクター発掘・養成講座』運営委員会・外部評価委員会委員  
(令和3.10.1～4.3.31)
- 佐藤陽一  
日本魚類学会標準和名検討委員会副委員長  
(平成15.4.1～)
- 井藤大樹  
徳島県田園環境検討委員  
(令和2.1.15～)  
国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー」  
(令和3.4.1～)  
鹿児島大学総合博物館「Ichthy-Natural History of Fishes of Japan」編集委員  
(令和4.3.1～)
- 庄武憲子  
四国民俗学会理事  
(令和2.4.1～3.3.31)
- 磯本宏紀  
公益財団法人徳島県文化振興財団民俗資料委員会委員  
(令和3.4.1～5.3.31)  
犬伏家住宅保存活用計画検討委員会委員  
(令和2.5.18～4.3.31)  
「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会・「淡路島と鳴門の渦潮」調査研究チーム委員  
(令和3.4.1～4.3.31)  
阿波学会紀要第64号編集委員  
(令和3.7.13～5.3.31)  
阿波学会理事・評議員・監査  
(令和3.4.1～5.3.31)  
藍住町文化財保存活用地域計画策定協議会委員  
(令和3.6.1～6.3.31)  
「にし阿波地域の雑穀食文化」有識者検討会委員  
(令和3.7.30～4.3.31)  
日本民具学会第36回研究奨励賞委員  
(令和4.3.1～)
- 松永友和  
徳島地方史研究会運営委員  
(平成23.5～)  
歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員  
(平成25.9.1～)

岡本治代

阿波学会紀要第 64 号編集委員

(令和 3. 7. 13 ~ 4. 6. 4)

植地岳彦

松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館協議  
会委員

(令和 3. 4. 1 ~)

### 3. 講師の派遣

館外からの依頼を受けた講師派遣等を、月日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す(内容に依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を省略)。なお、小・中・高校からの依頼による出前授業については、「Ⅱ 普及教育」の「2. 学校教育支援事業」に記載している(詳細は p. 22 ~ 23 参照)。

5月8日 長谷川賢二

一般社団法人阿波和紙伝統産業会館・講座「阿波を学ぶ(歴史編Ⅲ)」で講演「想像の歴史/歴史の創造」(吉野川市アメニティセンター)

5月22日 井藤大樹

非営利活動法人とくしまコウノトリ基金のストークの会で講演「コウノトリ生息エリアの魚類」

6月2日 岡本治代

徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「古代の阿波 ①国府」(徳島県立総合福祉センター)中止

6月9日 岡本治代

徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「古代の阿波 ②寺院」(徳島県立総合福祉センター)

6月16日 長谷川賢二

徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世の社会と信仰」(徳島県立総合福祉センター)

8月6日 井藤大樹

吉野川交流推進会議「交流体験 in よしのがわ(下流編) ~おさかな博士の川魚かんさつ~」講師(鮎喰川)

8月15日 辻野泰之

恐竜フェスティバル記念講演会にて、徳島県の恐竜化石発掘調査について講演(勝浦町地域活性化センター レヴィタかつうら)

8月23日 井藤大樹

松茂町教育委員会「長原海岸の海辺の生き物調べ隊」講師(松茂町長原海岸)中止

9月4日 庄武憲子

とくしま文化財マイスター連絡協議会で講演「民俗

学的な視点から文化財(歴史的)建造物を考える」(藍住町総合文化ホール 小ホール)

10月9日 松永友和

令和3年度鳴門市公民館短期講座「歴史文化講座」で講演「武士の四国遍路」(板東公民館)

10月12日 長谷川賢二

徳島県教育委員会事務局等幹部職員研修会で講演「部落史から考える私たちの課題」

10月16日 植地岳彦

令和3年度阿南市「朱を考古学するパートV 水銀朱の生産と使用」で講演「水銀朱の生産」(阿南市情報文化センター コスモホール)

10月20日 長谷川賢二

徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「四国遍路の成立過程」(徳島県立総合福祉センター)

10月23日 小川 誠

「高越山系の多彩な植物 一和紙の原料となる植物と植物染料一」(吉野川市アメニティセンター)

10月31日 山田量崇

徳島県高等教育機関連携型『ジュニアドクター発掘・養成講座』の講師として「基礎生物学の基礎:昆虫と生物多様性と博物館」を講義

11月17日 長谷川賢二

徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「戦国軍記と阿波三好氏の落日」(徳島県立総合福祉センター)

11月23日 辻野泰之

「第20回恐竜の里ウォークラリー」に講師として協力(勝浦町 人形文化交流館および恐竜の里)

11月24日 磯本宏紀

八幡公民館郷土講座「名所と絵はがき」(吉野川市市場町八幡公民館)

12月22日 松永友和

徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「大塩平八郎と阿波・徳島」(徳島県立総合福祉センター)

12月26日 辻野泰之

「第43回徳島化石研究会少年少女地学班化石採集会」に講師として協力(かんきつテラス徳島)

1月21日 長谷川賢二

第6回藍住町人権講座で講演「部落史から考える私たちの課題」(藍住町総合文化ホール)

1月31日 松永友和

徳島県シルバー大学校上板校で講演「江戸時代後期の阿波藍と徳島藩」(上板町老人福祉センター)

2月9日 植地岳彦

令和3年度埋蔵文化財担当者専門職員等研修会で講

## 52 シンクタンクとしての社会貢献

義「出土遺物の保存及び修復技術について」（主会場はレキシルとくしまでオンライン講義）

2月17日 松永友和

徳島県シルバー大学校鳴門校で講演「江戸時代の旅と「鳴門」見物」（鳴門・大塚スポーツパーク）中止

2月20日 山田量崇

徳島県高等教育機関連携型『ジュニアドクター発掘・養成講座』の講師として「専門科目：カMEMシ学博士入門講座」をオンライン講義

2月22日 庄武憲子

椿町公民館で講演「民間信仰－地蔵、庚申、フナト神信仰について－」（阿南・つばき会館）

3月12日 辻野泰之

「発見しよう！恐竜の化石発掘体験」に講師として協力（勝浦町地域活性化センター レヴィタかつうら）

（令和3.4.3～3.9.23）

松永友和

四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）

（令和3.4.3～3.9.23）

### (2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において、学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数人をめどに受け入れることにしている。

3年度は、8月24日（火）～28日（土）に実習生の受け入れを行った。実習生は11人で、大学別の内訳は次の通りである。

徳島大学	3人
四国大学	1人
京都産業大学	1人
岡山大学	1人
新潟大学	1人
鳴門教育大学	4人

なお、同時期に、県立総合大学校本部の依頼により受け入れてきた徳島県インターンシップ実習は、本年は中止となった。

カリキュラムは表のとおりである。実習生をA・B

## 4. 大学教育への寄与

### (1) 大学非常勤講師の受諾

令和3年度に、博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤講師は次の通りである。

磯本宏紀

徳島大学非常勤講師（博物館経営論）  
（令和3.4.12～3.9.30）

山田量崇

四国大学非常勤講師（博物館実習Ⅰ）

### ●令和3年度 博物館実習カリキュラム

		A 班（4人）		B 班（4人）	
		実習名（場所）	担当者	実習名（場所）	担当者
8/24(水)	午前	館長あいさつ（実習室）	新居	館長あいさつ（実習室）	新居
		ガイダンス・館内施設見学	大橋	ガイダンス・館内施設見学	大橋
	午後	博学連携について、普及業務体験（講座室・常設展示室）	森・丸山	普及行事の準備（実習室）	小川
8/25(木)	午前	魚類標本の整理（液浸収蔵庫）	井藤	考古資料の整理（実習室）	岡本
	午後	地学資料の整理（地学収蔵庫、分析室）	中尾	昆虫標本の整理（生物収蔵庫・実習室）	山田
8/26(金)	午前	展示室内の環境調査（常設展示室・講座室）	植地	歴史資料の整理（常設展示室・作業室）	松永
	午後	歴史資料の整理（常設展示室・作業室）	松永	展示室内の環境調査（常設展示室・講座室）	植地
8/27(土)	午前	民俗資料の展示準備（企画展示室・常設展示室）	庄武	植物標本の整理（分析室・生物収蔵庫）	茨木
	午後	化石資料のレプリカの作製（実習室）	辻野	博学連携について、普及業務体験（講座室・常設展示室）	森・丸山
8/28(日)	午前	民俗資料の整理（考古収蔵庫・歴史収蔵庫）	磯本	民俗資料の整理（考古収蔵庫・歴史収蔵庫）	磯本
	午後	美工資料の取り扱い（実習室）	大橋	美工資料の取り扱い（実習室）	大橋

の2班に分けて、学芸員等職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

### (3) 学芸員養成科目開講への協力

徳島県と徳島大学、鳴門教育大学、四国大学との間の協定（年報22号参照）にもとづき、学芸員資格の取得を希望している3大学の学生のために、「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」の開講に協力した。講義は、当館職員を中心に、大学教員、近代美術館・文書館職員が共同で担当した。例年は博物館講座室を会場としているが、3年度は、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、オンライン授業も行った。

各科目の日程、受講者数は次の通りである。

- ①博物館資料保存論 9月7日～11日  
徳島大6人、鳴門教育大4人、四国大25人
- ②博物館展示論 2月22日、24日、26日～27日、  
3月1日  
徳島大2人、鳴門教育大4人、四国大22人
- ③博物館教育論 3月2日～6日  
徳島大2人、鳴門教育大4人、四国大24人

## 5. 学会・研究会等の運営への寄与

### (1) 学会・研究会等の開催

令和3年度に当館学芸員が担当し、当館及び文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次の通りである。

#### ●日本ミュージアム・マネージメント学会中・四国支部 見学会・研究会

開催日：12月4日（土）  
会 場：常設展示室・講座室  
参加者：16人

### (2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

令和3年度に当館学芸員が担当し、当館及び文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次の通りである。

#### ●徳島地域文化研究会

主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム（年2～3回程度）、会誌『徳島地域文化研究』の発行（年刊）等を行っている。

#### ●四国民具研究会

四国地域をフィールドとする民具研究者により構成

されており、研究会の開催（年2回程度）、会報『四国民具通信』の発行、会誌『民具集積』（年刊）の発行、調査報告書の発行、資料の調査研究等を行っている。

#### ●四国民俗学会

四国地域の民俗研究者により構成されており、研究会の開催（年1回程度）、会誌『四国民俗』の発行（年刊）、資料の調査研究等を行っている。

## 6. 博物館ネットワーク

### (1) 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在75館（園）が加盟している。4県が持ち回りで2年ずつ会長・事務局をつとめることになっており、令和2～3年度は愛媛県美術館が会長館をつとめ、当館は理事館をつとめている。

3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年開催される役員会・総会及び研修は行われず、役員会の書面開催のみであった。

### (2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、平成8年2月27日に設立された。設立当時31館であった加盟館は、その後増減を経て、3年3月末現在では48館になっている。当館が事務局をつとめている。

#### ●3年度事業

##### ①役員会の開催

6月23日（水）大塚国際美術館  
2月16日（水）徳島県立博物館

##### ②総会の開催 参加者：33人

日時：6月23日（水）13：30～15：30

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、総会と役員会を兼ね、短時間で実施した。

場所：大塚国際美術館

議事：令和2年度事業報告及び決算報告

令和2年度監査報告

令和3年度事業計画及び予算

その他

講演：岡本佑弥氏（徳島市立徳島城博物館 学芸員）  
「コロナ禍と博物館 ―#おうちで四国のミュージアムの活動を中心に―」  
浅井智誉子氏（大塚国際美術館 学芸部長）

「大塚国際美術館の広報活動について」

視察：大塚国際美術館展示の見学

③加盟館園の職員状況と入館者数一覧の作成・配布

④徳島県博物館協議会ニュースの発行

No.66～68を発行・配布した。

⑤研修会の開催 参加者23人

日時：11月17日（水） 13：30～16：00

場所：徳島県立博物館

内容：研修1「徳島県立博物館新常設展の概要説明」

講師 新居美佐子（徳島県立博物館長）

研修2「徳島県立博物館新常設展の見学」

講師 徳島県立博物館学芸員

⑥連携事業検討ワーキンググループの設置

新規連携事業の検討を目的として、加盟館の若手・中堅学芸員によるワーキンググループを設置した。

3年度は2回（10月13日、12月17日）の会議を行い、検討を進めた。

### (3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、29機関・団体が加入している。令和3年度は、熊本県水俣市で第26回総会が開催されたほか、フィールドワークが行われた（11月18～19日）が、当館からは参加できなかった。

### (4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークは、平成12・13年度に文部科学省の委嘱を受け行われた環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展をはかるため、大阪市立自然史博物館及び兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織として、16年4月27日に設立された。博物館学芸員及び関係者143人が参加している。

3年度は、博物館再開のための自然史系学芸員Zoomミーティング、情報交換講演会「COVID-19状況下だからやってみた工夫、身につけたい技」を開催した。また、資料貸し出し事業「ワークショップ用ブラックライト」などを行った。

### (5) 阿波しらすぎ大橋環境モニタリング調査

## GISデータの管理

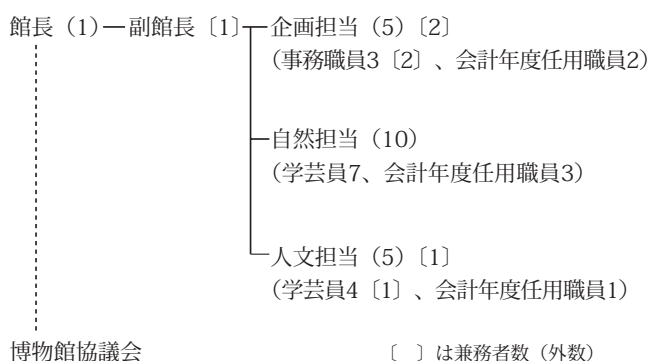
吉野川河口に平成24年4月に開通した阿波しらすぎ大橋については、建設に当たって当館の複数の学芸員が環境アドバイザー会議のメンバーとして参画し、11年間にわたって実施された環境調査標本を受け入れてきた。

徳島県は長期にわたって吉野川河口域において詳細に調査されたデータを環境保全や環境教育に広く役立ててもらうために、GISデータとしてとりまとめ配布することになった（制作は県土整備部都市計画課）。先の経緯から当館がGISデータを収録したDVDの管理を担当することとなり、27年3月より試行版の配布を開始し、正式版は27年5月より配布を開始した。

# VIII 管理運営・マネジメント

## 1. 組織・職員

### (1) 組織図 (令和4年4月1日現在)



### (2) 職員名簿 (令和4年4月1日現在)

館長 長町 哲治  
副館長 長谷川賢二 (鳥居龍蔵記念博物館長本務)

#### 〈企画担当〉

課長補佐 森 篤之  
〃 植地 岳彦 (考古・保存科学)  
〃 石橋 典子 (二十一世紀館課長補佐本務)

係長 丸山 直生  
主任 後藤 優樹 (二十一世紀館主任本務)  
会計年度任用職員 田原 晶子  
〃 荒川 範子

#### 〈自然担当〉

課長 小川 誠 (植物)  
上席学芸員 中尾 賢一 (地学)  
上席学芸員 茨木 靖 (植物)  
専門学芸員 辻野 泰之 (地学)  
主 席 佐藤 陽一 (動物)  
主 任 井藤 大樹 (動物)  
学 芸 員 小布施彰太 (地学)  
会計年度任用職員 田中 裕美  
〃 疊谷 千幸  
〃 中村美代子

#### 〈人文担当〉

課長 大橋 俊雄 (美術工芸)  
上席学芸員 庄武 憲子 (民俗)

専門学芸員 磯本 宏紀 (民俗)  
学芸係長 松永 友和 (歴史)  
学芸員 小林 篤正 (鳥居龍蔵記念博物館学芸員本務)

会計年度任用職員 尾崎みどり

### (3) 人事異動

〈令和4年3月31日付〉

退職：山田 量崇・学芸係長  
岡本 治代・主任

〈令和4年4月1日付、転入者のカッコ内は前職〉

転出：新居美佐子・館長、文化の森振興センター所長へ

転入：長町哲治・館長 (人事委員会事務局次長)

新採：小布施彰太・学芸員

転入 (新採・兼務)：小林 篤正・学芸員 (鳥居龍蔵記念博物館本務)

### (4) 令和3年度会計年度任用職員

松家あき子 (令和3.4.1～4.3.31)  
田原 晶子 (令和3.4.1～4.3.31)  
田中 裕美 (令和3.4.1～4.3.31)  
疊谷 千幸 (令和3.4.1～4.3.31)  
尾崎みどり (令和3.4.1～4.3.31)  
中村美代子 (令和3.4.1～4.3.31)  
小布施彰太 (令和3.4.1～4.3.31)

## 2. 予算

2月現計予算額 (2月補正後の予算額) を下に示す。

### ●令和3年度博物館費 (2月現計予算額) (単位:千円)

予算総額	664,422
管理運営	2,877
展覧	5,318
調査研究	1,958
収集保存	10,764
普及教育	1,505
新常設展構築	96,000
日本最古級恐竜化石含有層緊急発掘調査プロジェクト	34,000



グランドオープン!! 博物館“驀進(バクシン)”事業  
12,000

### 3. 文化の森の連携事業

平成24年度以来、文化の森各館から職員1人ずつが、教育委員会文化の森振興本部企画振興部・二十一世紀館文化の森企画広報室を兼務することで、文化の森内の横断的な連携を図ってきた(27年度からは本部兼務のみ)。令和2年度には、文化の森全館の知事部局への移管に伴い、本部に代わって文化の森振興センターが設置されたため、同センターを兼務することで連携を図る体制となった。定期的な会議を継続しながら、文化の森6館の連携と企画・広報の推進を図っている。

3年度に取り組まれた主な内容は、次の通りである。

#### ①文化の森全館連携事業

例年4回行っている全館共同のイベントは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止・縮小などがあつたが、拡大防止に努めながらできるかぎり開催した。5月5日の「文化の森こどもの日フェスティバル」は全館休館にともない中止した。8月22日「文化の森サマーフェスティバル」は中止し、共同による「文化の森ウォークラリー」のみを行った。11月3日の「文化の森秋祭り」、2月11日の「文化の森ウインターフェスティバル」は規模を縮小し行った。

今後の連携事業のあり方については、検討を深めていく予定である。

#### ②文化の森学習応援事業

平成28年度から、学校の長期休業期間にあわせ、学習場所として環境の整っている博物館、近代美術館、図書館、二十一世紀館の貸館スペースを学習室として開放してきたが、2年度に引き続き3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

### 4. 防災及び危機管理

#### (1) 防災及び危機管理体制

危機管理全般については、文化の森振興センターを中心に、文化の森全館の館長・副館長が協議しながら、対応する体制を整えている。また、防災について、文化の森4館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、鳥居龍蔵記念博物館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、非常時に備えている。

#### (2) 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

令和3年度も新型コロナウイルス感染症が収束せず、感染拡大防止のため、次のとおり対策を講じた。

##### ①ゴールデンウィークにおける臨時休館

全国的に人出が多くなることから、感染対策として、4月29日から5月5日まで臨時休館した(レファレンス業務は継続)。また、代替サービスを推進し、ホームページコンテンツの拡充に努めた。

##### ②感染拡大防止に配慮した利用者サービスの実施

(公財)日本博物館協会が作成したガイドライン等を踏まえて、展示観覧や行事参加においてはアルコールによる手指消毒や検温、マスク着用などの協力を要請したほか、所要箇所にアクリル製パーティションや非接触型検温器、空間除菌機を設置した。また、展示に関しては、来館者の密集による感染リスクに留意し、必要に応じて入場制限を行ったり、常設展来館予約システムを導入した。各種の行事は全面的に規模を縮小し、原則的に事前申込制として、屋内の場合は換気を徹底した。一方、職員もマスク着用や手指消毒などを徹底した。

#### (3) 防災訓練

二十一世紀館を中心に、配付資料を用いた教養型訓練を行った。また、3月25日(金)には消火実践訓練として、消防設備の確認をしたほか、水消火器による訓練を行い、防災意識を高めた。

### 5. ユニバーサル化への取り組み

インクルーシブデザインを導入して制作した新常設展のオープン後、来館した障がい者の感想・意見をいただき、観覧の利便性などを検証した。総論的には好評であったが、細部については今後の改善を検討すべきであることが確認できた。

#### ①視覚障がい者(4人)

ハンズオン資料の固定具がしっかりしすぎていて、全体を把握するには邪魔になっていること、音声ガイドと資料の展示位置を対応させるのが難しいことなどの指摘があつた。

#### ②元パラソングリッパン(車いすアイスホッケー)(1人)

車いすでの観覧の場合、モニターが見づらかったり、読み取れない位置にQRコードがある場合があること、車いすにタブレット端末を固定できる器具を用意すると利便性が高まることなどの指摘があつた。

## 6. 博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

令和3年度は協議会を1回開催した。

### ●令和3年度博物館協議会

日時：令和3年9月29日（水）

13：30～15：30

会場：博物館講座室

議事

- ①令和2年度年度事業の実施状況について
- ②令和3年度予算及び事業概要について
- ③徳島県立博物館新常設展について

### ●徳島県立博物館協議会委員名簿

（令和4年3月31日現在）

区分	氏名	役職等
学校教育	生駒 佳也	徳島県立阿南光高等学校教諭
社会教育	安倍 久恵 （副会長）	フリーアナウンサー・佐古絆文化協会事務局
	原 多賀子	京都外国語大学非常勤講師
	西 記代子	四国大学文学部講師
学識経験	塩瀬 隆之	京都大学総合博物館准教授
	坂本 優子	日本航空（株）徳島支店長
	瀬戸 恵深	（株）エフエムびざん放送部ディレクター
	町田 哲 （会長）	鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授
	松村 幸江	阿波市国際交流の会会長
家庭教育	森脇佳代子	阿南市立羽ノ浦小学校PTA人権教育研修広報部役員

## 7. 各種研修会への参加

当館に事務局を置く徳島県博物館協議会の総会・研修会のほかに、各種の研修会等に職員を派遣し、博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止が相次いだほか、参加を見合わせたりしたが、3年度は対面開催が少しずつ再開されるようになったため、可能な範囲で職員を派遣した。

### ●第69回全国博物館大会

会期：令和3年11月17日（水）～18日（木）

会場：かでる2・7（北海道立道民活動センター）

参加者：磯本宏紀・井藤大樹

### ●日本ミュージアム・マネージメント学会中・四国支部会

会期：令和3年12月4日（土）～5日（日）

会場：当館及び徳島市立德島城博物館

参加者：長谷川賢二・茨木 靖・磯本宏紀・松永友和・岡本治代・井藤大樹

## 8. 視察等博物館関係来訪者

5月12日	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 石川美咲氏・酒井健治氏
11月11日	姫路市人権啓発課・姫路市総合センター運営委員一行 23人
11月27日	国立歴史民俗博物館共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」8人
11月30日	国立歴史民俗博物館 松田睦彦氏・千葉県立中央博物館 島立理子氏
12月4日	日本ミュージアム・マネージメント学会中・四国支部 10人
12月24日	鳥取県立博物館 来見田博基氏・鶴智之氏・森田佳代氏
1月9日	「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業実行委員会一行 8人
1月15日	D-SHIPS32 上原大祐氏・NPO法人Collable 山田小百合氏
1月21日	東北歴史博物館 千葉直樹氏・山口貴久氏
1月21日	兵庫県立自然史博物館 生野賢司氏・池田忠広氏・加藤茂弘氏
2月26日	国立科学博物館 小川義和氏
3月25日	福岡市博物館 佐藤祐花氏

# IX 中期活動目標と自己評価

## 1. 中期活動目標（令和元年9月26日策定）

生涯学習社会の進展など、博物館を取り巻く状況の大きな変化を受け、博物館活動の基本である資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきた。その一方で、財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、および公的施設の運営の見直しなどもすすめられるようになってきた。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成16年度以来、3期15年間（第1期：平成16～20年度、第2期：21～25年度、第3期：26～30年度）にわたり、中期活動目標とそれにもとづく点検・評価を行いながら、事業の改善と活性化をすすめてきた。

ちょうど、第1期目標にもとづく活動が終わる20年度、博物館法の一部が改正され（20年6月）、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛りこまれた。また、第2期目標にもとづく活動をすすめていた23年度には、文部科学省から「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示され（23年12月）、博物館運営の点検・評価の実施とそれにもとづく改善、それらの内容の公表について努力するよう求められた。こうした法制面での動向からも、徳島県立博物館における中期活動目標の策定・運用は適切な取り組みとことができ、今後も継続的に推進することが必要だと考えられる。

近年では、社会教育施設である博物館の役割は広がりつつあり、観光や地方創生への貢献なども期待されている。だからこそ、地域に根差し、学術的な裏付けのある資料収集・保存や調査研究など、しっかりとした土台を保つことで、良質で多面的なサービスが実現できると考える。

30年度をもって第3期目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえながら、ここに第4期目標（平成31・令和元～5年度）をまとめた。

### (1) 第3期中期活動目標の総括

中期活動目標にもとづく事業改善と活性化に取り組むようになった平成16年度以来、事業の目標が明確に可視化されるとともに、達成度が客観的に示されるようになり、事業の課題や問題点を明らかにすることができるようになった。このような情報を共有することで、職員の意識改革をすすめ、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきた。

第2期活動目標では、第1期の経験を活かし、徳島県立博物館の基本理念および基本的性格（注）を再確認しながら、「県民とともに」を基調とする博物館の使命（存在意義や役割）をまとめたうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにした。

このように、使命と一体化した形で、事業の目指すべき方向を明確にしたのが第2期目標の特徴であり、これにあわせて評価指標などを見直しも行い、より丁寧な点検・評価をすすめることができた。ただ、基調とした「県民とともに」を推進するには、さらに意識的な方向付けが必要と考えられ、課題を残した。

そこで、第3期では、「県民とともに」を確かなものとするため、使命の再検討を重点的に行い、新たに「「連」県民とのつながりを大切にする博物館」を加えることで、博物館の発信力を強化して、県民とのコミュニケーションの充実に力を注ぐ方針を明確にすることとした。また、これに伴い、事業区分を再編することにし、「県民協働・参画」を新たに設けることにした。その他、各事業の目標や評価項目、指標等についても、実情を踏まえた点検・評価によって博物館活動のステップアップが図れるよう見直した。

この「県民とともに」を基調とする活動路線は、ユニバーサルミュージアムへの各種の取り組み、公募型ボランティア、恐竜化石発掘調査、阿波木偶箱まわし調査などにおいて、一定の成果を挙げたといえる。しかしながら、これらの活動を含めた博物館活動全体について、県民のより一層の認識の深化という点において課題を残した。

(注)

「徳島県立博物館の基本理念及び基本的性格」とは、「徳島県立博物館基本構想」(昭和59年1月)に示され、博物館の活動目標・指針となってきたものである。その内容は次のとおりである。

〈基本理念〉

①郷土に根ざし世界に広がる博物館

徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設

②開かれた博物館

博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設

③研究を大切にする博物館

学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設

④文化財を守り自然の保全をめざす博物館

県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

〈基本的性格〉

①人文科学(考古、歴史、民俗、美術〈近代美術を除く〉)・自然科学(動物、植物、地学)の両者が有機的に結びついた総合博物館とします。

②収集保存、調査研究、展示、普及教育の4つの機能を備え、本県の文化、学術、教育および生涯学習センターとしての役割を果たします。

③国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

## (2) 第4期中期活動目標の策定の経緯

近年、当館を含めた博物館を取り巻く状況は予算の減少、少子高齢化、ユニバーサル化の推進、インバウンド対応、そして施設の老朽化と設備の長寿命化などの課題が重くのしかかり大きく変化してきている。加えて、当館は令和3(2021)年度のオープンを目標とする新常設展の構築に向けて、鋭意準備をすすめている状況である。このように第4期は、新たな時代を切り開いていくべき期間と言える。

そこで、第4期中期活動目標の策定にあたっては、これまで3期15年間の活動を振り返り、新たな時代にふさわしい活動目標についての検討を行った。その結果、これまでの「県民とともに」という路線を重視・継続し、さらにその深化を図るべく、見直しを行った。

## (3) 徳島県立博物館の使命 ※ p.2 参照

徳島の自然・歴史・文化の宝箱—だれもがとどえ、楽しく学べる博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動していきます。

### 「知」知と出会う博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化についての多様な資料やタイムリーな情報で、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

### 「探」地域の魅力を探る博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化について、県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけ発信します。

### 「伝」未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化についての資料を、県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

### 「連」つながりを大切にし、だれもがとどえる博物館

博物館は、県民のみなさんと連携し、だれもがとどえる地域の拠点を目指します。

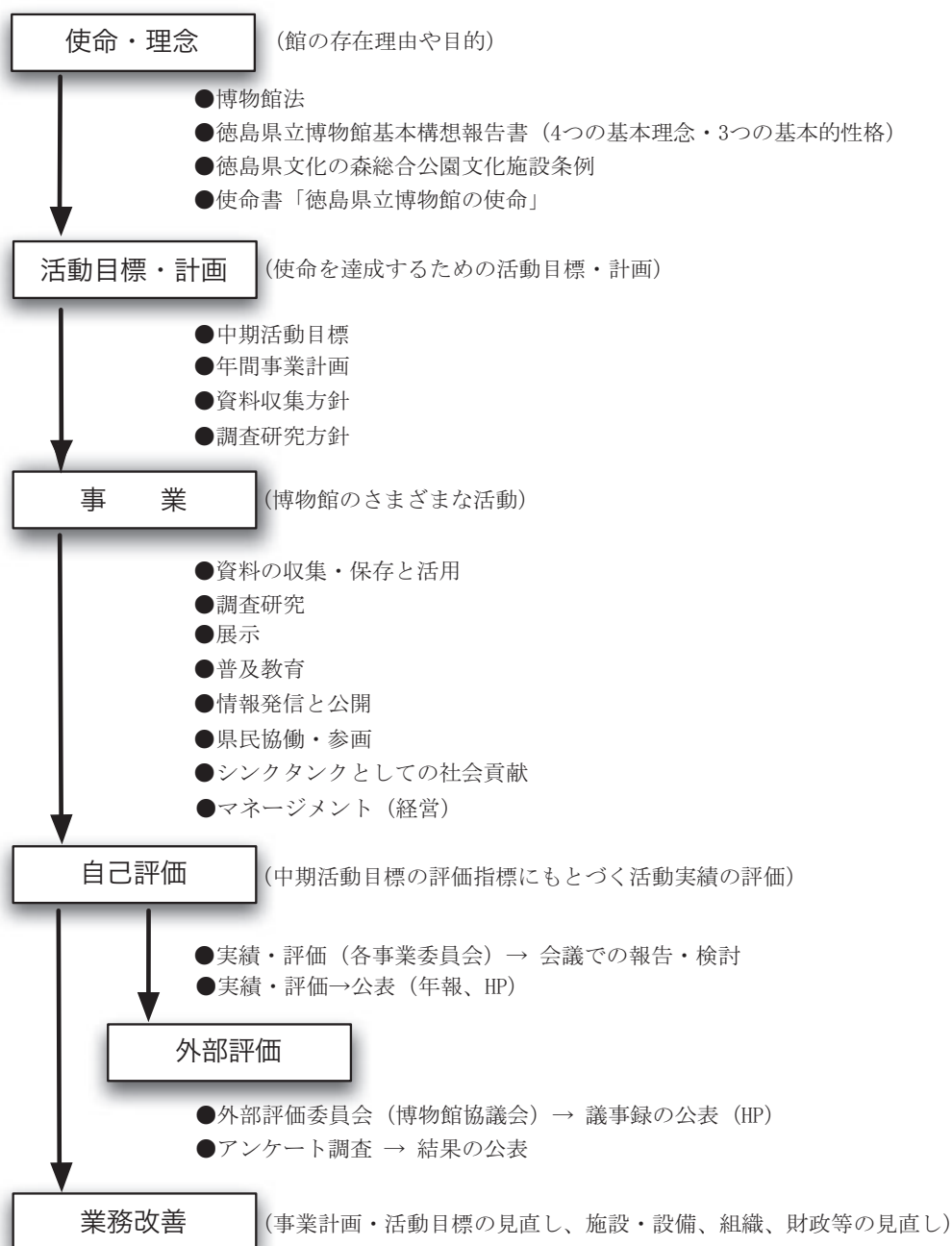
博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

#### (4) 第4期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後5年間（平成31・令和元～5年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものである。その推進にあたっては次の点に留意する。

- 中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表する。
- それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進する。
- 年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- 活動実績および評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てる。
- 活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改める。

#### 中期活動目標の推進手順



(5) 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するために行う事業は、次のとおりである。

- ・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育
- ・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
- ・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
- ・「連」つながりを大切に、だれもがとどえる博物館：情報の発信と公開、県民協働・参画、シンクタンクとしての社会貢献
- ・効率的でバランスのよい運営：マネージメント（経営）

①展示

だれもが楽しく学べ、新しい発見や体験ができる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、県民のみなさんや関連機関との連携を大切にしながら、徳島および関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。今期は、だれもが学び、発見し、体験できる場の新たな創出のため、常設展全面リニューアルに取り組みます。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1 常設展リニューアルの実施	基本構想にもとづき、常設展のリニューアルを実施します。リニューアルにあたっては、実物資料（モノ）の魅力発信、フレキシブルな展示構成、ユニバーサル化推進、発見・参加体験の充実について重点的に取り組みます。	実物資料（モノ）の魅力発信に向けた取り組み	実物資料（モノ）の魅力を発信できる展示の設計・実施・活用		※ H31～R3年度の実施状況およびリニューアルオープン後の活用・改善状況等
		フレキシブルな展示構成に向けた取り組み	展示替えしやすい可変性のある展示の設計・実施・活用		
		ユニバーサル化推進に向けた取り組み	だれもが安心して利用できる空間の設計・整備・活用		
		映像・ハンズオン等の活用に向けた取り組み	高精細映像の制作と配置、ハンズオン展示の拡大と活用		
		新常設展のPRと活用に向けた取り組み	新常設展の広報・PRの充実とリニューアル後の効果的な活用		
1-2 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	リニューアル前 40,000人/年 リニューアル後 60,000人/年	※第4期中に常設展リニューアル工事にともなう閉室期間を含むため目標値がリニューアル前後で異なる
		観覧者のリピーター率	過去1年以内の利用経験者の占める割合		
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%	※第4期中に常設展リニューアル工事にともなう閉室期間を含むため考慮が必要
		展示替え回数	常設展の展示替えおよびテーマ展示の開催回数	リニューアル前 5回/年 リニューアル後 7回/年	※常設展リニューアル前は部門展示、トピック展示を含む
		展示室内の改善・修繕の実施状況	展示室内の設備等改善・修繕状況および展示補助具の追加・改善状況		展示替えは除く
1-3 魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1日あたりの観覧者数	自然 250人 総合 150人 人文 100人	開催日数の長短の差が大きいため1日あたりの観覧者数とする※第4期中、常設展リニューアル工事にともなう企画展示室が使用できない期間を含むため考慮が必要
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%/回	
		展示への注目度	マスコミ報道等露出件数	5件/回	展示内容が取り上げられた場合
		企画展の検討状況			
1-4 多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列等の多様な展示の開催をすすめます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	2回/年	常設展ロビー等における展示を含む
		特別陳列観覧者数	1日あたりの観覧者数	自然 300人 総合 200人 人文 100人	
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%/回	特別陳列のみ
		展示への注目度	マスコミ報道等露出件数	5件/回	内容が取り上げられた場合
		特別陳列等の検討状況			

## 62 中期活動目標と自己評価

1-5	他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。また、他機関との共同による展示を検討、実施します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	1回/年	「パッケージ展示の貸し出し数」を含む
			移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者に含む展示の開催回数	2回/年	
1-6	展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況	年間の刊行件数		
			展示解説等の実施状況	展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
			展示解説シート等の配布・設置状況	展示解説シート等の配布、追加状況		
1-7	県民などとの協働による展示の推進	県民などとの協働で、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			

### ②普及教育

徳島の自然や歴史、文化についてだれもが楽しく体験し、学ぶことができる多様な学習機会を創り出すことにより、学校教育の支援や生涯学習の推進に取り組みます。(使命:「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
2-1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数		70回/年	
		普及行事参加者数		5,000人/年	
		参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合	満足した者の割合 80%	
		アウトリーチ活動数	他館との共催による普及行事(展示を除く)	5回/年	移動展の展示解説1件も1回とする
2-2	学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況		県内全教員(小・中・高)	
		出前授業件数		出前授業15件/年	
		館での授業件数			
		資料貸出件数		資料貸出10件/年	
		教員研修件数			
		職場体験件数			
		遠足件数			
2-3	普及的記事の執筆推進	普及的記事の執筆数	年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数	40件/年	
		博物館ニュース発行回数		4回/年	
2-4	県民との協働による普及行事の推進	県民の力を借りて、より魅力ある普及行事を推進します。	県民との協働による普及行事の実施状況		県民からの協力を受けた行事を含む
2-5	だれもが参加しやすい普及行事の取り組み	幼児や外国人、障がい者などさまざまな人が参加できるように取り組みます。	だれもが参加しやすい普及行事の取り組み状況		

### ③調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を、県民のみならずおよび関連機関と連携しながらすすめ、新たな事実や価値の発見に努めます。また、その成果を博物館の展示や普及教育等の活動へ還元し、可視化に努め、地域の魅力を引き出すよう努めます。(使命:「探」地域の魅力を探る博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
3-1	調査研究活動の推進	課題調査実施状況	課題調査として予算化された研究テーマ	2件/年	
		個別調査研究の実施状況	課題調査以外の研究テーマの実施状況		
3-2	外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数	10件/年	人的・予算的規模の大小は問わない
		共同研究プロジェクト件数	上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	3件/年	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
3-3	県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみならずが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数	2件/年	
3-4	外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的および民間の研究助成金等を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数	申請4件・採択1件	科研費プロジェクト等の研究分担を含む

			民間の研究助成金の申請・採択件数			研究分担等を含む
3-5	調査研究成果の公表	博物館の調査研究成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じ公表します。	学術的著述数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数	24本/年 (査読付き4本/年)	学芸員数×年2本
			学会・研究会での発表件数	学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数	24件/年	学芸員数×年2回
			マスコミへの資料提供件数	5-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	3件/年	

④資料の収集・保存と活用

徳島と徳島に係わりのある地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、さまざまな手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者などへ積極的に貸し出しや提供を図り、さまざまな形で活用します。(使命:「伝」未来にまもり伝える博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
<b>収集</b>						
4-1	継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集をすすめ、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数	前年度の収蔵資料点数実績+20,000点(年4,000点×5年)	550,000点	
			新規資料増加点数		4,000点	
			採集資料件数		20件/年	
			購入資料件数		3件/年	
			寄贈資料件数		100件/年	
4-2	寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託を受け入れます。	寄託資料件数			
			新規寄託件数		3件/年	
4-3	文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実に努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数(雑誌類を除く)		
			新規受入図書冊数		140冊	
			寄贈図書冊数		40冊	
			購入図書冊数		100冊	
			購入雑誌タイトル数			
<b>保存</b>						
4-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録をすすめるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備を図ります。	収蔵資料 DB 登録率	(DB登録点数/収蔵資料点数)×100	50%	
4-5	資料の安全な保存	薬剤の適切な使用と、収蔵庫等の資料保存環境における定期的な点検・清掃作業等を組み合わせて、資料保存に取り組みます。	燻蒸の実施	燻蒸回数	3回/年	
			収蔵庫点検	点検回数	12回/年	チェックリストに基づく点検
			展示室点検	点検回数	12回/年	チェックリストに基づく点検
			企画展示室・歴史民俗収蔵庫の空気環境調査	適正な空気環境の維持		
			新たな防虫・防菌対策の検討	検討実績		
4-6	収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況および他館の情報収集等			
<b>活用</b>						
4-7	展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進を図ります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
			常設展での利用点数			
			常設展以外の展示での利用点数			
4-8	貸し出し等の促進	貸し出しや提供などによる収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	学校貸し出し(2-2学校への資料貸出件数を参照)を除く	60件/年	
4-9	資料収集保存活動に対する理解の促進	積極的な情報発信を行うことにより、資料収集保存活動に対する理解の促進を図ります。	マスコミへの情報提供・ホームページへの掲載・記事執筆など			

⑤情報の発信と公開

博物館活動についてのさまざまな情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用できるように努めます。多様なメディアを通じて情報を発信し、積極的に県民との対話をすすめます。第4期は、だれもが博物館の情報を、より利用できるような環境づくりを目指します。また、常設展のリニューアルの進捗状況や広報など、タイムリーな情報発信に努めます。(使命:「連」県民とのつながりを大切にする博物館)



64 中期活動目標と自己評価

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
5-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するように努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数（月間催し物案内を含む）	30件/年	
		マスコミ取材報道件数	新聞等が取材・報道した数	100件/年	
		マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数	15件/年	
5-2 広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段や発送の新規開拓	新たに開拓した広報手段		
		広報関係出版物発送状況	年間催し物案内、月間催し物案内、ニュース等の発送件数および発行回数		
		年間催し物案内発送件数（発送回数）		600件（1回）/年	
		月間催し物案内発送件数（発送回数）		各80件（12回）/年	
		博物館ニュース発送件数（発送回数）		各1,100件（4回）/年	
5-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	H P 総アクセス数	H P（全ページ）へのアクセス総数	9,000,000件/年	
		H P の新規および更新したページ数	新たに作成したり更新したページの数	70ページ/年	
		H P の内容の更新頻度	内容が更新された回数	月3回	
5-4 SNS による情報発信	情報交換の推進のために SNS による情報発信を促進します。	Facebook の更新数	内容が更新された回数	80回/年	
5-5 だれもが情報にアクセスできるホームページづくり（ユニバーサル視点）	こどもから大人まで、さらに外国人など、また、パソコンだけではなくスマートフォンなどでも、さまざまな人が情報にアクセスできるようにします。	H P のスマートフォン等への対応	スマートフォンなど新型端末への対応状況		
		H P の多言語対応	英語など日本語以外の対応状況		
		H P の見やすさや色の検討	文字の大きさを選択できたり、テキスト読み上げツールや見やすい配色などへの対応状況		
		デジタルアーカイブ	整備状況		
5-6 常設展のリニューアルに関する情報発信の促進	展示更新の進捗状況を積極的に発信し、完成後はその広報に努めます。	展示更新に関する発信状況	発信件数		FB、HP、資料提供などの総件数

⑥ 県民協働・参画

県民のみなさんと一緒に活動することにより、県民の自主的な学びや地域活動の活性化を促進するとともに、だれもお互いにつながる拠点となることを目指します。（使命：「連」つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	250人/年	H30年度の会員数から増加を目指す	
		個人会員				
		家族会員				
		会員の継続率	当該年度継続率	前年度会員の70%		
		個人会員				
		家族会員				
		友の会行事実施回数		6回/年		
		展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%		
		延べ利用者数	観覧者として入館した会員の延べ人数			
		個人会員				
家族会員						
6-2 公募ボランティアの協働推進	県民参画による行事を推進します。	公募ボランティア登録者数			イベントボランティア登録者数、みどりのサポート隊登録者数など	
		公募ボランティア活動回数（全体会・班会合、イベント）	会合等を含む活動の延べ日数			イベントボランティア活動回数、みどりのサポート隊活動回数
		企画運営型行事等件数				

6-3	各種事業での県民協働の推進	協働による魅力ある展示や普及行事および調査研究活動を推進します。	県民などとの協働による展示の実施状況		1-6の再掲
			県民参画型調査の件数	2件/年	3-3の再掲
			県民との協働による普及行事等の実施状況		友の会、公募ボランティア、その他を統合して記録する

⑦シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じてさまざまな資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、県民の生涯学習を支援するとともに、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。（使命：「連」つながりを大切に、だれもがとどえる博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
7-1	レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	レファレンス記録DBにおける記録件数	500件/年	
		周知状況	レファレンス業務の周知取り組み状況		
7-2	講師派遣等の推進	講師派遣等件数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2出前授業件数」を参照
		講演会等の受講者数			
7-3	自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
		機関・団体等への協力状況			
7-4	大学教育への寄与	非常勤講師受託数		3科目（博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論）の延べ受講者数	
		学生・院生指導人数			
		博物館実習生受入人数			
		学芸員養成科目受講者数			
7-5	学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数		
		学会等役員受託数	学会・研究会における役員・委員等の受託数		
		学会等事務局受託数	当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
7-6	博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受託数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数		
		博物館関連団体加入数	当館が加入している博物館関連団体の数		
		連携事業等の実施数	移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

⑧マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。（使命：効率的でバランスのとれた運営）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
8-1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況			
8-2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況			
		県外利用者の割合			

66 中期活動目標と自己評価

8-3	県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等によるさまざまな博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事業件数			
8-4	設置者による理解および外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県および県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況			
			外部資金獲得数	申請数、獲得数		
8-5	防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震・津波等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。また、県内で発生する災害に対して、県内博物館どうしの救援態勢や相互援助の体制を整備するよう検討します。	防災訓練の実施状況			
			危機管理体制の整備状況 地震、津波等広域災害時の救援体制確立	収蔵庫の耐震化措置		
8-6	職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割および当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。				
8-7	博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立するとともに、来館者アンケートを活用して博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況			
			自己点検評価の状況			
			外部評価の状況			

2. 令和3年度実績と自己評価

(1) 展示

●中期活動目標及び3年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	元年度実績	2年度実績	3年度実績
1-1 常設展リニューアルの実施	実物資料（モノ）の魅力発信に向けた取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>実施設計における検討</li> <li>展示計画再点検ワークショップの実施</li> <li>新常設展での重文展示に関する文化庁との協議</li> <li>新常設展での展示に向けた資料の調査・収集、模型等の製作</li> <li>デジタルアーカイブの構築と資料撮影</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧常設展展示資料等の撤去、仮保管</li> <li>展示解説の執筆及びグラフィックパネル等のデザイン、編集作業</li> <li>展示資料の調査、撮影を行い、展示方法や演示具を検討</li> <li>展示内容再検討ワークショップの実施</li> <li>新常設展での重文展示に関する文化庁との協議</li> <li>新常設展での展示に向けた資料の調査・収集、模型等の製作</li> <li>デジタルアーカイブの構築、資料撮影及び公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧常設展展示資料等の仮保管</li> <li>展示解説の執筆及びグラフィックパネル等のデザイン、編集をし、展示を実施</li> <li>展示資料の調査、撮影を行い、展示方法や演示具を検討し、展示を実施</li> <li>重文展示に関する文化庁との協議</li> <li>展示に向けた資料の調査・収集、模型等製作をし、展示を実施</li> <li>デジタルアーカイブの構築、資料撮影及びコンテンツの追加</li> <li>常設展図録「徳島まるづかみ」の発行</li> <li>「歴史・文化コレクション」での展示解説シートの配布</li> </ul>
	フレキシブルな展示構成に向けた取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>実施設計における検討</li> <li>新常設展での展示に向けた資料の収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新常設展での展示に向けた資料の収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新常設展での展示に向けた資料の収集</li> <li>自然史コレクション、歴史・文化コレクション、県民コレクション、学芸員活動紹介コーナー等の展示替え計画とオープン後の展示替え</li> <li>徳島セクション、地球セクション等の随時展示替え</li> </ul>
	ユニバーサル化推進に向けた取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>実施設計における検討</li> <li>インクルーシブデザインワークショップの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インクルーシブデザインワークショップの実施</li> <li>展示解説等の翻訳</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示解説等の多言語化と展示利用</li> <li>グラフィックパネルやポータル端末用コンテンツ等の多言語化と展示利用</li> </ul>

						<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレット（日本語版・英語版）の作成と配布</li> <li>・展示用手話ガイド解説の作成と運用</li> <li>・インクルーシブデザインワークショップの成果を展示に反映</li> </ul>
	映像・ハンズオン等の活用に向けた取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施設計における検討</li> <li>・新常設展での展示に向けた映像撮影</li> <li>・ハンズオングッズの検討</li> <li>・インターネットの環境の改善を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新常設展での展示に向けた映像制作</li> <li>・ハンズオングッズの検討と製作</li> <li>・インターネットの環境の改善を検討</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像制作及び展示</li> <li>・ハンズオングッズの検討・製作及び展示</li> <li>・インターネット環境の改善を検討</li> </ul>
	新常設展のPRと活用に向けた取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新常設展に関する取材対応とマスコミ報道</li> <li>・ホームページ、フェイスブック等でのPR</li> <li>・特別陳列「とくしまタイムトラベル」での新常設展のプロモーション展示</li> <li>・広報戦略策定に向けた研修会の実施</li> <li>・来館者調査の実施</li> <li>・県民とともに新常設展を考えるワークショップの実施</li> <li>・「蔵出し！とくしま“宝もの”展」「徳島まるづかみ展」の開催計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新常設展に関する取材対応とマスコミ報道</li> <li>・ホームページ、フェイスブック等でのPR</li> <li>・企画展「蔵出し！とくしま“宝もの”展」「徳島まるづかみ展」での新常設展のプロモーション展示</li> <li>・3年度の「徳島まるづかみ展」の開催計画</li> <li>・「徳島まるづかみ展」での来館者の意向調査の実施</li> <li>・新常設展のリニューアルオープンに向けた広報戦略策定業務の実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新常設展に関する取材対応とマスコミ報道</li> <li>・ホームページ、フェイスブック、ユーチューブ等でのPR</li> <li>・特別陳列「徳島まるづかみ展—コミュニケーションで展示を楽しもう！—」での新常設展のプロモーション展示</li> <li>・広報戦略コンセプトに沿ったポスター・チラシ・リーフレット等の作成と配布</li> <li>・マスコミ向け内覧会及びオープンニングセレモニーの開催</li> <li>・他館、各種団体等による視察対応</li> </ul>
1-2	常設展の改善・充実	常設展観覧者数	リニューアル前 40,000人/年 リニューアル後 60,000人/年	49,800人	14,232人 (常設展リニューアルのため、8月までの公開)	44,853人 (8月9日から公開)
		観覧者のリピーター率		35% (8月)	データなし	35% (11～3月)
		観覧者の満足度	80%	99% (8月)	データなし	100% (11～3月)
		展示替え回数	リニューアル前 5回/年 リニューアル後 7回/年	15回 (部門展示5回、トピックコーナー6回、阿波の近世絵画2回、ロビー等での小展示2回)	8回 (部門展示2回、トピックコーナー2回、ロビー等での小展示4回)	13回 (自然史コレクション2回、歴史・文化コレクション4回、県民コレクション2回、学芸員活動紹介コーナー4回、ロビー等での小展示1回)
		展示室内の改善・修繕の実施状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・部門展示室の扉の修繕検討</li> <li>・企画展示室ウォールケースの一部修繕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種対策</li> <li>・新常設展構築事業における常設展示室全体の改修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種対策</li> <li>・新常設展構築事業の一環としての修繕</li> </ul>
1-3	魅力ある企画展の計画的開催	企画展観覧者数	自然250人/日 総合150人/日 人文100人/日	243人(ミネラルズ2019:8,740人、36日) 416人(とくしまの恐竜時代:18,710人、45日)	37人(宝もの展:1,190人、32日) 336人(甲虫すごいぜ!:14,803人、44日)	107人(おふだコレクション:3,531人、33日)
		観覧者の満足度	80%	94%(ミネラルズ2019) 94%(とくしまの恐竜時代)	データなし	94%(おふだコレクション)
		展示への注目度	5件/回	8(ミネラルズ2019) 22(とくしまの恐竜時代)	8(宝もの展) 16(甲虫すごいぜ!)	2(おふだコレクション)
		企画展の検討状況		令和3年度以降の計画の協議	令和4年度以降の計画の協議	令和5年度以降の計画の協議
1-4	多様な展示の開催促進	特別陳列等の開催回数	2回/年	4回 ヒロシマ原爆展、とくしまタイムトラベル、「板東俘虜収容所」の世界展、二品家政所下文	1回 徳島まるづかみ展県央編第1期	1回 徳島まるづかみ展—コミュニケーションで展示を楽しもう！—
		特別陳列観覧者数	自然300人/日 総合200人/日 人文100人/日	318人(ヒロシマ原爆展:5,731人、18日) 205人(とくしまタイムトラベル:6,364人、31日) 89人(「板東俘虜収容所」の世界展:2,498人、28日) 44人(二品家政所下文:444人、10日)	129人(徳島まるづかみ展県央編第1期:3,488人、27日)	73人(徳島まるづかみ展コミュニケーション:1,888人、26日)
		観覧者の満足度	80%/回	97%(とくしまタイムトラベル)	データなし	データなし
		展示への注目度	5件/回	411(ヒロシマ原爆展)、 2(とくしまタイムトラベル)、 3(「板東俘虜収容所」の世界)、 2(二品家政所下文)	7(徳島まるづかみ展県央編第1期)	4(徳島まるづかみ展コミュニケーション)
		特別陳列等の検討状況		令和3年度以降の計画の協議	令和4年度以降の計画の協議	令和5年度以降の計画の協議
1-5	他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展の開催回数	1回/年	2回 文化財調査の先覚者 鳥居龍藏、徳島をさぐる及び文化の森人権啓発展	3回 鳥居龍藏の学問と世界、文化の森30周年展及び文化の森人権啓発展	2回 鳥居龍藏と草原の遊牧王朝 遼、文化の森人権啓発展

		移動展等館外での展示の開催回数	2回/年	2回	3回	1回
				かつうら恐竜時代、あわぎん恐竜時代展	恐竜化石展、徳島まるづかみ展県西編、徳島まるづかみ展県南編	
1-6	展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録等1冊	企画展図録等1冊	企画展図録1冊 常設展図録1冊
		展示解説等の実施状況		企画展展示解説8回 企画展関連行事2回 特別陳列展示解説5回 特別陳列関連行事2回 クイズラリー21回 常設展活用イベント5回 部門展示展示解説9回 常設展見どころ解説2回 移動展展示解説1回	企画展展示解説5回 企画展関連行事4回 特別陳列展示解説2回 特別陳列関連行事1回 クイズラリー8回 部門展示展示解説2回 常設展展示解説10回 移動展展示解説3回	企画展展示解説2回  特別陳列展示解説1回  常設展展示解説1回 常設展活用イベント2回 歴史・文化コレクション展示解説5回 県民コレクション展示解説2回
		展示解説シート等の配布・設置状況		部門展示室5件、トピックコーナー1件	多目的活動室（特別陳列）1件、部門展示室2件、ロビー展示1件、移動展2件	歴史・文化コレクション4件
1-7	県民などとの協働による展示の推進	協働の実施状況		部門展示「文化の森の植物」「アゲハチョウと甲虫」トピックコーナー「奇怪！魚類の頭骨標本」 企画展「ミネラルズ2019」 特別陳列「とくしまタイムトラベル」	企画展「甲虫すごいぜ！」 ロビー等での小展示「馬形はにわ」 移動展「徳島まるづかみ展県南編」	歴史・文化コレクション「太布」 県民コレクション「徳島漂着物コレクション」、「みんなで調べた徳島のタンポポ」

## ●自己評価

### (1-1) 常設展リニューアルの実施

- ・新常設展構築事業として展示製作を進め、7月末までに完了した。8月9日以降、新常設展を公開している。
- ・オープン後も展示の改善・改修を進めている。

#### 【実物資料（モノ）の魅力発信に向けた取り組み】

- ・多彩な実物資料（モノ）を展示した。実物資料の魅力の発信方法について検討した。また、オープン後も展示の一部を追加・改善した。
- ・旧常設展展示資料、備品類の仮保管後、新常設展での展示に活用した。
- ・展示解説等を執筆し、グラフィックパネル等のデザイン、編集作業を行い、展示した。
- ・展示資料の調査、撮影を行い、展示方法や演示具等について検討し、展示した。
- ・重要文化財等の展示について文化庁と協議した。
- ・展示に向けた資料の調査・収集、模型等の製作をし、展示した。
- ・デジタルアーカイブの構築と資料撮影を行い、コンテンツを追加した。
- ・常設展図録「徳島まるづかみ—“いのち”と“とき”のモノ語り—」を発行した。
- ・「歴史・文化コレクション」での展示に合わせ、展示解説シートを作成し、配布した。

#### 【フレキシブルな展示構成に向けた取り組み】

- ・展示替えをしやすいフレキシブルな展示、施設になるよう検討し、展示製作に反映させた。
- ・展示替えを意図して資料を収集し、オープン後に展示した。
- ・自然史コレクション、歴史・文化コレクション、県民コレクション、コミュニケーションゾーンの展示替えを計画し、オープン後は計画にもとづいて展示替えを行った。
- ・オープン後には徳島セクション、地球セクション等の展示替えを随時行った。

#### 【ユニバーサル化推進に向けた取り組み】

- ・誰もが利用しやすい展示、施設になるよう検討し、展示に反映させた。また、オープン後に一部を改善した。
- ・グラフィックパネルやポータブル端末用コンテンツ等に使用する展示解説等を多言語化し、それを展示に利用した。
- ・リーフレット（和文版・英文版）を作成し、受付等で配布した。
- ・展示の手話ガイド解説を作成し、運用を始めた。
- ・インクルーシブデザインワークショップの成果を展示に反映させた。

#### 【映像・ハンズオン等の活用に向けた取り組み】

- ・映像やハンズオン等を用いた体験型の展示について検討し、展示に反映させた。また、オープン後に、コンテン

ツや機器の追加・改修をした。

- ・展示に向けて撮影、編集等映像制作をし、展示した。
- ・展示に向けてハンズオングッズの検討・製作をし、展示した。
- ・展示製作の一環として、展示室での映像展示（AR・VR等）やポータブル端末の活用に向けて、インターネット環境の改善について検討した。

#### 【新常設展のPRと活用に向けた取り組み】

- ・新常設展に関する取材対応をし、マスコミにより報道された。
- ・ホームページ、Facebook、Youtube を用いた WEB 上での紹介等を行った。
- ・特別陳列「徳島まるづかみ展—コミュニケーションで展示を楽しもう！—」で、新常設展のプロモーション展示を行った。
- ・広報戦略コンセプトに沿ってポスター・チラシ・リーフレット等を作成し、配布した。
- ・マスコミ向け内覧会及びオープニングセレモニーを開催した。
- ・他館、各種団体等による視察に対応した。

#### (1-2) 常設展の改善・充実

- ・常設展観覧者数は44,853人であり、目標値に達していない。8月9日に新常設展がオープンしてからの観覧者数であり、通年で観覧者数でないためである。また、依然として新型コロナウイルス感染症拡大下にあったことも影響している。
- ・例年夏休み期間を中心に常設展に関するアンケートを実施していたが、3年度は11月から3月の間、調査を行った。リピーター率35%、観覧者満足度は100%だった。旧常設展同様に観覧者から高く評価されていると言える。
- ・展示替え回数は13回で、目標値を上回っている。元年度の15回、2年度の8回と比較しても期間が短い中、高頻度で展示替えを行っていると言える。常設展リニューアルにともない、定期的に展示替えをするコーナーが増えたためである。内訳は、自然史コレクション2回（「ミニ鉱物展」、「アンモナイトの世界」）、歴史・文化コレクション4回（「阿波のやまと絵師 守住貫魚」、「名所図会でめぐる江戸時代」、「盾持人“里帰り”記念 前山遺跡出土埴輪展」、「太布一樹皮から布をつくる手仕事」）、県民コレクション2回（「徳島漂着物コレクション」、「みんなで調べた徳島のタンポポ」）、学芸員活動紹介コーナー4回、文化の森ウインターフェスティバルでの特別展示「阿波の刀剣」1回である。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受付カウンターへのパーティション、検温器、消毒用アルコール等の設置、展示室への次亜塩素酸空間除菌機、消毒用アルコール等の設置、職員等のマスク着用、手指消毒の徹底等を行い、来館者に対しては、マスクの着用、手指消毒、検温、入場制限、連絡先の提供、ソーシャルディスタンスの徹底等、展示室内での各種対策への協力をお願いした。
- ・新常設展構築事業の一環として、常設展示室の修繕を進めた。

#### (1-3) 魅力ある企画展の計画的開催

- ・3年度は企画展1回（「徳島おふだコレクション ～はらいたまえ きよめたまえ～」）を実施した。常設展同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を行った。
- ・企画展の1日あたりの観覧者数は、「徳島おふだコレクション」が107人（総観覧者数：3,531人、開催日数：33日）で目標値を達成した。
- ・観覧者の満足度は94%と高く、目標値を上回っている。データのある元年度開催の企画展（「ミネラルズ2019」、「とくしまの恐竜時代」）と同等の数値である。
- ・企画展への注目度の指標として、展示内容が報道された件数を上げている。「徳島おふだコレクション」では2件で目標値に達しなかった。企画展開催期間中も当館新常設展への取材、報道が相次いでいたことから、マスコミの注目を集めにくい状況だった。
- ・企画展開催計画については、学術性、新規性、娯楽性等の諸要素をバランス良く取り入れた多様な展示を計画的に組み込むことを心掛けている。また、予算が少ない中で、外部資金の獲得や予算申請方法の工夫により、展示内容や広報の充実を図ることを検討し、実施している。今後も多くの観覧者の満足を得られるよう、展示内容の工夫や効果的な広報に努めていきたい。なお、新型コロナウイルス感染症の収束を見通せないなかで、引き続き各種対策をふまえた計画が必要である。

## 70 中期活動目標と自己評価

### (1-4) 多様な展示の開催促進

- ・特別陳列等の開催回数は1回（「徳島まるづかみ展—コミュニケーションで展示を楽しもう！—」）で、目標値に達しなかった。常設展リニューアルに際し、企画展示室を旧常設展資料の仮保管に使用していたため、展示に使用できなかったことが要因である。
- ・特別陳列の1日あたりの観覧者数は、「徳島まるづかみ展—コミュニケーションで展示を楽しもう！—」73人（総観覧者数:1,888人、開催日数:26日）で目標値に達しなかった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったことが要因と考えられる。
- ・観覧者の満足度に関するデータはない。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から観覧者アンケートの実施を見合わせたためである。
- ・特別陳列への注目度の指標として、展示内容が報道された件数を上げている。「徳島まるづかみ展—コミュニケーションで展示を楽しもう！—」では4件で、目標値に達していない。2年度開催の同シリーズの展示ですでに取材・報道をされていたことから、再度の報道にはつながりにくかったと考えられる。

### (1-5) 他機関との共同展示等の促進

- ・鳥居龍蔵記念博物館との共催により、企画展「鳥居龍蔵と草原の遊牧王朝 遼」を開催した。
- ・文化の森5館及び徳島県教育委員会人権教育課との共催により、「2021年度文化の森人権啓発展」を開催した。
- ・移動展を1回（「サテライト展示（勝浦町周辺の恐竜時代の地層と化石）」）開催した。移動展等の開催回数は目標値に達していない。博物館、その他機関との連携による移動展は、当館単独では難しい分野、資料、地域、施設での展示を可能にするため、継続、拡大できるよう努めたい。

### (1-6) 展示解説等の推進

- ・企画展図録を1冊（「徳島おふだコレクション」）発行した。
- ・常設展図録を1冊（「徳島まるづかみ」）発行した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、文化の森全体で実施する大規模な常設展活用イベント2回（「文化の森 大秋祭り！！」、「文化の森ウィンターフェスティバル」）は例年より規模を縮小して実施した（「文化の森こどもの日フェスティバル」、「文化の森サマーフェスティバル」は中止）。
- ・企画展の展示解説を2回、特別陳列の展示解説を1回（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1回中止）、歴史・文化コレクションの展示解説5回、県民コレクションの展示解説2回を行った。
- ・友の会会員を対象に「新常設展 展示解説」を1回行った。

### (1-7) 県民などとの協働による展示の推進

- ・歴史・文化コレクション「太布」、県民コレクション「徳島漂着物コレクション」、「みんなで調べた徳島のタンポポ」を、県民と協働で開催した。展示での県民との協働件数は3件だった。毎年新たな形での県民協働による展示を実施している。

## (2) 普及教育

### ●中期活動目標及び3年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	元年度実績	2年度実績	3年度実績
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	86回	70回	68回
	普及行事参加者数	5,000人/年	8,648人	1,560人	1,400人
	参加者の満足度	満足した者の割合80%	95.3% (7行事)	アンケート中止	100% (11行事)
	アウトリーチ活動数	5回/年	5回	7回	2回
2-2 学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況	県内全教員 (小・中・高)	県内全教員 (小・中・高)	県内全教員 (小・中・高)	県内全教員 (小・中・高)
	出前授業件数	出前授業15件/年	27件	23件	19件
	資料貸出件数	資料貸出10件/年	13件	9件	4件
	館での授業件数		8件	10件	2件
	教員研修件数		5件	0件	0件
	職場体験件数		7件	6件	3件
	遠足件数		139件(学校89件、その他50件)	34件(学校26件、その他8件)	119件(学校87件、その他32件)
	学校の満足度	80%	99%	100%	97%

2-3	普及的記事の執筆推進	普及的記事の執筆数 博物館ニュース発行回数	40件/年 4回/年	33件 4回	64件 4回	39件 4回
2-4	県民との協働による普及行事等の推進	県民との協働による普及行事等の実施状況		10件（公募ボランティア4件、普及行事6件）	5件（公募ボランティア1件、普及行事4件）	6件（公募ボランティア1件、普及行事5件）
2-5	だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み	だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み状況		5件（インクルーシブワークショップ1件、普及行事2件、インバウンド向け対応1件、広報改善1件）	1件（インクルーシブワークショップ1件）	

## ●自己評価

新型コロナウイルス感染症拡大のため、4月29日から5月5日まで、臨時休館となり、その後の催しや事業にも影響が続いた。

### (2-1) 県民のニーズを反映した多様な催しの開催

- 普及行事の実施回数は、令和2年度の70回から2回減り68回であった。ただし、73回計画しており、3回が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2回が悪天候のため中止になったことは残念であった。参加者数は1,400人で2年度の1,560人から160人減っている。過去2年間、人文・自然分野の行事ともに、1行事当たりの参加人数が、コロナ禍以前に比べると大きく減少している（元年度8,648人）。また、春・夏・秋・冬と実施してきた「文化の森フェスティバル」も春・夏は中止となり、規模を縮小し秋・冬のみの実施となった。参加者数は397人であった（元年度参加者総数5,565人、2年度は中止）。
- 普及行事は、2年度と同じ13シリーズで実施した。分野やテーマによって参加者数は異なるが、全体を通じて、生物に関する行事、屋外で実施する行事、ものづくりなどの活動をとともなう行事、考古学や古文書講座など歴史に関する行事には多数の申込みが集まっている。
- 普及行事への参加者の満足度は、11行事で行ったアンケート結果では、100%が満足していると回答しており好評であった。アンケートをもとに、県民のニーズを考えて内容等を工夫した成果が現れている。
- 移動講座等文化の森以外の施設で実施するアウトリーチ活動は、海陽町立博物館での「海部自然・文化セミナー」が2回あった。4回計画していたが、2回が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。常設展示室のリニューアルオープンによる時間的な制約もあり、目標値の5回を3回下回った。今後は、他館・機関と連携し、アウトリーチ活動も広げていきたい。
- 鳥居龍蔵記念博物館との共催により「令和3年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム」を実施した。中学生・高校生から研究レポートを公募、フォーラム（発表会）で口頭発表（中学生5組、高校生6組、計11組）してもらうとともに、優れた成果を表彰した。参加者は延べ50人であった。遠足等での来館が少ない中学校や高校との連携も深めることができた。

### (2-2) 学校教育支援事業の推進

- 3年度の出前授業数は19件で、2年度同様に目標値の15件を大幅に上回った。その内訳は、徳島市の学校が12件と多く、次いで吉野川市5件、阿南市1件、名西郡の1件である。校種別では、保育園が1件、小学校16件、中学校1件、その他1件であった。小学校以外についても広がりを目指したい。出前授業の内容では、小学校の「昔の道具とくらし」が圧倒的に多いが、「昆虫・水生生物」、「戦争と人々の暮らし」などもある。中学校の1件は、「地域のオリエンテーリング」を、県指定史跡川島廃寺跡にて実施している。中学校や高校でできる授業の分野やテーマを開発し、学校側に対して博物館との連携の方法を提示していく必要がある。出前授業等での「総合評価」については、アンケート提供のあった8校での教員・生徒の満足度は97%で高い評価を得ている。
- 資料の貸出件数は、2年度より5件少ない4件であった。内訳は、「岩石・化石」（小学校2件）、「戦争関係資料」（小学校1件）、「美工資料（一遍聖絵の複製）」（高校1件）であった。目標値の10回を6回下回った。出前授業と同様に、学校側に対して博物館との連携の方法をさらに、提示していく必要がある。
- 館内での授業は2件（2年度10件）であった。3年度で9回目となる教員研修として実施予定であった「教員のための博物館の日 in 徳島」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。
- 職場体験は、高校3件の実施であった。2年度より3件減少した。今後、職場体験を通じて、出前授業での需要の少ない中学校や高校との連携を図ることが必要である。
- 3年度の遠足は119件（学校教育課程87件、放課後児童クラブ・発達支援施設等32件）であり、2年度の34件



## 72 中期活動目標と自己評価

(学校教育課程 26 件、放課後児童クラブ・発達支援施設等 8 件) より増えている。内訳でみると、学校教育課程での利用は 61 件増え、土曜・日曜や長期休業中での放課後児童クラブ、発達支援施設等の利用は、24 件と大幅に増加している。校種別では、小学校が 64 件、未就学(幼稚園・こども園等)が 15 件となっている。中学校・高校は少数である。県内外からの修学旅行での利用が 7 件あった。常設展示室リニューアル後は、遠足の利用が大幅に増えた。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大が見られる期間は、減る傾向にあった。

### (2-3) 普及的文章の執筆推進

- ・普及的文章の執筆数は、39 件であった。常設展リニューアルに伴う新聞執筆等が多かった。
- ・博物館ニュースの発行は、例年通り 4 件であった。

### (2-4) 県民との協働による普及行事等の推進

- ・イベントボランティアを公募し、24 人のボランティアスタッフとの協働により「博物館 V キング」(参加者: 258 人) を実施した。
- ・普及行事等のうち、「コレクションセクション・県民コレクション 徳島漂着物コレクション 展示解説」(2 回)、「ミュージアムトーク ゼロから始める植物学」(5 回)、「野外生きものかんさつ 初めての植物かんさつ」(5 回)、「野外生きものかんさつ 花巡り! 植物かんさつハイキング」(3 回)、「野外生きものかんさつ 漂着物を探そう!」(1 回) の 5 件を県民との協働により実施した。今後も、県民との協働による行事運営の方法を模索したい。

### (2-5) だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み

- ・令和 3 年度は、これまで行ってきたインクルーシブデザインワークショップの成果をふまえた常設展示室リニューアルを行った。これに伴い、障がい者支援施設などの展示見学を呼びかけ利用してもらった。

## (3) 調査研究

### ●中期活動目標及び 3 年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	元年度実績	2 年度実績	3 年度実績
3-1 調査研究活動の推進	課題調査等実施状況	2 件 / 年	2 件 (外部との共同 1)	2 件 (外部との共同 2)	2 件 (外部との共同 2)
	個別調査研究の実施状況				
3-2 外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	10 件 / 年	20 件 / 年	18 件 / 年	16 件 / 年
	共同研究プロジェクト件数	3 件 / 年	6 件 / 年	6 件 / 年	6 件 / 年
3-3 県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の件数	2 件 / 年	4 件 / 年	4 件 / 年	6 件 / 年
3-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的な研究助成金の申請・採択件数	申請 4 件・採択 1 件 / 年	申請 2・採択 0 (継続 7)	申請 2・採択 1 (継続 4)	申請 2・採択 0 (継続 5)
	民間の研究助成金の申請・採択件数		申請 0・継続 0	申請 0・継続 0	申請 0・継続 0
3-5 調査研究成果の公表	学術的著述数	24 本 / 年 (査読付き 4 本 / 年)	26 本 (査読付き 7)	46 本 (査読付き 16)	24 本 (査読付き 7)
	学会・研究会での発表件数	24 件 / 年	12 件 / 年	6 件 / 年	7 件 / 年
	マスコミへの資料提供件数	3 件 / 年	8 件 / 年	5 件 / 年	5 件 / 年

### ●自己評価

#### (3-1) 調査研究活動の推進

- ・課題調査として「徳島県内に残る守札調査」を実施した。
- ・令和 2 年度に引き続き「日本最古級恐竜化石含有層 発掘調査・発信プロジェクト」を実施した。
- ・課題調査等の合計件数は 2 件であり、目標値に達した。
- ・各学芸員が個別調査研究を実施し、それぞれ成果を得た。
- ・学芸員などによる館内公表会(セミナー)は実施しなかった。

#### (3-2) 外部研究機関等との連携の推進

- ・3 年度は他機関等の研究者との共同研究数については、16 件で目標値を達成した (p. 27 ~ 29 「分野別(個別)調査研究」を参照)。

- ・共同研究プロジェクトとは、他機関や研究者等との共同研究のうち、予算的措置を伴う共同研究のことをさす。日本学術振興会科学研究費補助金による「半翅系昆虫の全形態学：ゲノム系統の検証と新奇形質の進化プロセス解明」、「霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究」、「朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究－イワシをめぐる韓国の民俗変化」、「ポスト専門化時代における経験知のマネジメントとその限界性－農山漁業の事例から」、「5万分の1 凶幅「鳴門海峡地域の地質」に伴う研究」と「「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト」がこれにあたり、目標値を達成した。

**(3-3) 県民参画型調査研究の推進**

- ・3年度の県民参画型調査については、合計6件で目標値を達成した。「タンポポ調査・西日本2020」、「漂着物の調査」、「アサギマダラのマーキング調査」、「日本最古級恐竜化石含有層 発掘調査・発信プロジェクト」、「人形座資料調査」、「園瀬川魚類相調査」が実施された。

**(3-4) 外部資金の獲得による調査研究事業の推進**

- ・日本学術振興会による科学研究費補助金(科研費)の3年度の研究代表者としての申請を2件行った(2年11月申請)。
- ・3年度は、科研費等の公的研究助成金の申請が2件で採択はなかった。申請数および採択数は目標に達しなかった。科研費研究代表者として1件「新たな環境への進出と進化：ホトケドジョウ属における源流域への進出と進化プロセス」、科研費研究分担者として4件（「半翅系昆虫の全形態学：ゲノム系統の検証と新奇形質の進化プロセス解明」、「霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究」、「朝鮮海出漁の歴史とその文化的影響の研究－イワシをめぐる韓国の民俗変化」、「ポスト専門化時代における経験知のマネジメントとその限界性－農山漁業の事例から」の研究を継続して行った。近年は科研費の研究分担者として共同で行う研究が増えつつあり、当館のネットワークの広がりがうかがえる。一方、研究代表者としての申請は少なく、積極的な努力が必要である。今後とも継続して科研費申請を進めるとともに、科研費以外の補助金についても、情報を収集して積極的に申請し、獲得を目指したい。
- ・研究課題については、博物館の特性を生かした課題（たとえば分野の枠を越えた共同研究や、博物館学に関連したものなど）を設定するなどの工夫が必要である。
- ・3年度の民間の研究助成金への申請はなかった。

**(3-5) 調査研究成果の公表**

- ・学術論文数は24本、うち査読付き論文は6本であった。学術論文数、査読付き論文数は、ともに目標値に達した。
- ・学会・研究会での発表は7件で、目標値に達しなかった。
- ・マスコミへの資料提供は、「二枚貝と共生する奇妙な形をしたアンモナイトの新種について」、「全国でも珍しくなった外来種キンケイギクの生息地に関する資料提供」および「日本最古級恐竜化石含有層 発掘調査・発信プロジェクト」関連の3件であり、目標値を超えた。今後ともこのような調査成果を県民に積極的に還元する工夫が必要である。

**(4) 資料の収集・保存と活用**

●中期活動目標及び3年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	元年度実績	2年度実績	3年度実績
<b>収集</b>					
4-1 継続的な資料の収集	収蔵資料点数	R5年度末で550,000点	544,248	552,024	574,260
	新規資料増加点数	4000点	13,522	7,776	22,236
	採集資料件数	20件/年	17	14	12
	購入資料件数	3件/年	6	3	5
	寄贈資料件数	100件/年	66	53	61
4-2 寄託資料の受入の促進	寄託資料件数		78	78	78
	新規寄託件数	3件/年	3	1	2
4-3 文献資料の充実	図書冊数		14,330	14,529	14,642
	新規受入図書冊数	140冊	168	199	113
	寄贈図書冊数	40冊	65	86	14
	購入図書冊数	100冊	103	113	99
	購入雑誌タイトル数		33	32	32
<b>保存</b>					
4-4 収蔵資料データベースの整備	収蔵資料 DB登録率	50%	49.2%	48.9%	47.3%

## 74 中期活動目標と自己評価

4-5	資料の安全な保存	燻蒸の実施	3回/年	3回 (燻蒸庫3)	3回 (燻蒸庫3)	3回 (燻蒸庫2+ 全室1)
		収蔵庫点検	12回/年	自然12回 人文12回	自然12回 人文12回	自然12回 人文12回
		展示室点検	12回/年	12回	12回	7回
		企画展示室・歴史民俗収蔵庫の空気環境調査		パッシブインジケータなどによる空気環境調査を実施	パッシブインジケータなどによる空気環境調査を実施	パッシブインジケータなどによる空気環境調査を実施
		新たな防虫・防菌対策の検討		二酸化炭素を用いた殺虫処理を実施	二酸化炭素を用いた殺虫処理を実施	
4-6	収蔵スペースの確保	収蔵スペースの状況および他館の情報収集等		他館の収蔵庫の状況を調査		
<b>活用</b>						
4-7	展覧における利用促進	展示利用点数		2,268	22,054	1,011
		常設展での利用点数		274	156	382
		常設展以外の展示での利用点数		1,994	21,898	629
4-8	貸し出し等の促進	資料特別利用等件数	60件/年	94	78	95
4-9	資料収集保存活動に対する理解の促進	マスコミへの情報提供・ホームページへの掲載・記事執筆など		特別陳列「とくしまタイムトラベル」などの展示で情報発信	企画展「蔵出し!とくしま“宝もの”展」などの展示で情報発信	企画展「徳島おふだコレクション」などの展示で情報発信

### ●自己評価

#### (4-1) 継続的な資料の収集

- ・ 収蔵資料点数は、令和2年度末時点で552,024点であったのが、3年度末時点で574,260点となった。
- ・ 新規資料点数は、22,236点で、目標値の4,000点/年を上回った。新規資料のうち特に多かったのが、動物分野（昆虫）の20,057点であった。
- ・ 採集資料件数は12件（目標値20件/年）、寄贈資料件数は61件（目標値100件/年）で、いずれも目標値を下回った。
- ・ 3年度は植物分野で1件（1点）、地学分野で2件（2点）、歴史分野で1件（23点）、美術工芸分野で1件（1点）、計5件（27点）の資料購入があった。いずれも1点あたりの購入金額が100万円未満のため、資料収集委員会は開催されなかった。

#### (4-2) 寄託資料の受け入れの促進

- ・ 新規寄託は2件で、目標値の3件/年を下回った。

#### (4-3) 文献資料の充実

- ・ 図書・雑誌については、予算などの状況に大きく左右されるため、特に目標値は定めていない。しかし、図書・雑誌は博物館の重要な資料の一部であり、調査研究や展示、普及教育活動などの状況の表れでもあるため、評価指標として取り上げている。なお、27年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。
- ・ 図書冊数は、14,642冊で、2年度から113冊増加した。
- ・ 購入雑誌タイトル数は、32タイトルであった。

#### (4-4) 収蔵資料データベースの整備

- ・ 収蔵資料のデータベースへの登録率は、記録を取り始めた16年度には40%であった。18年度から増加しはじめ、19年度以降、目標値の50%にわずかに届かないレベルで推移した。29年度に登録率が50.0%となり、いったん目標値に達したものの、2年度の登録率は48.9%であった。3年度は登録点数が271,704点、登録率が47.3%となり、目標値を下回った。

#### (4-5) 資料の安全な保存

- ・ 3年度は、燻蒸庫燻蒸を2回、全室密閉燻蒸を生物収蔵庫と歴史民俗収蔵庫で1回実施した。
- ・ 25年1月から、収蔵庫の定期点検を実施している。収蔵庫あるいは収蔵庫内の区画ごとに資料の安全な保管の強化に努めており、26年度以降、目標値を12回/年と定めた。3年度は自然担当で12回、人文担当で12回の点検を行い、目標値に達した。
- ・ 28年6月から、学芸員が交替で月に1回程度常設展示室の点検を実施し、文化財害虫のモニタリングや、温湿度の計測を行っている。3年度は、常設展リニューアル工事により4月から7月までは点検を行っていない。リニューアルオープン後の8月から3月において、7回実施した。
- ・ 2年度に引き続き、3年度も生物収蔵庫、歴史民俗収蔵庫、特別収蔵庫および企画展示室で、パッシブインジ

ケーターや検知管による空気環境調査を行った。

- ・開館から30年が経過し、資料保存に関する設備・機器についても老朽化が進んでおり、定期点検や修繕が必要になっている。2年度に引き続き、3年度も燻蒸庫の活性炭交換を行った。また、温湿度の点検に使用しているデジタル温湿度計の湿度を、アスマン式通風乾湿計を用いて校正した。
- ・文化の森総合公園害虫等駆除及び防除業務は、26年度以降、検査範囲に常設展示室も加えている。3年度も引き続き、トラップ設置・害虫出現状況の調査を行った。

**(4-6) 収蔵スペースの確保**

- ・資料収蔵の高密度化を図るため、生物収蔵庫内のスチール製大型収納ケースの壁面に、資料を掛けて収納するためのワイヤーメッシュを取り付けた。
- ・資料の増加に伴い、収蔵スペースが減少してきている。収蔵スペースを確保するために、置き場所の変更や収納の高密度化、収蔵ケースや容器の工夫などが必要であるが、予算削減や人員削減により進んでいるとはいえない。資料の受け入れは慎重に行うとともに、引き続き具体的な対策を考えていきたい。

**(4-7) 展覧における利用促進**

- ・収蔵資料の活用状況を把握するための指標として、展示利用点数（館蔵資料と寄託資料の合計）を記録している。3年度の利用点数は1,011点（うち館蔵資料1,011点、寄託資料0点）であった。そのうち常設展（コレクションセクションなど）において382点（うち館蔵資料382点、寄託資料0点）、常設展以外の展示（企画展や特別陳列など）において629点（うち館蔵資料629点、寄託資料0点）の資料を利用した。
- ・リニューアルした常設展における展示資料点数は、6,026点（3年8月9日時点）である。旧常設展では4,137点（平成2年11月3日時点）であり、およそ1.5倍に増えている。常設展で展示している資料は、すべてではないが多くは収蔵資料であり、リニューアルの実施に伴い、収蔵資料を活用することができた。

**(4-8) 貸し出し等の促進**

- ・収蔵資料活用の指標の一つとして、資料特別利用（収蔵資料の閲覧・貸出・模写・複製・撮影・出版物掲載など）等件数を設けている。これは、他館への展示のための貸し出しや研究者向けの資料の貸し出し、マスコミや出版社への画像の提供などを含んでいる（学校への貸し出しは含んでいない。これについては「Ⅱ普及教育」を参照のこと）。3年度は95件で、目標値の60件/年を上回った。なお、95件のうち、資料の貸し出しは15件、写真・映像の提供は48件であった。その他、外部から依頼を受ける資料調査にも数多く対応している。

**(4-9) 資料収集保存活動に対する理解の促進**

- ・資料収集保存活動に対する理解を促進するため、様々な取り組みを行っている。3年度は、企画展「徳島おふだコレクション～はらいたまえ きよめたまえ～」、県民コレクション「徳島漂着物コレクション」において、資料の収集・保存、活用などを紹介した。

**(5) 情報の発信と公開**

●中期活動目標及び3年度実績

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	目標値	元年度実績	2年度実績	3年度実績
5-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供しよう努めます。	資料提供件数	30件/年	34件	23件	12件
		マスコミ取材報道件数	100件/年	99件	106件	150件
		マスコミ出演等件数	15件/年	21件	14件	24件
5-2 広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況		チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布
		広報関係出版物発送状況				
		年間催し物案内発送件数（発送回数）	600件（1回）/年	785件（1回）	778件（1回）	778件（1回）
		月間催し物案内発送件数（発送回数）	各80件（12回）/年	各81件（12回）	各81件（12回）	各85件（12回）
		博物館ニュース発送件数（発送回数）	各1,100件（4回）/年	各1,157件（4回）	各1,152件（4回）	各1,152件（4回）
5-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP総アクセス数	9,000,000件/年	12,337,362件	10,113,588件	10,285,407件
		HPの新規および更新したページ数	70ページ/年	697ページ/年	270ページ/年	218ページ/年
		HPの内容の更新頻度	月3回	2.1回/月	2.2回/月	2.2回/月

5-4	SNSによる情報発信	情報交換の推進のためにSNSによる情報発信を促進します。	Facebookの更新数	80回/年	60回	47回	65回
5-5	だれもが情報にアクセスできるホームページづくり(ユニバーサル視点)	こどもから大人まで、さらに外国人など、また、パソコンだけではなくスマートフォンなどでも、さまざまな人が情報にアクセスできるようにします。	HPのスマートフォン等への対応		・企画展専用サイト等で実施	・企画展、リニューアル関連専用サイト等で実施	・「徳島の恐竜」、リニューアル関連専用サイト等で実施
			HPの多言語対応		・新常設展設計事業と連動して検討	・新常設展構築業務と連動して検討	・新常設展構築業務でHPを改修対応
			HPの見やすさや色の検討		・新常設展設計事業と連動して検討	・新常設展構築業務と連動して検討	・新常設展構築業務でHPを改修対応
			デジタルアーカイブ		・徳島県文化の森デジタルアーカイブ事業にて実施	・徳島県文化の森デジタルアーカイブ事業にて実施	・徳島県文化の森デジタルアーカイブ事業にて実施
5-6	常設展のリニューアルに関する情報発信の促進	展示更新の進捗状況を積極的に発信し、完成後はその広報に努めます。	展示更新に関する発信状況		5件 (FB4、HP1)	26件 (FB17、HP8、資料提供1)	40件 (FB37 (オープン前23 (オープン後14))、HP2、マスコミ向け内覧会1)

## ●自己評価

### (5-1) マスコミへの資料提供等の推進

- ・資料提供件数は12件で、2年度より11件減少した。新常設展のグランドオープンに際しては、マスコミ向けの内覧会を開催し、12社が参加した。新型コロナウイルスの影響が考えられるが、博物館からの情報発信としてマスコミへの資料提供は効果的であるため、社会情勢に応じつつ積極的に資料提供を行う必要がある。
- ・マスコミ取材報道件数については、新聞・雑誌によって取材・報道された件数である。3年度は150件で、2年度より44件増加した。常設展リニューアルに関する報道が多く、22件の記事を確認した。企画展「徳島おふだコレクション ～はらいたまえ きよめたまえ～」、歴史・文化コレクション「名所図会でめぐる江戸時代」や自然コレクション「アンモナイトの世界」のほか、勝浦の恐竜化石に関するものなど、注目度の高い話題が多かった。
- ・マスコミ出演等件数は24件で、2年度より10件増加した。特に広報を目的としたラジオ出演数が顕著である。内容は、常設展示のリニューアルに関する出演が13件と半数以上を占めたほか、「勝浦の恐竜化石」など大きな話題に関連した内容が多かった。

### (5-2) 広報活動の強化

- ・広報手段の新規開拓状況として、これまでは来館者数の増加が期待できるイベントでの広報を充実させていたが、3年度は新型コロナウイルスの影響により大規模イベントが中止か規模縮小となり、従来の地道な広報活動により配布ルートの新規開拓を行った。また、チラシ・ポスター等の配布先を企画展等のテーマに合わせてたり、展示協力者等の協力を得たりして、選定・拡充した。
- ・広報関係出版物の発行状況として、年間催し物案内は、県内の小学校の全児童に配布するなど学校関係へ重点的に配布したほか、引き続き幼稚園や保育園などにも配布した。月間催し物案内は、マスコミと各図書館を中心に配布した。博物館ニュースは関係諸機関にまんべんなく配布したが、特に小学校においては理科、社会科、生活科の教員と各クラスに、中学校・高等学校においては理科、社会科の教員に対して配布した。年間・月間催し物案内及び博物館ニュースの発送件数は2年度とほぼ同数であった。
- ・3年度は、2年度に策定した新常設展グランドオープンの広報戦略コンセプトに沿って、リニューアルの告知ポスターを作成して配布した。また、旅行会社に対して教育旅行のプラットフォームを提案するチラシを作成して配布した。

### (5-3) インターネットによる情報発信の推進

- ・インターネットによる情報発信においては、3年度は1年間でホームページに約1,028万件のアクセスがあった。2年度の約1,011万件より約16万件増加し、目標値の900万件/年を上回った。
- ・新規コンテンツ数は218ページ/年で、2年度より大幅に減少したが、目標値の70ページ/年を上回った。新規コンテンツとして、企画展・特別陳列、ボランティア活動、常設展リニューアル、勝浦の恐竜化石に関するページを作成した。
- ・内容の更新頻度は2.2回/月(26回/年)で、目標値の3回/月を下回った。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止による休校・外出自粛が続く中、2年度に引き続き、ホームページ上に博物館を自宅で楽しめるコンテンツ「自宅で博物館を楽しもう!」を作成・提供した。

(5-4) SNSによる情報発信

- ・3年度はFacebookページの更新回数が65回で目標値に達しなかった。新型コロナウイルスによるさまざまな影響があったものの、積極的に活用すべき情報発信ツールであるため、今後はより一層の活用に努めていきたい。
- ・徳島県立博物館YouTubeチャンネルを開設した。3年度は12本の動画をアップロードし、チャンネル登録者数は62人、総視聴回数は5341回であった。

(5-5) だれもが情報にアクセスできるホームページづくり

- ・HPのスマートフォン等への対応は、「徳島の恐竜化石展」のほか、常設展リニューアルや催し物の専用HPで実施した。
- ・新常設展のグランドオープンに伴い、HPシステムを見直し、多言語、文字の大きさや配色、読み上げツールなどに対応した新しいHPシステムへの更新を行った。4年度より本格的に運用する予定である。
- ・徳島県文化の森デジタルアーカイブ構築事業により、22点の館蔵資料を撮影し、デジタルデータを「徳島県立博物館デジタルアーカイブ」サイトにて公開した。
- ・常設展グランドオープンにおいては、観覧者が密集する可能性が高かったため、入館者数制限を行うと共にインターネットで観覧予約できる常設展観覧予約システムを導入した。

(5-6) 常設展のリニューアルに関する情報発信

- ・Facebookにて37件、「常設展のリニューアル」の専用HPにて2件、博物館新常設展グランドオープンのマスコミ向け内覧会1件を行った。

(6) 県民協働・参画

●中期活動目標及び3年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	元年度実績	2年度実績	3年度実績
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	250人/年	262人	185人	231人
	個人会員		48人	39人	47人
	家族会員・家族数		214人・58組	146人・40組	184人・48組
	会員の継続率	前年度会員の70%	70%	60%	76%
	個人会員		79%	75%	82%
	家族会員		62%	48%	70%
	友の会行事実施回数・参加者数	6回/年	6回・147人	6回・122人	7回・124人
	展示利用率	50%	65% (39%)	51% (39%)	60% (46%)
	個人会員		58% (17%)	46% (26%)	57% (34%)
	家族会員		71% (57%)	55% (46%)	63% (58%)
	延べ利用者数		334人 (126人)	254人 (143人)	292人 (180人)
	個人会員		104人 (34人)	113人 (64人)	70人 (50人)
	家族会員		230人 (92人)	141人 (79人)	222人 (130人)
会報の発行回数	2回/年	2回	2回	2回	
6-2 公募ボランティアの協働推進	公募ボランティア登録者数		合計92人 (イベントボランティア46人、みどりのサポート隊46人)	イベントボランティア23人	イベントボランティア24人
	公募ボランティア活動回数 (全体会・班会合、イベント)		合計41回	合計11回	合計15回
			会合37回 (イベントボランティア27回・みどりのサポート隊10回)	イベントボランティア会合10回	イベントボランティア会合14回
			イベント4回	イベント1回	イベント1回
	企画運営型行事等件数		4件 (5/4、8/3-4、11/4、2/11)	1件 (2/11)	1件 (2/11)
6-3 各種事業での県民協働の推進	県民などとの協働による展示の実施状況		部門展示2件、トピックコーナー1件、企画展示1件、特別陳列1件、常設展更新に向けたワークショップ2件	企画展示1件、トピックコーナー1件、移動展1件、常設展更新に向けたワークショップ1件	県民コレクション2件、歴史・文化コレクション1件

## 78 中期活動目標と自己評価

	県民参画型調査の件数	2件/年	4件/年	5件/年	8件/年
	県民との協働による普及行事等の実施状況		10件（公募ボランティア4件、普及行事6件）	5件（公募ボランティア1件、普及行事4件）	3件（公募ボランティア1件、普及行事2件）

### ●自己評価

#### (6-1) 友の会活動の充実と活性化

- ・友の会会員数は、令和2年度は185人、3年度は231人で、46人の増加である。内訳は、個人会員が39人から47人で8人の増加、家族会員が146人（40組）から184人（48組）で38人（8組）の増加となった。今後も、勧誘ポスターの掲示やチラシの配布を行い、PRに努める。また、館内掲示板等やインターネットを利用した情報発信も、引き続き行っていく。
- ・会員の継続率は、2年度が60%、3年度は76%だった。今後は、新規会員募集の強化や、会員が魅力を感じる会の運営を図っていく。
- ・友の会行事の実施回数は7回で、参加者数は124人であった。今後も引き続き会員の参加意欲を高められるように行事の工夫を図っていく。
- ・展示利用率は、2年度は51%、3年度は60%となり、2年連続で目標値を上回った。今後も、会員が博物館に足を運びたくなるような工夫を図っていく。

#### (6-2) 公募ボランティアの協働推進

- ・平成17年度から公募しているイベントボランティアは、令和3年度は、常設展示室がリニューアルして初めての活動となった。令和2年度から継続した20人に加え、新規登録の4人が加わり、合計24人が参加した。
- ・イベントボランティアは、新型コロナウイルス感染症の影響や、常設展示のリニューアルオープンを控えていたことから、9月から活動を開始し、年間14回の会合を実施した。
- ・イベントボランティアの企画によるイベント「博物館Vキング」を、2月11日（金・祝）に開催した。また、例年は、徳島大学で開催される「科学体験フェスティバル in 徳島」など他機関が開催するイベントにもブースを出展しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けてイベントが中止・縮小されたことから、出展を見合わせた。

#### (6-3) 各種事業での県民協働の推進

- ・県民コレクションでは「徳島漂着物コレクション」「みんなで調べた徳島のタンポポ」、歴史・文化コレクションでは「太布一樹皮から布をつくる手仕事」の3件の展示を県民と協働で開催した。
- ・普及行事として、県民協働で「ミュージアムトーク「ゼロから始める植物学」」、「野外生きものかんさつ「初めての植物かんさつ」」、公募ボランティアと協働で「博物館Vキング」を開催した。
- ・「タンポポ調査・西日本2020」、「日本最古級恐竜化石含有層 発掘調査・発信プロジェクト」、「漂着物の調査」、「園瀬川の魚類相調査」、「アサギマダラのマーキング調査」、「人形座資料調査」、「鳥居龍蔵らによる那賀調査の追跡調査」の7件の県民協働参画型調査を実施した。
- ・常設展示室のIPM調査を四国大学学生と実施した。

### (7) シンクタンクとしての社会貢献

#### ●中期活動目標及び3年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	元年度実績	2年度実績	3年度実績
7-1 レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	500件/年	571	527	497
	周知状況		HPへの記載	HPへの記載	HPへの記載
7-2 講師派遣等の推進	講師派遣等件数		35	34（中止12）	27（中止3）
	講演会等の受講者数		(1162)	(796)	(768)
7-3 自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数		29	46	28
	機関・団体等への協力状況		0	0	0
7-4 大学教育への寄与	非常勤講師受託数		3	3	3
	学生・院生指導人数		0	0	0
	博物館実習生等受入人数		16（8大学）	10（5大学）	11（6大学）

		学芸員養成科目受講者数	59	122	93
7-5	学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数	1	0	1
		学会等役員受託数	15	14	15
		学会等事務局受託数	3	3	3
7-6	博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受託数	8	8	8
		博物館関連団体加入数	6	6	6
		連携事業等の実施数	19	18	16
		移動展2回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展3回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展1回（かんきつテラス徳島）、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	

●自己評価

(7-1) レファレンス利用者の拡大

- レファレンス件数は497件で2年度から30件減少し、目標値500件にわずかに届かなかった。分野別の件数では、3年度は動物（昆虫）が109件と最も多く、次いで歴史が89件、地学と動物（脊椎）がともに54件であった。
- レファレンス業務は、博物館の蓄積した資源の有効活用の方法であり、シンクタンク機能の中核でもある。自然と歴史、文化に関する身近な相談所として博物館に親しんでもらえるよう、機会をとらえて周知を進めていく必要がある。

(7-2) 講師派遣等の推進

- 3年度の講師派遣の依頼数は27件で、依頼数は2年度より減少した。新型コロナウイルス感染拡大防止により3件が中止になり、実施件数としては24件で、2年度より多かった。分野別にみると歴史が10件で最も多かった。
- 派遣先の受講者数は、全件において概数が記録されており、768人であった。

(7-3) 自治体及び各種機関・団体への専門知識の提供

- 各種委員会等の委員等受託数は28件で、2年度から18件減少した。これまで特に多かった動物・植物分野における自然環境の評価にかかわるものは12件であった。
- 委員等に委嘱されずに各種機関・団体への協力を求められることもあるが、公共性の高いものについては、レファレンス業務や講師派遣等により可能な範囲で対応していることが多い。

(7-4) 大学教育への寄与

- 3年度の大学における非常勤講師の受託数は3件で、2年度と同数であった。
- 3年度の博物館実習生の受入人数は11人で、2年度に比べて1人多かった。
- 3年度は、学生・院生の研究指導はなかった。受入人数については、大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。
- 県内で学芸員養成を行っている徳島大学、鳴門教育大学、四国大学の「博物館資料保存論」、「博物館教育論」、「博物館展示論」について、大学や近代美術館、文書館と協力し、博物館講座室を会場として共同開講した。新型コロナウイルス感染症対策のため、講義はすべてオンラインで行った。3年度は、延べ93人を指導した。

(7-5) 学会・研究会の運営への寄与

- 3年度の学会や研究会の当館における開催は1件であった。新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの学会や研究会はオンラインで行うようになっており、その影響があると考えられる。
- 学会等役員受託数は15件で、2年度より1件増加した。
- 学会等の事務局受託数は3件で、2年度と同数であった。

(7-6) 博物館施設の連携強化への貢献

- 博物館関連団体の委員等受託数は8件で、2年度と同じだった。
- 博物館関連団体加入数は6件で、2年度と同じである。これらのうち2件は当館が事務局を引き受けている。
- 他館等との連携事業数は16件で、2年度より2件減少した。3年度は移動展を1回開催した。また、当館が事務局を担当している徳島県博物館協議会において研修会を実施したほか、県内外の博物館との連携事業を行った。



## (8) マネージメント（経営）

## ●中期活動目標及び3年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	元年度実績	2年度実績	3年度実績
8-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況		常設展示点検・修繕および改善 常設展リニューアルに向けての設計、製作着手	常設展示点検・修繕および改善（～8月） 新常設展の製作	常設展リニューアルオープン 新規導入設備の点検や見直し
8-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		常設展・企画展におけるアンケート調査	データなし	常設展・企画展におけるアンケート調査
	県外利用者の割合		「ミネラルズ2019」10% 「とくしまの恐竜時代」14%	データなし	「おふだ」6%
8-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業件数		3件（公募ボランティア事業、みどりのサポート隊、恐竜化石発掘調査）	2件（公募ボランティア事業、恐竜化石発掘調査）	2件（公募ボランティア事業、恐竜化石発掘調査）
8-4 設置者による理解および外部資金の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 80, 100千円	2月補正後 6,051,310千円 文化庁補助 6,693千円	2月補正後 664,422千円 (文化庁補助 4,000千円含む)
	外部資金獲得数		申請3、採択2、継続7 クラウドファンディング1	申請2、採択1、継続4	申請3、採択1、継続5
8-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊の防火防災訓練 3月11日	自衛消防隊の防火防災訓練 3月19日	自衛消防隊の防火防災訓練 3月25日
	危機管理体制の整備状況		事務室等書棚固定	新型コロナウイルス感染症拡大防止	新型コロナウイルス感染症拡大防止
8-6 職員の意識改革と資質の向上	取り組み状況		文化庁等の研修 ICOM 京都大会、日本博物館協会全国博物館大会	講師招聘による研修	講師招聘による研修
8-7 博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況		第4期中期活動目標の策定・運用	第4期中期活動目標の運用	第4期中期活動目標の運用
	自己点検評価の状況		30年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	元年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	2年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載
	外部評価の状況		博物館協議会 9月26日	博物館協議会 9月30日	博物館協議会 9月29日

## ●自己評価

## (8-1) 利用しやすい博物館をめざす施設の改善

- ・常設展リニューアルを継続し、8月9日にオープンを迎えた。従来の不具合等は解消された一方、新たに導入した設備の点検や見直しに取り組んだ。
- ・令和3年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、検温や消毒等に必要な物品等の整備、職員及び利用者等の予防行動の浸透に注力した。

## (8-2) 博物館認知度の向上と利用者層の拡大

- ・3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、観覧者へのアンケート調査を再開した。企画展は「徳島おふだコレクション」を開催し、アンケート結果によれば、94%が県内在住者であった。新型コロナウイルス感染症が収束しておらず、県外からの誘客の困難な状況下ではあったが、関東や近畿からの来館があった。
- ・各種団体からの依頼により入館料の減免を行っている。3年度は23件であった。
- ・25年度から始めた講座室の有料貸し出しについては、3年度は3件であった。

## (8-3) 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討

- ・公募ボランティアと職員の協働を継続し、「博物館Vキング」を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意し、常設展コミュニケーションゾーンの活用を含むイベントとなった。
- ・新型コロナウイルス感染症との共存を余儀なくされるとともに、新装なった常設展（とくにコミュニケーションゾーン）の有効活用を必要とする中、県民参画のあり方を見直し、運営基盤の強化につながるよう検討すべき時期に来ている。

## (8-4) 設置者による理解および外部資金の獲得

- ・外部資金は、日本学術振興会科学研究費補助金等公的な研究助成を2件申請し、新規採択0件、継続5件であった。また、(公財)日本生命財団による「展示案内」の出版助成を申請し、採択された。
- ・2年度、徳島県が策定し、国から認定された「徳島県文化観光推進地域計画」に中核的な文化観光拠点として位置づけられたことから、「グランドオープン!!博物館“驀進(バクシン)”事業」において文化庁文化芸術振興費

補助金を活用した。

**(8－5) 防災意識の向上と危機管理体制の強化**

- ・2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止について、県全体の動向を踏まえつつ、文化の森6館で連携しながら、取り組みを進めた。
- ・自衛消防隊の防災訓練を3月に行った。
- ・様々な災害や非常事態に対応できるよう、職員各人の防災意識の喚起と危機管理体制の強化に努めたい。

**(8－6) 職員の意識改革と資質向上**

- ・3年度は、各種研修会の対面開催が少しずつ再開され、職員8人を派遣した。

**(8－7) 博物館評価システムの構築**

- ・元年9月に策定した第4期中期活動目標にもとづいて、2年度事業の自己評価を行った。その内容は、年報やホームページに掲載した。また、博物館協議会において討議いただいた（外部評価）。

# X 観覧者等統計

減免範囲の変更などにより、無料観覧者数の変動が生じているので、開館以来一貫した基準での統計にはなっていない。経年的な観覧者数の推移を見る場合、注意が必要である。

## ●令和3年度 常設展観覧者数

(単位：人)

月	開館 日数	有料観覧者							無料観覧者															観覧者 総数		
		個人			団体(割引20%)				有料 観覧者 計	学校教育										個人					無料 観覧者 計	
		一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一般	高校・ 大学生	小・中 学生	幼稚園・保育園 園数		小学校 校数	中学校 校数	高校 校数	計 校数	小学生 人数	中学生 人数	高校生 人数	障がい者 人数	高齢者 人数	その他 人数							
																				人数	人数	人数	人数			人数
4月	0	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	0	0
5月	0	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	0	0
6月	0	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	0	0
7月	0	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	0	0
8月	19	3,356	64	0	1,773	20	0	5,213	2	111	11	141	0	0	0	0	13	252	2,906	195	79	227	783	4,194	8,636	13,849
9月	26	1,711	61	16	886	19	8	2,701	2	28	2	33	0	0	0	0	4	61	859	82	33	140	479	3,112	4,766	7,467
10月	27	1,322	38	29	634	10	7	2,040	3	110	23	1,438	3	105	0	0	29	1,653	637	63	15	128	415	1,080	3,991	6,031
11月	25	237	7	0	82	1	0	327	6	306	34	1,420	0	0	0	0	40	1,726	727	70	37	41	487	3,475	6,563	6,890
12月	24	593	27	1	305	2	1	929	2	68	12	539	2	29	1	8	17	644	266	15	18	67	194	586	1,790	2,719
1月	23	465	11	9	326	2	4	817	2	55	3	63	0	0	0	0	5	118	253	30	22	51	213	770	1,457	2,274
2月	24	388	25	2	341	7	5	768	0	0	1	40	0	0	0	0	1	40	268	20	12	44	196	1,022	1,602	2,370
3月	27	547	27	15	555	18	5	1,167	1	27	4	118	0	0	1	5	6	150	362	49	26	64	365	1,070	2,086	3,253
計	195	8,619	260	72	4,902	79	30	13,962	18	705	90	3,792	5	134	2	13	115	4,644	6,278	524	242	762	3,132	15,309	30,891	44,853

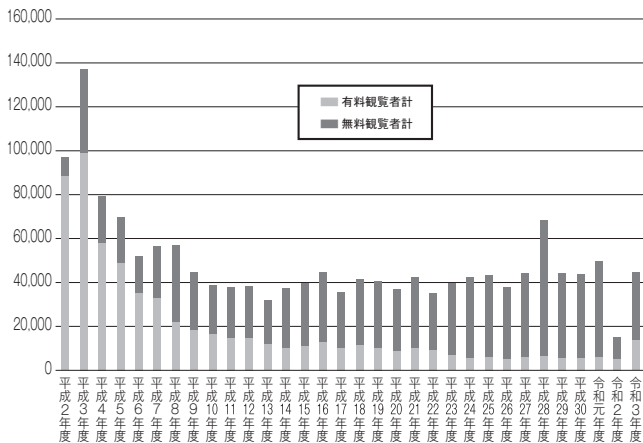
※4月1日～8月8日常設展全面リニューアル工事による休館。

## ●令和3年度 企画展観覧者数

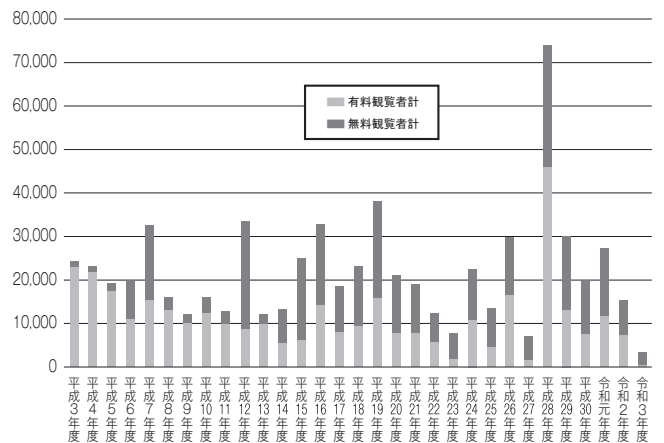
(単位：人)

企画展名	開催期間	開催 日数	有料観覧者							無料観覧者															観覧者 総数		
			個人			団体(割引20%)				減免 (割引50%) 観覧者 計	学校教育										個人					無料 観覧者 計	
			一般	高校・ 大学生	小・中 学生	一般	高校・ 大学生	小・中 学生	幼稚園・保育園 園数		小学校 校数	中学校 校数	高校 校数	計 校数	小学生 人数	中学生 人数	高校生 人数	障がい者 人数	高齢者 人数	その他 人数							
																					人数	人数	人数	人数			人数
第1回企画展 「徳島おふだコレク ション」	R3.10.15 R3.11.21	33	245	13	4	124	5	2	219	612	7	335	38	2,029	1	11	0	0	46	2,375	131	36	14	41	322	2,919	3,531
合計		33	245	13	4	124	5	2	219	612	7	335	38	2,029	1	11	0	0	46	2,375	131	36	14	41	322	2,919	3,531

## ●常設展観覧者数 (平成2～令和3年度)



## 企画展観覧者数 (平成3～令和3年度)



●企画展観覧者数累計（平成3～令和3年度）

（単位：人）

年度	名 称	開催期間	開催 日数	有 料 観 覧 者											無 料 観 覧 者				観覧者 総数		
				個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）					有料観 覧者計	一般	高校・ 大学生	小・中 学 生		その他	無料観 覧者計
				一般	高校 大学生	小・中 学 生	一般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一般	高 齢者	障 がい者	計	高校・ 大学生							
3 (1991)	里帰り文化財名品展	S62.4.4 ~ S62.5.4	27	5,474	286	787	58	30	0	1,497	22	1,519	20	0	8,174	-	-	-	513	513	8,687
	和泉層群の化石	S62.7.20 ~ S62.8.31	37	4,755	547	2,594	62	0	161	259	15	274	0	2	8,395	-	-	-	259	259	8,654
	人形芝居がやってきた	S62.10.10 ~ S62.11.9	27	1,381	35	138	246	0	500	323	7	330	0	0	2,630	-	-	-	217	217	2,847
	阿波の刀剣	S63.2.17 ~ S63.3.21	29	2,723	210	277	38	0	0	462	40	502	0	0	3,750	-	-	-	299	299	4,049
	平成3年度小計		120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,541	84	2,625	20	2	22,949	-	-	-	1,288	1,288	24,237
4 (1992)	四国の古墳	S63.4.23 ~ S63.5.23	26	2,566	256	745	169	55	31	473	21	494	0	0	4,316	-	-	-	387	387	4,703
	甲虫の世界	S63.7.20 ~ S63.8.29	36	8,404	603	6,032	163	0	116	264	20	284	0	5	15,607	-	-	-	349	349	15,956
	徳島の指定文化財	S63.10.19 ~ S63.11.14	24	1,299	56	79	144	0	0	439	9	448	0	0	2,026	-	-	-	407	407	2,433
	平成4年度小計		86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,176	50	1,226	0	5	21,949	-	-	-	1,143	1,143	23,092
5 (1993)	祈り・のろい・はらい	H1.4.19 ~ H1.5.22	29	1,989	362	492	0	0	0	236	8	244	0	0	3,087	-	-	-	274	274	3,361
	南アメリカの自然	H1.7.23 ~ H5.9.5	38	6,745	561	3,835	191	6	313	284	13	297	1	0	11,949	-	-	-	257	257	12,206
	鳥居龍藏の見たアジア	H1.10.11 ~ H1.11.20	37	1,524	79	148	84	21	83	460	7	467	1	0	2,407	-	-	-	1,201	1,201	3,608
	平成5年度小計		104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	980	28	1,008	2	0	17,443	-	-	-	1,732	1,732	19,175
6 (1994)	人間に光あれ	H2.4.25 ~ H2.5.28	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,811	462	2,098	-	7,371	7,371	
	祖谷 その自然とくらし	H2.7.25 ~ H6.9.4	36	1,910	131	444	104	0	41	336	12	348	0	1	2,979	-	-	-	266	266	3,245
	描かれた弥生人のくらし	H2.10.6 ~ H2.11.12	33	800	56	184	61	0	236	209	3	212	0	0	1,549	-	-	-	258	258	1,807
	東洲斎写楽と役者絵の世界	H3.3.3 ~ H3.3.18	14	4,883	521	432	57	0	0	719	21	740	0	5	6,638	-	-	-	697	697	7,335
	平成6年度小計		112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,264	36	1,300	0	6	11,166	4,811	462	2,098	1,221	8,592	19,758
7 (1995)	よみがえる古代の輝き	H3.4.20 ~ H3.5.20	26	2,595	279	601	6	10	561	446	18	464	0	0	4,516	-	-	-	468	468	4,984
	貝の世界	H3.7.21 ~ H7.9.3	38	5,837	490	3,773	77	0	183	416	37	453	0	3	10,816	-	-	-	2,127	2,127	12,943
	戦争から豊かな未来へ	H3.10.16 ~ H3.11.18	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10,103	499	4,016	-	14,618	14,618	
	平成7年度小計		94	8,432	769	4,374	83	10	744	862	55	917	0	3	15,332	10,103	499	4,016	2,595	17,213	32,545
8 (1996)	銅鐸の美	H4.4.1 ~ H4.5.11	36	2,199	362	528	2	0	843	485	30	515	27	0	4,476	-	-	-	1,524	1,524	6,000
	館物の世界	H4.7.18 ~ H8.9.1	39	3,631	432	1,908	24	0	0	359	22	381	5	1	6,382	-	-	-	981	981	7,363
	目で見える博物学	H4.10.17 ~ H4.11.30	39	1,214	75	245	2	37	487	210	12	222	1	0	2,283	-	-	-	455	455	2,738
	平成8年度小計		114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,054	64	1,118	33	1	13,141	-	-	-	2,960	2,960	16,101
9 (1997)	阿波の近世絵画	H5.4.21 ~ H5.5.17	24	1,214	52	38	4	0	267	445	7	452	0	0	2,027	-	-	-	379	379	2,406
	吉野川の自然	H5.7.17 ~ H9.8.31	39	2,612	233	914	0	0	0	448	27	475	0	1	4,235	-	-	-	938	938	5,173
	ネアンデルタール人の復活	H5.9.19 ~ H5.10.25	32	2,196	187	573	43	13	553	369	19	388	4	0	3,957	-	-	-	664	664	4,621
	平成9年度小計		95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	53	1,315	4	1	10,219	-	-	-	1,981	1,981	12,200
10 (1998)	海はむすぶ	H6.4.20 ~ H6.5.23	30	937	43	157	3	3	24	184	17	201	0	0	1,368	-	-	-	465	465	1,833
	チョウとガ	H6.7.17 ~ H6.8.29	38	4,456	183	3,349	38	0	141	249	37	286	0	9	8,462	-	-	-	2,427	2,427	10,889
	瀬戸内海のおいたち	H6.10.9 ~ H6.11.22	39	971	40	260	12	0	1,202	227	17	244	0	6	2,735	-	-	-	584	584	3,319
	平成10年度小計		107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	660	71	731	0	15	12,565	-	-	-	3,476	3,476	16,041
11 (1999)	大名行列	H7.4.19 ~ H7.5.22	30	1,752	74	298	0	7	725	442	26	468	0	1	3,325	-	-	-	426	426	3,751
	伊能忠敬が描いた日本	H7.9.9 ~ H11.10.11	28	2,189	267	461	3	22	133	475	22	497	0	5	3,577	-	-	-	659	659	4,236
	新発見考古速報展 発掘された日本列島'99	H7.10.23 ~ H7.11.20	25	1,861	128	297	111	49	46	532	38	570	0	1	3,063	-	-	-	1,688	1,688	4,751
	平成11年度小計		83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	-	-	-	2,773	2,773	12,738
12 (2000)	藍のよそおい	H8.4.17 ~ H8.5.20	30	1,851	96	52	9	0	0	626	22	648	0	0	2,656	-	-	-	383	383	3,039
	さよなら20世紀-カメラがとらえた日本の100年	H8.5.31 ~ H8.7.8	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6,745	6,745	6,745
	侵入者たち	H8.7.17 ~ H8.9.9	48	3,374	240	2,134	21	0	79	288	36	324	0	6	6,178	-	-	-	1,669	1,669	7,847
	世紀末大博覧会	H8.10.19 ~ H8.11.25	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9,888	741	5,155	-	15,784	15,784	
平成12年度小計		145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	9,888	741	5,155	8,797	24,581	33,415	
13 (2001)	クントゥル・ワシ神殿の発掘	H13.4.6 ~ H9.5.5	27	3,326	267	520	38	0	179	838	42	880	1	5	5,216	-	-	-	821	821	6,037
	門出のセレモニー	H13.7.17 ~ H9.8.25	36	889	65	89	55	0	0	224	6	230	1	0	1,329	-	-	-	489	489	1,818
	信仰と美術	H14.2.19 ~ H10.3.20	27	2,087	112	125	53	37	18	1,075	37	1,112	0	0	3,544	-	-	-	760	760	4,304
	平成13年度小計		90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	-	-	-	2,070	2,070	12,159
14 (2002)	貝化石が語る海の記憶	H10.4.11 ~ H10.5.11	27	2,125	47	32	0	0	0	300	11	311	0	0	2,515	-	486	2,545	771	3,802	6,317
	海道をゆく	H10.7.19 ~ H10.8.31	39	1,108	51	0	6	0	0	210	11	221	0	0	1,386	-	55	1,051	702	1,808	3,194
	古代のわざ	H10.10.10 ~ H10.11.9	27	1,148	37	4	28	0	0	347	14	361	0	0	1,578	-	60	1,618	468	2,146	3,724
	平成14年度小計		93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	-	601	5,214	1,941	7,756	13,235
15 (2003)	歴史を決めた戦い	H11.4.21 ~ H11.5.24	30	1,930	67	15	0	0	0	558	29	587	0	0	2,599	-	483	1,567	704	2,754	5,353
	アイヌ工芸品展	H11.7.18 ~ H11.8.30	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	317	2,455	7,657	10,429	10,429
	アンモナイトのすべて	H11.10.16 ~ H11.11.23	34	2,892	106	35	32	0	0	524	25	549	0	0	3,614	-	266	3,757	1,458	5,481	9,095
	平成15年度小計		102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	-	1,066	7,779	9,819	18,664	24,877
16 (2004)	サメの世界	H12.4.23 ~ H12.5.29	32	6,328	182	67	36	33	0	521	51	572	0	1	7,219	-	182	6,622	2,681	9,485	16,704
	エビとカニ	H12.8.11 ~ H12.9.19	34	5,008	112	20	7	2	0	386	31	417	0	1	5,567	-	128	3,689	2,581	6,398	11,965
	石とくらし	H12.10.21 ~ H12.11.27	33	1,138	16	31	22	0	0	304	12	316	0	1	1,524	-	55	1,795	767	2,617	4,141
	平成16年度小計		99	12,474	310	118	65	35	0	1,211	94										

84 観覧者等統計

17 (2005)	縄文の美	H13.4.25 ~H13.5.28	30	2,254	100	20	3	12	0	619	26	645	0	0	3,034	-	187	2,388	650	3,225	6,259
	絶滅	H13.7.21 ~H13.8.30	36	3,482	157	0	9	0	0	355	27	382	0	0	4,030	-	227	3,355	1,528	5,110	9,140
	ふるさと再発見	H13.10.21 ~H13.11.26	32	595	14	6	0	0	0	411	10	421	0	0	1,036	-	29	1,451	529	2,009	3,045
	平成17年度小計		98	6,331	271	26	12	12	0	1,385	63	1,448	0	0	8,100	-	443	7,194	2,707	10,344	18,444
18 (2006)	奇跡の化石たち	H14.4.27 ~H14.6.17	45	3,900	113	32	106	0	0	538	41	579	0	0	4,730	-	273	5,189	1,640	7,102	11,832
	世界の種と実	H14.7.21 ~H14.8.30	36	3,076	122	0	4	0	0	373	71	444	0	0	3,646	-	142	3,187	1,114	4,443	8,089
	海人の見た世界	H14.10.6 ~H14.11.25	44	789	13	2	30	0	0	334	24	358	0	0	1,192	-	74	1,535	563	2,172	3,364
	平成18年度小計		125	7,765	248	34	140	0	0	1,245	136	1,381	0	0	9,568	-	489	9,911	3,317	13,717	23,285
19 (2007)	ミネラルズ	H15.4.26 ~H15.6.2	33	3,245	119	34	193	3	1	408	65	473	0	0	4,068	-	371	4,307	1,117	5,795	9,863
	世界の甲虫	H15.7.20 ~H15.9.23	58	9,043	143	7	182	1	0	768	193	961	0	0	10,337	-	200	8,156	5,451	13,807	24,144
	新発見考古速報展 発掘された日本列島2007	H15.11.12 ~H15.12.8	24	890	24	19	77	0	1	457	63	520	0	0	1,531	-	35	974	1,716	2,725	4,256
	平成19年度小計		115	13,178	286	60	452	4	2	1,633	321	1,954	0	0	15,936	-	606	13,437	8,284	22,327	38,263
20 (2008)	郷土の発見	H16.4.25 ~H16.5.24	26	292	35	0	3	0	0	149	9	158	0	0	488	-	28	1,217	1,172	2,417	2,905
	動物大集合	H16.7.18 ~H16.8.30	38	4,454	106	0	119	1	0	441	120	561	0	0	5,241	-	196	4,249	2,966	7,411	12,652
	香りの世界	H16.10.17 ~H16.11.23	33	1,630	68	6	63	1	0	436	46	482	3	0	2,253	-	132	2,161	1,104	3,397	5,650
	平成20年度小計		97	6,376	209	6	185	2	0	1,026	175	1,201	3	0	7,982	-	356	7,627	5,242	13,225	21,207
21 (2009)	シーラカンス	H17.4.24 ~H17.6.13	44	5,212	202	46	202	1	1	628	139	767	1	1	6,433	-	528	6,498	2,017	9,043	15,476
	生誕200年 守住貫魚	H17.10.16 ~H17.11.22	33	755	16	3	32	0	0	635	43	678	0	1	1,485	-	23	1,191	982	2,196	3,681
22 (2010)	平成21年度小計		77	5,967	218	49	234	1	1	1,263	182	1,445	1	2	7,918	-	551	7,689	2,999	11,239	19,157
	ヒマラヤ	H18.4.28 ~H18.6.5	34	1,927	40	9	93	0	0	916	50	966	0	0	3,035	-	143	2,112	619	2,874	5,909
	藍染めの表象	H18.10.4 ~H18.11.10	30	709	52	1	23	0	0	429	35	464	0	0	1,249	-	103	1,467	718	2,288	3,537
	聖地★巡礼	H19.2.10 ~H19.3.20	34	960	50	6	22	0	0	426	49	475	0	0	1,513	-	21	394	1,091	1,506	3,019
23 (2011)	平成22年度小計		98	3,596	142	16	138	0	0	1,771	134	1,905	0	0	5,797	-	267	3,973	2,428	6,668	12,465
	人形☆ひとがた	H19.4.22 ~H19.6.4	38	488	43	0	28	0	0	249	140	389	1	1	950	-	327	2,394	777	3,498	4,448
	描かれた地震	H19.10.20 ~H19.11.26	33	500	45	5	31	0	0	274	24	298	0	0	879	-	56	1,687	689	2,432	3,311
24 (2012)	平成23年度小計		71	988	88	5	59	0	0	523	164	687	1	1	1,829	-	383	4,081	1,466	5,930	7,759
	ほねほねワールド	H20.7.19 ~H20.9.1	39	6,710	187	0	209	2	0	668	137	805	2	0	7,915	-	206	5,806	3,531	9,543	17,458
	日本のわざと美	H20.10.19 ~H20.11.24	32	1,567	28	4	62	0	0	1,212	-	1,212	-	-	2,873	-	47	1,266	803	2,116	4,989
平成24年度小計		71	8,277	215	4	271	2	0	1,880	137	2,017	2	0	10,788	-	253	7,072	4,334	11,659	22,447	
25 (2013)	天下の台所大坂と徳島	H21.4.26 ~H21.6.8	38	754	44	1	27	0	0	398	-	398	-	-	1,224	-	43	2,026	794	2,863	4,087
	エイリアン・スピーシーズ	H21.7.18 ~H21.8.31	40	2,912	60	0	87	0	0	358	-	358	-	-	3,417	-	134	3,612	2,302	6,048	9,465
	平成25年度小計		78	3,666	104	1	114	0	0	756	-	756	-	-	4,641	-	177	5,638	3,096	8,911	13,552
26 (2014)	いただきます〜す!	H22.4.24 ~H22.6.7	39	825	33	1	37	21	0	240	-	240	-	-	1,157	-	306	2,326	862	3,494	4,651
	まんまるワールド	H22.7.18 ~H22.8.30	38	2,732	34	0	390	3	0	639	-	639	-	-	3,798	-	106	2,931	2,838	5,875	9,673
	空海の足音 四国へんろ展 [徳島編]	H22.10.24 ~H22.11.29	32	7,098	-	-	203	-	-	4,415	-	-	-	-	11,716	-	110	1,275	2,424	3,809	15,525
27 (2015)	平成26年度小計		109	10,655	67	1	630	24	0	5,294	-	879	-	-	16,671	-	522	6,532	6,124	13,178	29,849
	瓦から見る古代の阿波	H23.4.23 ~H23.6.6	39	458	18	3	112	2	0	355	-	355	-	-	948	-	34	1,977	1,259	3,270	4,218
	阿波木筒箱まわしの世界	H23.10.30 ~H23.11.28	26	240	21	0	114	2	5	472	-	472	-	-	854	-	64	660	1,390	2,114	2,968
平成27年度小計		65	698	39	3	226	4	5	827	-	827	-	-	1,802	-	98	2,637	2,649	5,384	7,186	
28 (2016)	自然だいすき! みんなの自然コレクション	H24.4.19 ~H24.6.11	47	1,769	35	18	640	6	5	327	-	327	-	-	2,800	-	55	3,645	2,856	6,556	9,356
	トクシマ恐竜展	H24.7.14 ~H24.9.18	59	27,275	251	11,848	35	1	86	3,155	-	3,155	-	-	42,651	-	-	19,625	19,625	62,276	
	徳島藩絵師のすがお	H24.10.21 ~H24.11.19	26	233	11	0	62	0	0	331	-	331	-	-	637	-	10	744	1,053	1,807	2,444
平成28年度小計		132	29,277	297	11,866	737	7	91	3,813	-	3,813	-	-	46,088	-	65	4,389	23,534	27,988	74,076	
29 (2017)	ザ・モンスター〜海と陸のへんてこ生物たち〜	H25.7.21 ~H25.9.9	45	7,391	115	9	2,766	23	1	1,512	-	1,512	-	-	11,817	-	207	7,320	6,642	14,169	25,986
	江戸幕府と徳島藩-幕藩制改革からみる江戸時代-	H25.10.13 ~H25.11.18	32	466	13	13	181	2	1	622	-	622	-	-	1,298	-	213	1,304	1,280	2,797	4,095
	平成29年度小計		77	7,857	128	22	2,947	25	2	2,134	-	2,134	-	-	13,115	-	420	8,624	7,922	16,966	30,081
30 (2018)	「阿波漁民ものがたり-海を渡り歩いた漁師たちの5つの話-」	H26.4.26 ~H26.6.9	39	364	22	0	311	0	0	451	-	451	-	-	1,148	-	0	1,455	1,725	3,180	4,328
	ジャングルいきもの図鑑	H26.7.19 ~H26.9.8	52	3,589	42	0	1,816	10	0	885	-	885	-	-	6,342	-	0	172	8,824	8,996	15,338
	平成30年度小計		91	3,953	64	0	2,127	10	0	1,336	-	1,336	-	-	7,490	-	0	1,627	10,549	12,176	19,666
元 (2019)	ミネラルズ2019	H27.4.26 ~H27.6.1	36	2,048	69	23	1,006	14	0	649	-	649	-	-	3,809	-	0	1,523	3,408	4,931	8,740
	とくしまの恐竜時代	H27.7.18 ~H27.9.7	45	4,424	38	4	2,222	10	0	1,290	-	1,290	-	-	7,988	-	171	508	10,043	10,722	18,710
	令和元年度小計		81	6,472	107	27	3,228	24	0	1,939	-	1,939	-	-	11,797	-	171	2,031	13,451	15,653	27,450
2 (2020)	蔵出し! とくしま「宝もの」展	H28.5.9 ~H28.6.13	32	187	13	21	122	2	1	154	-	154	-	-	500	-	15	170	505	690	1,190
	甲虫すこいぜ!	H28.7.10 ~H28.8.29	44	4,028	41	6	2,176	12	4	642	-	642	-	-	6,909	-	80	3,345	4,469	7,894	14,803
	令和2年度小計		76	4,215	54	27	2,298	14	5	796	-	796	-	-	7,409	-	95	3,515	4,974	8,584	15,993
3 (2021)	「徳島おふだコレクション」	R3.10.15 ~R3.11.21	33	245	13	4	124	5	2	219	-	219	-	-	612	-	14	2,207	698	2,919	3,531
	令和3年度小計		33	245	13	4	124	5	2	219	-	219	-	-	612	-	14	2,207	698	2,919	3,531
総計			2,938	230,837	10,496	44,864	15,931	459	7,030	45,289	2,166	43,040	68	57	357,197	24,802	8,644	134,552	151,599	319,597	676,794

※平成14年度から小・中学生及び高校生の土・日曜日、祝・休日、長期休業日における観覧料が無料となり、学校教育による観覧料も無料となった。これに伴い、無料観覧者の計数基準が変更されている。

※平成24年9月から障がい者とその介助者1人の観覧料が無料となった。

●常設展観覧者数累計（平成2～令和3年度）

（単位：人）

年 度	開 館 日 数	有 料 観 覧 者											有 料 観 覧 者 計	無 料 観 覧 者											観 覧 者 総 数			
		個 人			団 体（割引20%）			減 免（割引50%）						学 校 教 育					高 齢 者 障 が い 者	そ の 他	無 料 観 覧 者 計							
		一 般	高 校 大 学 生	小・中 学 生	一 般	高 校 大 学 生	小・中 学 生	大 人	高 齢 者	障 害 者	計	高 校 大 学 生		小・中 学 生	幼 稚・保 育 園 園 数	人 数	小 学 校	中 学 校				高 校	計	土・日・祝 休 日 集 団 期 間				
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722	-	-	55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489	-	-	1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282	-	-	202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568	-	-	2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861	-	-	114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	-	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	-	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	-	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	-	7,493	23,225	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	-	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	-	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,751	1,337	-	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	-	13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	-	13,744	23,280	38,132
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	98	5,541	2,275	-	12,017	19,833	32,038
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373	-	9,766	27,315	37,349
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	93	6,488	11,732	-	10,264	28,484	39,797
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532	-	11,705	31,705	44,669
17	306	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432	-	9,157	25,372	35,637
18	307	8,917	413	46	566	5	0	1,451	176	1,627	0	1	11,575	39	1,579	61	4,472	12	605	5	511	117	7,167	11,252	-	11,481	29,900	41,475
19	308	7,651	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	10,448	-	13,497	30,320	40,632
20	306	6,785	386	54	474	37	0	1,122	177	1,299	0	2	9,037	33	1,364	56	3,241	6	543	2	54	97	5,202	10,352	-	12,580	28,134	37,171
21	307	7,608	357	71	661	38	1	1,330	325	1,655	1	2	10,394	33	1,397	69	4,892	15	828	5	454	122	7,571	11,042	-	13,422	32,035	42,429
22	306	6,631	307	53	634	40	4	1,308	265	1,573	2	0	9,244	31	1,420	54	3,596	10	512	6	280	101	5,808	8,795	-	11,207	25,810	35,054
23	309	4,552	218	79	784	71	4	766	316	1,082	6	7	6,803	30	1,471	62	3,548	10	751	5	503	107	6,273	9,043	-	17,412	32,728	39,531
24	308	4,675	184	52	598	0	1	254	44	298	0	0	5,808	34	1,783	53	3,641	5	154	5	403	97	5,981	9,602	2,706	18,448	36,737	42,545
25	307	5,148	195	55	585	32	8	-	-	-	-	-	6,023	28	1,332	52	3,017	3	218	3	194	86	4,761	10,356	2,875	19,140	37,132	43,155
26	306	3,884	237	38	844	157	4	-	-	-	-	-	5,164	24	1,273	56	3,212	6	220	7	406	93	5,111	8,277	3,343	16,650	32,781	37,945
27	292	4,200	197	47	1,721	84	19	-	-	-	-	-	6,268	19	1,137	56	3,115	0	0	1	37	76	4,289	8,774	4,860	20,235	38,158	44,426
28	308	4,809	178	45	1,753	19	12	-	-	-	-	-	6,816	26	937	58	2,852	3	91	1	25	88	3,905	15,409	6,112	36,211	61,637	68,453
29	308	3,673	177	49	1,653	112	3	-	-	-	-	-	5,667	32	1,274	63	3,102	3	189	7	299	105	4,864	9,204	4,498	19,915	38,481	44,148
30	308	3,636	164	45	1,785	48	12	-	-	-	-	-	5,690	41	1,519	77	3,364	3	138	2	20	123	5,041	7,818	4,778	20,184	37,821	43,511
元	307	4,098	131	56	1,896	140	21	-	-	-	-	-	6,342	22	1,095	107	4,311	0	0	5	77	134	5,483	8,960	5,128	23,897	43,458	49,800
2	116	3,178	109	98	1,579	13	30	-	-	-	-	-	5,007	3	110	5	60	1	3	1	19	10	192	2,752	1,231	5,060	9,225	14,232
3	195	8,619	260	72	4,902	79	30	-	-	-	-	-	13,962	18	705	90	3,792	5	134	2	13	115	4,644	7,044	3,894	15,309	30,891	44,853
計	9,276	388,209	26,993	100,047	48,311	2,927	5,119	53,685	5,751	59,436	175	220	631,437	787	36,529	2,272	168,653	348	40,320	186	18,930	3,593	264,432	212,139	39,425	419,696	935,692	1,567,129

※平成24年9月より、高齢者（65歳以上）及び障がい者は、無料。

●総利用者数累計（平成2～令和3年度）

（単位：人）

年 度	常 設 展		常設展観覧者合計	企画展 観覧者	特別陳列 観覧者	移動展等	普及行事 参加者	その他	利用者総数
	有料観覧者	無料観覧者							
2年度	88,722	8,555	97,277	0	0	-	646	-	97,923
3年度	99,282	37,835	137,117	24,237	0	-	1,387	-	162,741
4年度	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712	-	1,718	-	110,655
5年度	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090	-	1,686	-	94,431
6年度	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165	-	2,843	-	77,913
7年度	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358	-	4,132	-	98,408
8年度	22,434	34,687	57,121	16,101	0	-	2,419	-	75,641
9年度	18,573	26,147	44,720	12,200	0	-	2,232	-	59,152
10年度	16,590	22,301	38,891	16,041	0	-	1,890	-	56,822
11年度	14,870	23,018	37,888	12,738	22,372	-	2,461	-	75,459
12年度	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850	-	4,513	1,561	79,471
13年度	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766	-	3,634	2,137	55,734
14年度	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15年度	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015	-	4,501	2,628	81,818
16年度	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	95,822
17年度	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	79,396
18年度	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	85,347
19年度	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	170,438
20年度	9,037	28,134	37,171	21,207	7,517	6,249	6,041	11,963	90,148
21年度	10,394	32,035	42,429	19,157	24,781	1,614	8,535	35,260	131,776
22年度	9,244	25,810	35,054	12,465	10,364	5,376	10,329	30,071	103,659
23年度	6,803	32,728	39,531	7,759	15,336	1,663	6,594	9,979	80,862
24年度	5,808	36,737	42,545	22,447	13,344	1,824	10,797	6,097	97,054
25年度	6,023	37,132	43,155	13,552	10,008	742	13,089	4,629	85,175
26年度	5,164	32,781	37,945	29,849	1,537	8,512	10,189	5,391	93,423
27年度	6,268	38,158	44,426	7,186	12,963	2,506	9,212	17,579	93,872
28年度	6,816	61,637	68,453	74,076	2,167	92,572	9,146	7,550	253,964
29年度	5,667	38,481	44,148	30,081	19,687	0	8,206	15,924	118,046
30年度	5,690	37,821	43,511	19,666	8,635	18,131</			

●特別陳列観覧者数累計（平成4～令和3年度）(単位：人)

展示会名	開催期間	開催 日数	観覧者 総数
第1回館藏品展	平 5. 2.16～ 3.21	29	6,712
掘ったてよ阿波	平 6. 2. 1～ 2.27	23	4,090
掘ったてよ阿波	平 7. 1.13～ 2. 5	21	3,165
第2回収藏品展	平 8. 2.16～ 3.17	27	5,358
第3回館藏品展 「自然コレクション」	平11. 7.17～ 8. 29	38	22,372
写生大会作品展	平12.12. 5～12.24	18	1,850
勝瑞時代 —細川・三好氏と阿波—	平13.10.25～11.25	32	5,766
丹波マンガン鑛山の記録 —在日コリアンの労働史—	平14. 6.25～ 7. 7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平15. 1.21～ 3. 2	36	4,655
知里幸恵生誕100年記念巡回展 自由の 天地を求めて—知里幸恵「アイヌ神謡曲 集」への道—	平15. 7.19～ 7.27	8	1,317
日本刀の美 —赤羽刀とその他の館藏品—	平16. 1.27～ 3. 7	35	8,698
収藏品展	平16. 6.18～ 7.19	28	5,703
ひまわり作品展	平16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平18. 1. 8～ 1.29	19	3,475
吉野川の渡し	平18. 2.18～ 3.19	26	3,848
旅と祈りの道—阿波の巡礼—	平19. 1.19～ 3.18	51	7,200
徳島城下町の世界	平20. 1.17～ 3. 2	40	5,168
空から見た徳島	平21. 1.27～ 3.15	42	7,517
蝶に魅せられて —愛好家たちのコレクション—	平21. 7.18～ 8.30	38	9,777
八万町の昔を探ろう	平21. 9.19～10. 4	14	1,886
マンダラ —チベット・ネパールの仏たち—	平21.12.12～平22. 2. 7	44	13,118
海を渡った人形と戦争の時代	平22. 7.17～ 9. 5	44	10,364
博物館の宝もの	平23. 7.15～ 9. 4	46	15,336
海からどんぶらこ—浜辺の漂着物—	平24. 4.27～ 6.10	39	12,642
阿波盆踊図屏風	平24. 9.25～10. 3	8	702
みんなの化石コレクション	平25.10.18～12. 1	39	10,008
国立公文書館所蔵資料展	平26. 3. 7～ 3.19	11	1,537
シュルズ	平27. 7.18～ 8.30	38	12,963
古代の彩り 徳島の朱	平28.12. 3～12.25	20	2,167
日本のアザラシと極地の動物たち	平29. 4.15～ 6.11	50	16,800
よみがえる、ふるさとの“たからもの” —大津波被災文化財の再生から未来へ—	平29.12.16～H30. 1.21	26	2,887
県指定有形文化財 青蓮院十一面観音菩薩 立像	平30. 9.21～ 9.30	9	2,664
ごっついで那賀川—博物館資料で見る那 賀川流域の自然と暮らし—	平30.10.13～11.18	37	5,971
ヒロシマ原爆展	令元. 7.10～ 7.30	18	5,731
博物館60周年記念展とくしまタイムト ラベル—過去・現在・未来—	令元.10. 5～11.10	31	6,364
「板東俘虜収容所」の世界展	令元.12.12～ 2. 1.19	28	2,498
八杵神社所蔵重要文化財 二品家政所下文—地域で伝えた文化財—	令 2. 3.26～ 4. 5	10	444
徳島まるづかみ展 第1期	令 2.11. 3～12. 3	27	3,488
徳島まるづかみ展—コミュニケーション で展示を楽しもう！—	令 3. 4.23～5.30 (4/29～5/5臨時休館)	26	1,888
合 計		1,091	240,545

●移動展観覧者数（平成14～令和3年度）(単位：人)

展示会名	開催期間	開催 日数	観覧者 総数
昆虫の世界（海陽町立博物館）	平14.10.26～11.24	26	1,328
日本画書展—江戸から昭和まで—（藍住町 歴史館藍の館）	平16.12. 2～12.27	26	898
戦争体験（藍住町立図書館）	平17. 8. 3～ 8.18	14	2,342
昆虫展（藍住町立図書館）	平17. 8.19～ 9.11	21	3,210
北アメリカの植物（松茂町立歴史民俗資料館）	平18. 2. 4～ 3. 5	26	1,867
海陽町の指定植物・北アメリカの植物（海 陽町立博物館）	平18. 7.22～ 8.27	32	481
牟岐大島の考古資料（牟岐町海の総合文化センター）	平19. 4.26～ 5.15	20	353
阿波の板碑（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平19. 6. 5～ 7.22	42	197
中世阿波の板碑（藍の館）	平19. 8. 2～ 8.27	24	4,540
くらしの中の藍染め（東かがわ市歴史民俗資料館）	平19.10.20～11.18	26	291
丹波恐竜フェスティバル（兵庫県立人と自 然の博物館）	平20. 5. 3～ 5. 5	3	4,339
和泉層群の化石（東かがわ市歴史民俗資料館）	平20. 7.19～ 8.31	38	523
海部郡の古代・中世（日和佐図書・資料館）	平20. 7.19～ 9. 7	44	431
那賀川平野の貝化石（阿南市立阿波公方・ 民俗資料館）	平20. 9.25～11. 9	41	956
達磨絵百態 横山天然の世界（藍の館）	平21. 4. 4～ 4.29	22	250
知らせる道具・広告（東かがわ市歴史民俗資料館）	平21. 7.18～ 8.31	39	425
浜辺の植物（海陽町立博物館）	平21. 7.25～8. 30	32	401
国会議事堂の石（阿南市立阿波公方・民俗資料館）	平21. 9.25～11. 5	36	318
世界の昆虫（吉野川市美郷ほたる館）	平21.11.21～平22. 1.25	52	220
「ジオプラザ阿南」那賀川流域と県南部地域 の化石展—化石が教えてくれるもの—（阿 南市科学センター）	平22. 7.17～ 8.15	26	1,431
「旅をするチョウ・アサギマダラと県南の トンボ展」（日和佐図書・資料館）	平22. 7.21～ 9. 5	41	820
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」① （貞光ゆうゆう館）	平22. 9.18～ 9.20	3	1,467
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」② （海陽町立博物館）	平22. 9.23～10. 3	10	360
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」③ （松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館）	平22.10. 9～10.17	8	1,242
空から見た徳島（日和佐図書資料館）	平23. 7.22～ 9.11	44	1,663
阿波の遠洋漁業（日和佐図書資料館）	平24. 9. 6～ 9.30	19	439
生物多様性大博覧会「徳島県の自然史」（郷土文化会館）	平25. 1.26～ 2. 7	2	1,385
立体写真でみる38年前の海部郡の海辺（日 和佐図書資料館）	平25. 7. 5～ 7.31	22	493
九州・五島行き—以西底曳き網漁業—（美 波町由岐公民館）	平25.10.25～11. 4	11	249
ミニ・アンモナイト展（アミコ）	平26. 4.15～ 5.13	28	8,512
空から見た徳島（佐那河内ネイチャーセンター）	平27. 7. 1～ 9.30	78	1,366
漂着物展（海陽町立博物館）	平27.10. 3～10.18	14	640
朱を考古学する（阿南市文化会館）	平27.12. 6～平28. 1. 6	26	500
「シカとカモシカ」パネル展（那賀町四季美谷温泉）	平28. 4.18～10. 9	175	8,012
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・ 酒井弥蔵 ×現代アーティスト・大久保英治」 展（つるぎ町織本屋）	平28.10. 1～10.31	30	320
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・ 酒井弥蔵 ×現代アーティスト・大久保英治」 展（鳴門市立図書館）	平28.11. 5～11.30	23	4,052
移動展：県障害者の集い（徳島市あわぎんホール）	平28.11.27	1	15
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・ 酒井弥蔵 ×現代アーティスト・大久保英治」 展（海陽町立博物館）	平28.12.10～平29. 1.22	33	282
阿南市ミニ展示会「阿南市の赤色顔料採掘遺跡」	平29. 1.14～ 2.26	35	320
「戦中・戦後の暮らし」（徳島県戦没者記念館）	平30. 7.16～ 8.15	21	1,463
かつうらの恐竜時代（勝浦町立図書館）	令元. 9.14～ 9.23	10	288
あわぎん恐竜時代展（阿波銀プラザ）	令 2. 1.10～ 1.29	20	6,263
勝浦恐竜月間「恐竜化石展」（勝浦町立図書館）	令 2. 8. 1～ 8.30	26	1,132
徳島まるづかみ展・東西編（美馬市立図書館）	令 2.12.18～令 3. 1.18	22	5,269
徳島まるづかみ展・県南編（海陽町立博物館）	令 3. 2. 9～ 3.14	30	574
合 計		1,322	71,927

●人権啓発展等観覧者数（平成4～令和3年度）

（単位：人）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
2000年度同和問題啓発展	平12. 8.26～ 9. 8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平13. 8. 4～ 8.12	8	1,290
〃 第2回	平13.12. 4～12. 9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平14. 7.27～ 8. 4	8	1,066
〃 第2回	平14.12. 3～12. 8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平15. 8. 2～ 8.10	8	1,414
〃 第2回	平15.12. 2～12. 7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平16. 8. 7～ 8.15	8	1,568
〃 第2回	平16.12. 7～12.12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平17. 8. 6～ 8.14	8	1,594
〃 第2回	平17.12. 6～12.11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平18. 8. 5～ 8.13	8	1,532
〃 第2回	平18.12. 5～12.10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平19.12. 4～12. 9	6	589
2008年度人権問題啓発展	平20.12. 2～12. 7	6	599
2009年度人権問題啓発展	平21.12. 1～12. 6	6	430
2010年度人権問題啓発展	平22.11.30～12. 5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平23.12. 6～12.11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平24.12. 4～12. 9	6	356
2013年度人権問題啓発展	平25.12. 4～12.10	6	341
2014年度人権問題啓発展	平26.12.10～12.16	6	315
2015年度人権問題啓発展	平27.12. 9～12.15	6	270
2016年度人権問題啓発展	平28.12. 9～12.15	6	244
2017年度人権問題啓発展	平29.12. 6～12.12	6	227
2018年度人権問題啓発展	平30.12. 5～12.11	6	382
2019年度人権問題啓発展	令元.12. 4～12.10	6	278
2020年度人権問題啓発展	令 2.12. 9～12.15	6	447
2021年度人権問題啓発展	令 3.12. 8～12.14	6	305
合計		186	20,286

●館内各種展示観覧者数（平成28～令和2年度）

（単位：人）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
連携展示「阿波の道を歩く芭蕉をめぐった男・酒井弥蔵 ×現代アーティスト・大久保英治」展	平28. 7.20～ 8.28	36	56,984
ロビー展示「植物化石」	平28. 9. 1～平29. 2. 2	128	19,364
ロビー展示「植物標本」	平29.12. 5～平30. 3.31	75	5,906
ロビー展示「博物館の催し物」	平30. 4. 1～ 7. 4	82	7,597
ロビー展示「写真で見る地層」	平30.10.25～平31. 2.22	98	9,071
ロビー展示「写真で見る徳島の遺跡①」	令元. 5. 8～ 9. 3	102	13,231
ロビー展示「写真で見る徳島の遺跡②」	令 2. 2.27～ ( 3.31)	29	1,593
ロビー展示「写真で見る徳島の遺跡③」	令 2. 4. 1～10. 4	146	10,850
ロビー展示「草木染め」	令 2.10. 6～11. 1	24	1,297
ロビー展示「馬型はにわ」	令 2.10.20～11.22	30	1,791
ロビー展示「徳島まるづかみ展・県央編 第2期」	令 2.12. 1～(令 3. 3.31)	98	3,797
ロビー展示「徳島まるづかみ展・県央編 第2期」	令 3. 4. 1～ 4.25	22	812
合計		870	132,293

●その他（啓発展を除く共催事業）観覧・参加者数（平成15～令和3年度）

（単位：人）

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
21世紀館との共催事業（アイヌ工芸品展）	平15. 7.19～ 8. 31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平16. 7.30～ 8. 3	5	2,508
人形ウィーク	平17. 8.20～ 8.28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平18. 3.25～ 3.26	2	555
子どもの絵	平18. 4.29～ 5. 7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平18. 5. 5	1	950
日本古生物学会	平19. 2. 2～ 2. 3	2	325
パラタクソノミスト養成講座	平19. 2.17～ 2.18	2	26
第22回国民文化祭・とくしま2007	平19.10.27～11. 4	9	71,244
「天正の落日と曙光―守護町勝瑞から城下町徳島へ―」（徳島城博物館）	平19.12. 4～平20. 1.27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平20. 8. 3	1	42
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平20. 8. 9～ 8.10	2	1,192
2008年度鳴門史学会研究大会	平20.10.18	1	80
かんさい自然フェスタ2008（大阪市立自然史博物館）	平20.11.15～11.16	2	10,050
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平21. 8. 8～ 8. 9	2	1,212
スタジオジブリ・レイアウト展（21年度）	平22. 2.20～ 3.31	34	33,618
スタジオジブリ・レイアウト展（22年度）	平22. 4. 1～ 4.18	16	25,113
軌跡―継続と蓄積―	平22.10.23～11.23	27	4,165
「四国遍路と地域文化」を考える	平23. 2. 5	1	53
鳥居ミュージアムトーク	平23. 3.21	1	70
阿波踊りフェスタ「阿波踊りの絵はがき」	平23. 7.20～ 8.28	36	4,038
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平23. 8. 6～ 8. 7	2	1,612
鳥居龍蔵の歩いたアジアの自然	平23.10.29～12. 4	32	1,347
企画展「鳥居龍蔵の見た台湾」	平24. 1.28～ 3.11	38	2,599
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平24. 8. 4～ 8. 5	2	1,772
鳥居ミュージアムトーク	平24. 9.30	1	5
鳥居ミュージアムトーク	平24.11.25	1	27
特別陳列「鳥居龍蔵とアイヌ―北方のまなざし―」	平25. 1.26～ 3. 3	32	5,465
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平25. 8. 3～ 8. 4	2	1,751
特別講演「鳥居龍蔵が愛読した洋書―外国語・学問・文学―」	平25. 8.30	1	50
MT. 第1回「鳥居龍蔵の収集した絵はがきの世界」	平25. 9.29	1	14
MT. 第2回「鳥居龍蔵の沖縄調査に関わった人々」	平25.11.24	1	14
共催事業第63回四国中世史研究会	平25.12.22～12.23	2	47
MT. 第3回「鳥居龍蔵の鹿児島調査」	平26. 1.19	1	14
鳥居企画展「鳥居龍蔵の国内調査―沖縄・南九州―」	平26. 1.25～ 3. 2	32	1,753
第1回 MT.「鳥居龍蔵の宮崎・鹿児島での古墳調査」	平26. 6.15	1	9
第2回 MT.「鳥居龍蔵の諏訪地方調査―諏訪市とその周辺調査について―」	平26. 9.14	1	7
第3回 MT.「鳥居龍蔵の伊那地方調査」	平27.11.23	1	18
第4回 MT.「鳥居龍蔵の諏訪地方調査―岡谷市とその周辺調査について―」	平27. 1.17	1	5
鳥居企画展「よみがえる縄文世界―鳥居龍蔵の信州調査―」	平27. 1.24～ 3. 1	32	2,827
第1回 MT.「鳥居龍蔵の金海貝塚調査」	平27. 6.14	1	11
科学体験フェスティバル in 徳島（徳島大学）	平27. 8. 9～ 8.10	2	1,743
ufotable15周年展	平27. 9.26～10.12	25	8,180
第2回 MT.「鳥居龍蔵と仏教文化 ―中国・朝鮮・日本―」	平27.11.22	1	11
第3回 MT.「鳥居龍蔵と黒潮文化 ―沖縄調査より―」	平28. 1.17	1	26
鳥居企画展「鳥居龍蔵 ―世界に広がる知の遺産―」	平28. 1.23～ 2.28	32	1,831
開館5周年記念講演会「鳥居龍蔵の再発見―国内外の視点から―」	平28. 2.21	1	199



88 観覧者等統計

科学体験フェスティバル in 徳島 (徳島大学)	平28. 8. 6～ 8. 7	2	1,689
第1回 MT.「鳥居龍蔵の研究ライフ—その方法と人的交流—」	平28. 6.12	1	15
第2回 MT.「鳥居龍蔵の出会った南米の史跡—ブラジルとペルーを中心に—」	平28. 9.25	1	10
第3回 MT.「大正期の鳥居龍蔵と徳島—城山貝塚から勢見山「岩の鼻」へ—」	平28.11.13	1	24
鳥居企画展「遙かなるマチュピチュ—鳥居龍蔵、南アメリカを行く—」	平29. 1.28～ 3. 5	32	2,905
鳥居企画展 記念講演会「日本人によるアンデス考古学調査—鳥居龍蔵の思いを受けて—」	平29. 2. 5	1	51
徳島歴史文化フォーラム	平29. 2.19	1	126
特別陳列「古代の彩り 徳島の朱」関連 若杉山遺跡現地見学会	平29. 2.26	1	75
科学体験フェスティバル in 徳島 (徳島大学)	平29. 8. 5～ 8. 6	2	1,444
サイエンスフェア 2017「おもしろ博士の実験室」ブース出展 (あすたむらんど徳島)	平29.10.14～10.15	2	870
第1回 セミナー「あるブラジル移民の見た鳥居龍蔵の調査」	平29. 6.18	1	14
第2回 セミナー「鳥居龍蔵、世界の巨石建造物を探る」	平29. 7.17	1	31
第3回 セミナー「鳥居龍蔵のベストセラー『有史以前の日本』—日本人成立論をめぐって—」	平29. 9.18	1	28
第4回 セミナー「鳥居龍蔵、南方を探る—日本人の起源を求めて—」	平29.11.11	1	21
鳥居企画展「鳥居龍蔵—日本人の起源に迫る—一本山彦—との交流—」	平30. 2.10～ 3.18	32	1,746
平成 29 年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	平30. 2.18	1	146
鳥居企画展 記念講演会「日本人はどこから来たのか？」	平30. 3. 4	1	160
科学体験フェスティバル in 徳島 (徳島大学)	平30. 8.4～ 8. 5	2	1,522
サイエンスフェア 2018「おもしろ博士の実験室」ブース出展 (あすたむらんど徳島)	平30.11. 4	1	765
第1回 セミナー「鳥居龍蔵の近畿調査—日本人起源論との関係で—」	平30. 6.17	1	20
第2回 セミナー「明治時代から大正時代の自然人類学調査の一端—小金井良精の調査例から—」	平30. 7.16	1	20
第3回 セミナー「鳥居龍蔵、郷里を駆け回る」	平30. 9.17	1	35
第4回 セミナー「鳥居龍蔵の小学校在学歴—自伝・卒業証書・履歴書を読む—」	平30.11.25	1	17
鳥居企画展「鳥居龍蔵と小金井良精—日本人の起源を求めて—」	平31. 1.26～ 3. 3	32	1,830
平成 30 年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	平31. 2.17	1	86
鳥居企画展 記念講演会「骨が語る日本人の歴史」	平31. 2.24	1	75
科学体験フェスティバル in 徳島 (徳島大学)	令和. 8. 3～ 8. 4	2	1,764
第1回 セミナー「鳥居龍蔵と小金井良精—城山貝塚の調査をめぐって—」	令和. 6.16	1	35
第2回 セミナー「鳥居龍蔵と大洲巨石調査を検証する—当館所蔵の資料より—」	令和. 7.28	1	35
第3回 セミナー「龍蔵にとって城山貝塚は何だったのか」	令和. 8.25	1	36
第4回 セミナー「日本考古学史上における鳥居龍蔵の再評価—国内評価・研究を通して—」	令和. 9.16	1	33
第5回 セミナー「鳥居龍蔵の近畿調査」	令和.10.14	1	28
サイエンスフェア 2019「おもしろ博士の実験室」ブース出展 (あすたむらんど徳島)	令和.11. 4	1	709
第6回 セミナー「鳥居龍蔵の未刊原稿群とその周辺—中国からの引き揚げリストをめぐって—」	令和.11.24	1	25
第7回 セミナー「大正期の鳥居龍蔵と本山彦一」	令和.12.22	1	24
第8回 セミナー「鳥居龍蔵と阿波の巨石物—川内村史を中心に—」	令和. 2. 1.19	1	33
鳥居企画展「文化財調査の先覚者—鳥居龍蔵、徳島を探る—」	令和. 2. 2. 8～ 3.15	32	1,481

令和元年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	令和. 2. 2.16	1	76
第1回 セミナー「鳥居龍蔵と南方諸民族—異文化理解の試み—」	令和. 2. 9. 6	1	42
第2回 セミナー「鳥居龍蔵のブラジル調査を振り返る」	令和. 2. 9.27	1	38
第3回 セミナー「鳥居龍蔵の第5回台湾調査の意味するもの—明治末期の日本と台湾を考える—」	令和. 2.10.18	1	26
第4回 セミナー「城山貝塚発掘の影響—住吉派画家・須木一胤の残した手帳から—」	令和. 2.11. 8	1	17
第5回 セミナー「西洋世界と鳥居龍蔵」	令和. 2.12.13	1	28
第6回 セミナー「武蔵野会の設立と東京府下の史跡保護運動」	令和. 3. 1.17	1	28
鳥居企画展 「鳥居龍蔵の学問と世界」	令和. 3. 2.13～ 3.21	32	546
鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	令和. 3. 2.21	1	90
鳥居龍蔵生誕 150 周年記念 国際シンポジウム「鳥居龍蔵と現代社会—その学問と資料の意義を問う—」	令和. 3. 3.21	1	100
鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	令和. 4. 2.26	1	50
鳥居企画展 「鳥居龍蔵と草原の遊牧王朝—遼—」	令和. 4. 2. 5～ 3.13	32	783
鳥居企画展 「鳥居龍蔵と草原の遊牧王朝—遼—」記念講演	令和. 4. 3.13	1	52
合計		727	215,871

# Ⅵ 施設の概要

## 1. 沿革

昭和 34 年 12 月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館 30 年史」参照）
昭和 55 年 1 月	文化の森構想発表
4 月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和 56 年 2 月	文化の森懇話会報告書提出
昭和 57 年 3 月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12 月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和 58 年 3 月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和 59 年 1 月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4 月	美術品等取得基金設置
5 月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和 60 年 8 月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国プラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和 61 年 3 月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和 62 年 3 月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8 月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和 63 年 7 月	博物館展示工事着手
平成 元年 4 月	旧博物館展示室閉室
12 月	博物館・近代美術館・二十一世紀館棟本体工事竣工
平成 2 年 3 月	旧博物館閉鎖
4 月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、教育委員会所管のもと、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10 月	博物館展示工事竣工
11 月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成 3 年 2 月	博物館資料収集委員会設置
平成 4 年 3 月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成 4 年 9 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の第 2 土曜日における常設展観覧料を免除
平成 5 年 3 月	徳島県教育委員会の博物館登録原簿に変更登録（旧博物館の登録 [昭和 35.6] を変更）
平成 7 年 4 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の第 4 土曜日における常設展観覧料を免除
平成 7 年 7 月～ 8 年 3 月	文化の森総合公園開園 5 周年記念事業「戦後 50 年をみつめて」を実施。博物館では、企画展「戦争から豊かな未来へ」を開催。また、博物館独自に開館 5 周年記念事業を実施
平成 8 年 4 月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施。また、博物館観覧料減免要綱の一部改正により、祝日・休日における常設展観覧料を免除
平成 8 年 12 月	重要文化財公開承認施設に認定される（5 年毎更新）
平成 12 年 10 月～ 11 月	文化の森総合公園開園 10 周年記念企画展「世紀末大博覧会」を開催

## 90 施設の概要

平成 14 年 4 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の土・日曜日、長期休業日における常設展・企画展観覧料、祝日・休日における企画展観覧料を免除。また、学校教育に係る企画展観覧料を免除
平成 15 年 7 月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される
平成 17 年 10 月～11 月	文化の森総合公園開園 15 周年記念企画展「ふるさと再発見—15 の人・もの・場所—」を開催
平成 22 年 4 月～23 年 3 月	文化の森総合公園開園 20 周年記念事業を実施。中核事業は、開園 20 周年記念展「軌跡—継続と蓄積—」や「文化の森サマーフェスティバル」「文化の森 大秋祭り!!」。博物館常設展示室の「リフレッシュ事業」を実施（一部の中・小テーマの更新など）
平成 24 年 9 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、満 65 歳以上の高齢者の常設展観覧料を免除。また、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳被交付者と介助者 1 名の常設展・企画展観覧料を免除
平成 25 年 3 月	博物館管理規則の一部改正により、12 月 28 日の開館を実施
平成 27 年 4 月～28 年 3 月	文化の森総合公園開園 25 周年記念事業「ヒトガタをめぐる冒険」を実施。博物館では、企画展「阿波木偶箱まわしの世界—門付け、大道芸—」などを開催。また、同じく記念事業「安全安心のモデル事業」の一環として、博物館常設展示室のフレッシュアップ（サインやパネルの更新、多言語解説の導入など）、収蔵庫の耐震対策を実施
平成 30 年 7 月	新常設展基本構想策定
平成 30 年 10 月～31 年 3 月	新常設展基本設計
平成 31 年 4 月～令和元年 10 月	新常設展実施設計
令和 2 年 3 月	新常設展構築業務着手
令和 2 年 4 月	教育委員会から知事部局に移管
令和 2 年 8 月	常設展示室閉室
令和 2 年 11 月	文化の森開園 30 周年記念共同企画展「文化遺産を後世に伝える—とくしまデジタルアーカイブ—」を開催
令和 3 年 7 月	新常設展構築業務完了
令和 3 年 8 月	新常設展オープン

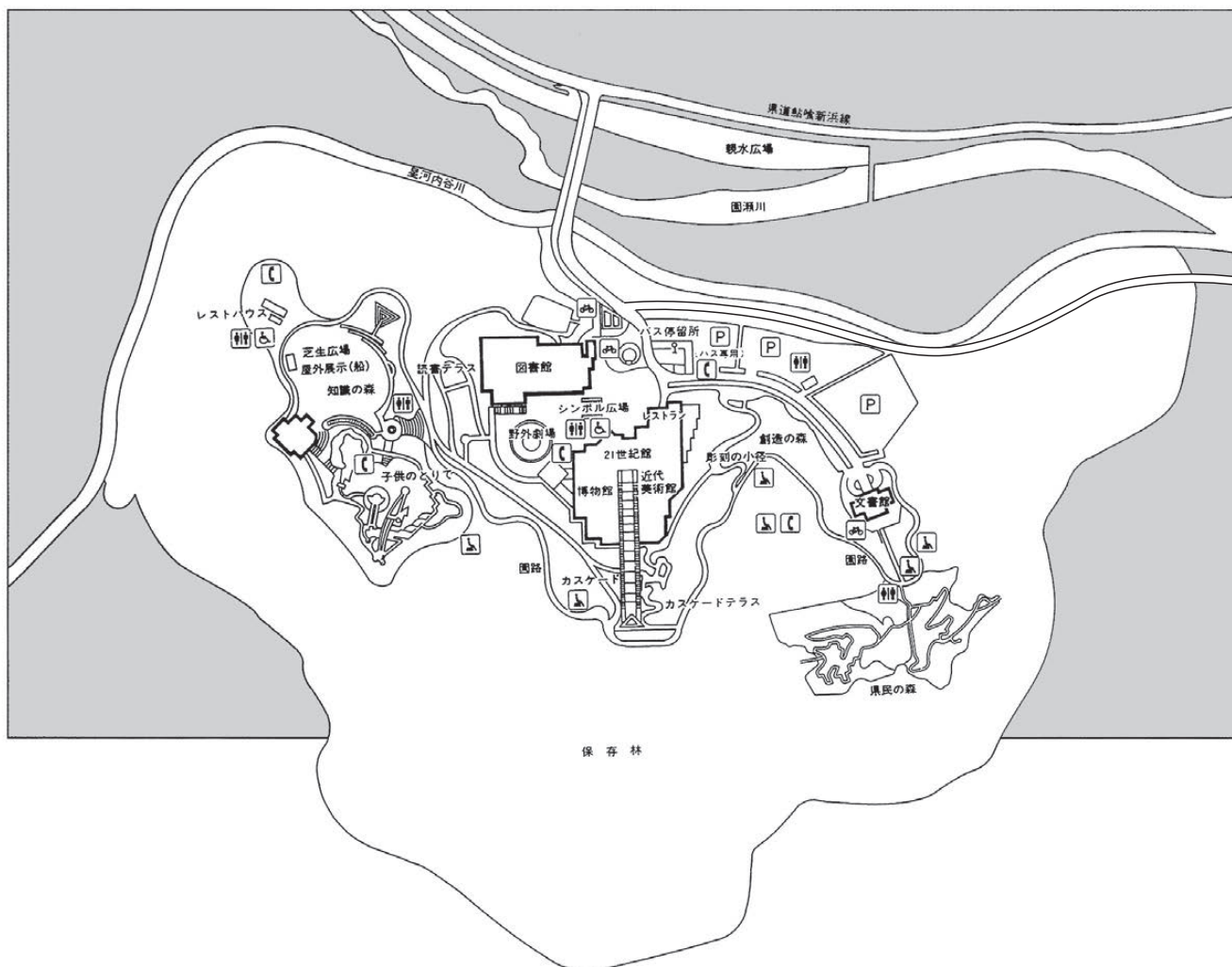
## 2. 施設の概要

●所在地	徳島市八万町向寺山
●敷地面積	40.6ha（文化の森総合公園全体）
●建築面積	8,363㎡（3 館棟）
●延床面積	22,382㎡（4 館合計—積層部分を含めると 23,814㎡） 8,063㎡（博物館占用スペース）
●構造規模	鉄筋鉄骨コンクリート造 地上 4 階・塔屋 1 階・地下 1 階
●設 計	(株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
●施 工	
建 築	大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
電 気	四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
空 調	東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
管	朝日工業社・大成設備 共同企業体
エレベータ	(株)東芝
家 具	富士ファニチア(株)

移動展示ケース…………… (株)三井  
 展 示…………… (株)丹青社

●新常設展

基本・実施設計…………… (株)乃村工藝社  
 展示製作…………… (株)乃村工藝社



### 3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
その他共用部分※	771
小計	1,973

3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室1	64
分析室2	48
X線撮影室	48
保存処理室2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

2 階	
室名	面積㎡
常設展示室	2,495
エレベーターホール	20
その他共用部分※	442
小計	2,957

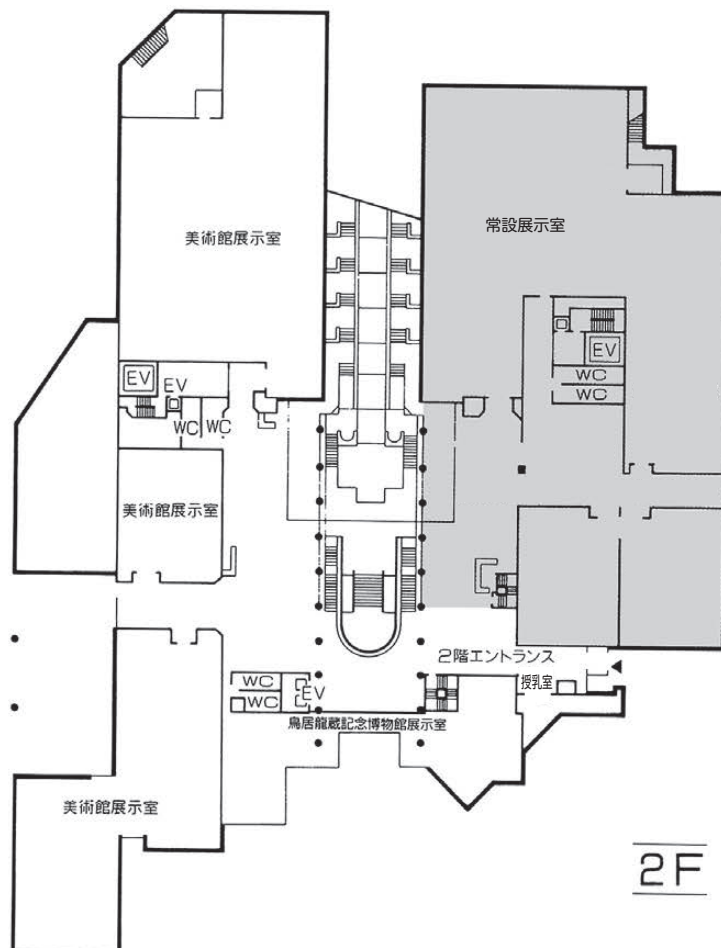
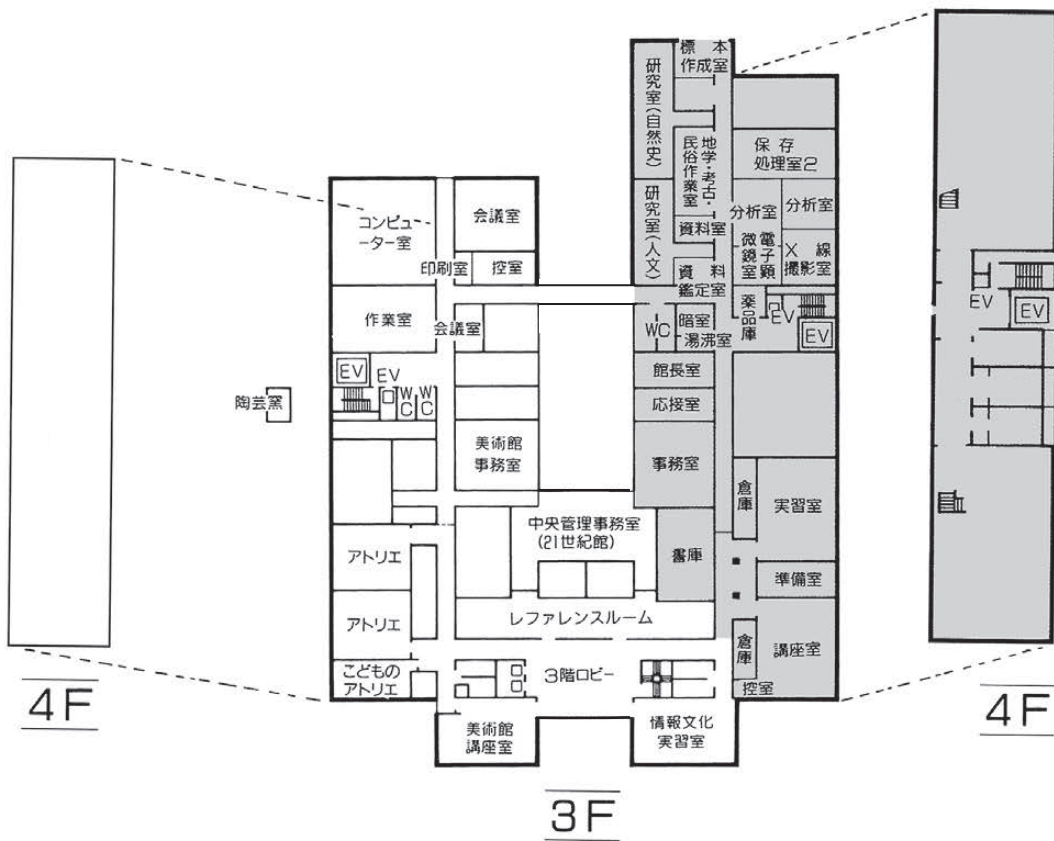
4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫1	37
特別収蔵庫2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

屋1階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

合計	
8,063㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館及び二十一世紀館との案分面積。





## XII 例 規

### ●徳島県文化の森総合公園文化施設条例（抜粋）

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号

最近改正 令和4年3月18日 徳島県条例第10号

（設置）

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

（名称及び業務）

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 （以下「博物館」という。）	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座などの教育普及事業を行うこと。 (4) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

（利用の許可）

第3条 次の表に掲げる文化施設の施設又は用具を利用しようとする者は、あらかじめ、知事の許可（以下「利用の許可」という。）を受けなければならない。

区 分	施設又は用具
博 物 館	博物館講座室
図 書 館 博 物 館 美 術 館 二十世紀館	情報通信技術を活用した集会等のための用具

（観覧料等）

第4条 博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 利用の許可を受けた者に対しては、別表第2に掲げる額の使用料を徴収する。

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

（損害の賠償）

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 知事の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

2 協議会は、委員10人以内で組織する。

3 徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。

4 (省略)

5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 委員は、再任されることができる。

7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

(規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区 分	単 位	金 額			
		常 設 展		企 画 展	
		個 人	団体 (20人以上をいう。以下同じ)	個 人	団 体
博物館資料	小・中学生	1人1回	100円	80円	知事とその都度定める額
	高校・大学生等	1人1回	200円	160円	
	一 般	1人1回	400円	320円	

(備考)

「小・中学生」とは小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者を、「高校・大学生等」とは高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者を、「一般」とは小・中学生及び高校・大学生等以外の者（学齢に達しない者を除く。）をいう。

別表第2 (第4条関係)

区 分	単 位	金 額
博物館講座室	午 前	2,200円
	午 後	3,550円
音響、照明等及び情報通信技術を活用した集会等のための用具	午前、午後又は夜間（集会室1、集会室2、博物館講座室及び美術館講座室にあっては、午前又は午後）	規則で定める額

(備考)

1 「午前」とは午前9時30分から正午までを、「午後」とは午後1時から午後5時までを、「夜間」とは午後6時



から午後9時までをいう。

- 2 午前から午後まで、午後から夜間まで又は午前から夜間まで引き続き利用する場合の使用料の額は、この表の区分に応じたそれぞれの使用料の額を加えて得た額とする。
- 3 営利又は営業のための宣伝その他これらに類する目的で利用する場合の集会室1、集会室2、博物館講座室、ギャラリー、美術館講座室、イベントホール、多目的活動室、ミニシアター、スタジオ、ミーティングルーム又は野外劇場の使用料の額は、この表及び前項の規定にかかわらず、同表の区分に応じた使用料の額又は同項の規定により算出した使用料の額に百分の五百を乗じて得た額とする。

## ●徳島県立博物館管理規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第46号

最近改正 令和4年3月18日 徳島県規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
  - (2) 12月29日から翌年の1月4日までの日
- 2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

- 2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(用具)

第4条 博物館の情報通信技術を活用した集会等のための用具は、別表のとおりとする。

(利用の許可の申請等)

第5条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。）第3条の許可（以下「利用の許可」という。）を受けようとする者は、徳島県立博物館利用許可申請書（別記様式）を知事に提出しなければならない。

- 2 前項の申請書は、利用しようとする日（その日が引き続き2日以上に及ぶときは、その初日。）の前日から起算して3月前の日以後に提出するものとする。ただし、知事が相当の理由があると認めるときは、この限りでない。
- 3 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可をしないものとする。
  - (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
  - (2) その他博物館の管理上支障があると認められるとき。

(利用の許可等の通知)

第6条 知事は、前条第1項の申請書を受理したときは、利用の許可をするかどうかを決定し、その旨を当該申請者に通知するものとする。

(利用の許可の取消し等)

第7条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、当該利用の許可を取り消し、又は施設等の利用の中止を命ずることができる。

- (1) 第4条第3項各号のいずれかに該当する理由が生じたとき。
- (2) 利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）が利用の許可に付した条件に違反したとき。
- (3) 利用者が偽りその他不正な手段により利用の許可を受けた事実が明らかとなったとき。
- (4) 利用者が条例又はこの規則の規定に違反したとき。

(利用の内容の変更等)

第8条 利用者は、施設を利用できなくなったとき、又は利用の許可の内容を変更して施設等を利用しようとするときは、直ちにその旨を文書で知事に届け出なければならない。

(遵守事項)

第9条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに知事が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第10条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第11条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、知事の承認を受けなければならない。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、知事が別に定める。

別表（第4条関係）

1	プロジェクター
2	パーソナルコンピューター
3	タブレット
4	ウェブカメラ
5	マイクスピーカー
6	ディスプレイ

別記様式 省略

## ●徳島県立博物館協議会規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第40号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第7項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

## ●徳島県行政組織規則（抜粋）

制 定 昭和 42 年 3 月 28 日 徳島県規則第 15 号  
最近改正 令和 4 年 3 月 31 日 徳島県規則第 30 号

第 1 章 総 則（省略）

第 2 章 事務部局（省略）

第 3 節 センター等〔博物館に係る内容のみ〕

第 1 款 設置等

（法令又は条例の規定により設置されたセンター等の名称等）

第 34 条 前条第 1 項に規定する機関のほか、次の表の上欄に掲げる部に、それぞれ同表の下欄に掲げる機関を設置する。

部及び局	機 関		
	名 称	設置の目的又は根拠法令	位 置
未来創生文化部	徳島県文化の森振興センター	徳島県文化の森総合公園文化施設の運営を総合的に推進するため	徳島市八万町

2 次の表の上欄に掲げる機関については、それぞれ同表の下欄に掲げる法令又は条例の規定により設置された機関を当該上欄に掲げる機関を構成する機関とする。

機 関	法令又は条例の規定により設置された機関		
	名 称	位 置	所管区域
徳島県文化の森振興センター	徳島県立博物館（以下「博物館」という。）	徳島市八万町	

第 2 款 内部組織及び分掌事務

（分掌事務）

第 36 条 センター等の分掌事務は、別表第 6 に掲げるとおりとする。

第 3 款 職及び職務

（所長）

第 38 条 センター等に所長（（省略）図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館（省略）にあつてはそれぞれの機関の名称を冠した長（省略）。以下この款において「所長」という。）を置く。

2 所長は、上司の命を受け、当該機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

（副所長等）

第 39 条 前条に規定する職のほか、次の表の上欄に掲げる職をそれぞれ同表の下欄に掲げる機関に置く。

職	機 関
副 館 長	(1)図書館 (2)博物館 (3)美術館 (4)文書館 (5)二十一世紀館 (6)鳥居記念館

2 副所長、副校長、副館長及び副課長の職務は、上司の命を受け、所長を補佐するものとする。

（主幹等）

第 41 条 前 3 条に規定する職のほか、必要と認めるときは、次の表の上欄に掲げる職をセンター等又はセンター内課等に置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
課 長	上司の命を受け、センター等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務又は試験研究のうち高度の知識又は経験を必要とするものを処理する。
課 長 補 佐	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務に従事する。

上席学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験が必要とする事務に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識又は経験が必要とする資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
係 長	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の事務に関し命ぜられた事項を処理する。
学芸係長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主 席	上司の命を受け、特に命ぜられた相当の知識又は経験が必要とする事務に従事する。
主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験が必要とする事務又は試験研究の業務に従事する。

(主任主事等)

第42条 第38条から前条までに規定する職のほか、センター等又はセンター内課等に、別表第4の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

### 第3章 附属機関

第57条 附属機関の名称及び庶務を担当する組織は、別表第8に掲げるとおりとする。

#### 別表第4 主任主事等の職及び職務

職	職 務
主任主事	上司の命を受け、相当の経験が必要とする事務に従事する。
主 事	上司の命を受け、事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験が必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。

#### 別表第6 センター等の分掌事務

センター等	分 掌 事 務
博 物 館	(1)考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料(鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。 (2)博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3)博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4)考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5)その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

#### 別表第8 附属機関の名称及び庶務を担当する組織

	名 称	庶務を担当する組織
70	徳島県立博物館協議会	博物館

## 徳島県立博物館年報 第31号（令和3年度）

---

令和4（2022）年7月31日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

（文化の森総合公園）

TEL (088) 668-3636 FAX (088) 668-7197

E-mail [museum@bunmori.tokushima.jp](mailto:museum@bunmori.tokushima.jp)

ホームページ <https://museum.bunmori.tokushima.jp>

印 刷：グランド印刷株式会社

---